

Device Setup

ユーザーガイド

富士フィルムビジネスイノベーションに対するご意見、ご相談などは、お客様相談センターにご連絡ください。

フリーダイヤル 0120-27-4100

フリーダイヤル受付時間：土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く 9～12 時、13～17 時

フリーダイヤルは、海外からはご利用になれません。また、一部の IP 電話からはつながらないことがあります。

お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただく場合があります。

インターネットホームページで商品情報を提供しています。アクセス先は、<https://www.fujifilm.com/fb/> です。

Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer、および Excel は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他の社名、または商品名などは、各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Xerox、Xerox ロゴ、Fuji Xerox ロゴ、CentreWare、および DocuCentre は、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">①このマニュアルの編集、変更、または無断で転載はしないでください。②このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。③このマニュアルに記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。 |
|--|

本マニュアルは、富士ゼロックス株式会社が過去に販売した次の機種にも適合する Device Setup の説明を含みます。

適合機種名は、弊社公式サイトを参照してください。

https://www.fujifilm.com/fb/product/software/aw_manage_suite/

本マニュアルは富士ゼロックスブランドの商品を含みます。富士ゼロックスブランドの商品は、米国ゼロックス社からライセンスを受けている商品です。

商品提供者は富士フイルムビジネスイノベーション株式会社です。

FUJIFILM、および FUJIFILM ロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。

ApeosPort、ApeosWare および DocuWorks は、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

もくじ

もくじ.....	3
本書の表記.....	7

1 Device Setup の概要

Device Setup とは	8
Device Setup の特長	9
Device Setup の機能	12
作業の流れ	17

2 Device Setup をインストールする前に

必要なシステム環境	18
ネットワーク環境	18
機器と接続するために必要な準備	19
機器の情報を確認する	19
機器の設定を確認する	19
機器との SOAP 通信に SSL を使用する場合について	20

3 Device Setup をインストールする

Device Setup を新規にインストールする	21
Device Setup を修正インストールする	24
Device Setup をアンインストールする	25

4 Device Setup を起動する

Device Setup を起動する	26
Device Setup を起動する	26
電子マニュアルを参照する	27
Device Setup の構成	27
ツリービュー	27
リストビュー	28

5 Device Setup に機器を登録する

作業の流れ（機器を登録するまで）	30
機器がすでに設置されている場合	30
機器が未設置の場合	31

Device Setup に機器を登録する	32
機器を登録する	32
機器との通信方法を設定する	37
機器から属性値を取得する	38
基本情報を設定する	39
基本情報サービスについて	39
機器の情報を設定する	39
親展ボックスを設定する	44
親展ボックスサービスについて	44
機器に親展ボックスを設定する	45
親展ボックスを一括作成する	47
親展ボックスを使用する	52
宛先表を設定する	52
宛先表サービスについて	52
機器に宛先表を設定する	53
宛先表を書き出す・読み込む	55
宛先を一括作成する	59
宛先グループを設定する	63
機器に宛先グループを設定する	63
宛先グループを書き出す・読み込む	66
宛先グループを一括作成する	68
アドレス帳を設定する	70
アドレス帳サービスについて	70
機器にアドレス帳を設定する	70
アドレス帳を書き出す・読み込む	73
アドレス帳を一括作成する	77
アドレスグループを設定する	80
機器にアドレスグループを設定する	80
アドレスグループを書き出す・読み込む	82
アドレスグループを一括作成する	85
コメントを設定する	87
機器にコメントを設定する	87
コメントを書き出す・読み込む	89
コメントを一括作成する	91
ボックスセクターを設定する	93
機器にボックスセクターを設定する	93
ボックスセクターを書き出す・読み込む	95
ボックスセクターを一括作成する	98
設定内容を機器に反映する	100

6 Device Setup の設定情報を書き出す / 読み込む

設定情報をファイルに書き出す	102
設定情報ファイルの拡張子とファイル名	102
設定情報をファイルに書き出す	103
設定情報ファイルを Device Setup に読み込む	103
設定情報ファイルを Device Setup に読み込む	104

7 機器の使用を制限する / 使用状況を確認する

機器へのアクセスを制限する	105
アクセス制限サービスについて	105
認証・集計の種類について	106
利用制限を設定する	108
利用制限を一括作成する	113
機器の使用状況を確認する	118
機器側に必要な条件	118
集計データ分析サービスで作成できるグラフ・一覧表の種類	118
機器から集計データを収集する	119
集計データをグラフで表示する	119

8 ジョブフローを利用する

ジョブフローとは	121
ジョブフローの種類	121
ジョブフローエディターについて	122
ジョブフローの例	123
スキャンから始まるジョブフローを作成する	124
共有フォルダーを準備する	124
共有名、ユーザー名、コンピューター名を確認する	126
ジョブフローを作成する	128
ジョブフローを実行する	133
親展ボックスから始まるジョブフローを作成する	134
親展ボックスを準備する	134
FTP サーバーを準備する	135
ジョブフローを作成する	136
親展ボックスを設定する	140
ジョブフローを実行する	141
ジョブフローを一括作成する	141
作業の流れ	142
元になるジョブフローの種類を決める	143
差し込み情報ファイルを作成する	143
Device Setup で一括作成を実行する	146

ジョブフローについての補足事項	149
ジョブフローを利用できる機器	149
ジョブフローに追加できる機能アイテムの数	149
ジョブフローの逐次処理と並列処理	150
ジョブフローが正しく実行されなかった場合	151

付録

暗号化されたパスワードについて	152
暗号化されたパスワードを取得できる機種	152
取得できるパスワードの種類	152
パスワードの取得と設定	152
パスワードの編集	153
属性のコピーとパスワードについて	153
機種の変更とパスワードについて	154
秘密情報の暗号化キーを変更する	154
トラブルシューティング	156
Device Setup を起動できない	156
機器が見つからない	156
機器から属性値を取得・設定できない	157
基本情報サービスのトラブル	159
アクセス制限情報サービスのトラブル	159
親展ボックスサービスのトラブル	160
宛先表 / アドレス帳サービスのトラブル	161
ジョブフローサービスのトラブル	161
集計データ分析サービスのトラブル	164
用語集	166

本書の表記

説明する内容によって、次の記号を使用しています。



注記 必ず知っておいていただきたい情報、操作するときには必ず確認していただきたい情報を記載しています。



補足 操作の参考になる情報を記載しています。



参照 参照先を記載しています。

次の表記を使用しています。

- [] メッセージ、ファイル名、フォルダー名、入力値、入力例、および強調したい内容を表します。また、マニュアル内で参照する箇所を表します。
例：「XXX」と表示されます。
- [] コンピューターの画面に表示される項目を表します。また、ウィンドウ、メニュー、ダイアログボックス、タブ、ボタンを表します。
例：[OK] をクリックします。
- { } ドライブ名やユーザー名など、操作時に変わる値を表します。
例：対象機器の「{機種名}：{シリアル番号}（{IP アドレスまたはホスト名}）」が表示されます。
- > メニューや Web ページの階層を表します。
例：[スタート] > [プログラム] の順に選択します。

- Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。
- パーソナルコンピューターを「PC」と表記しています。

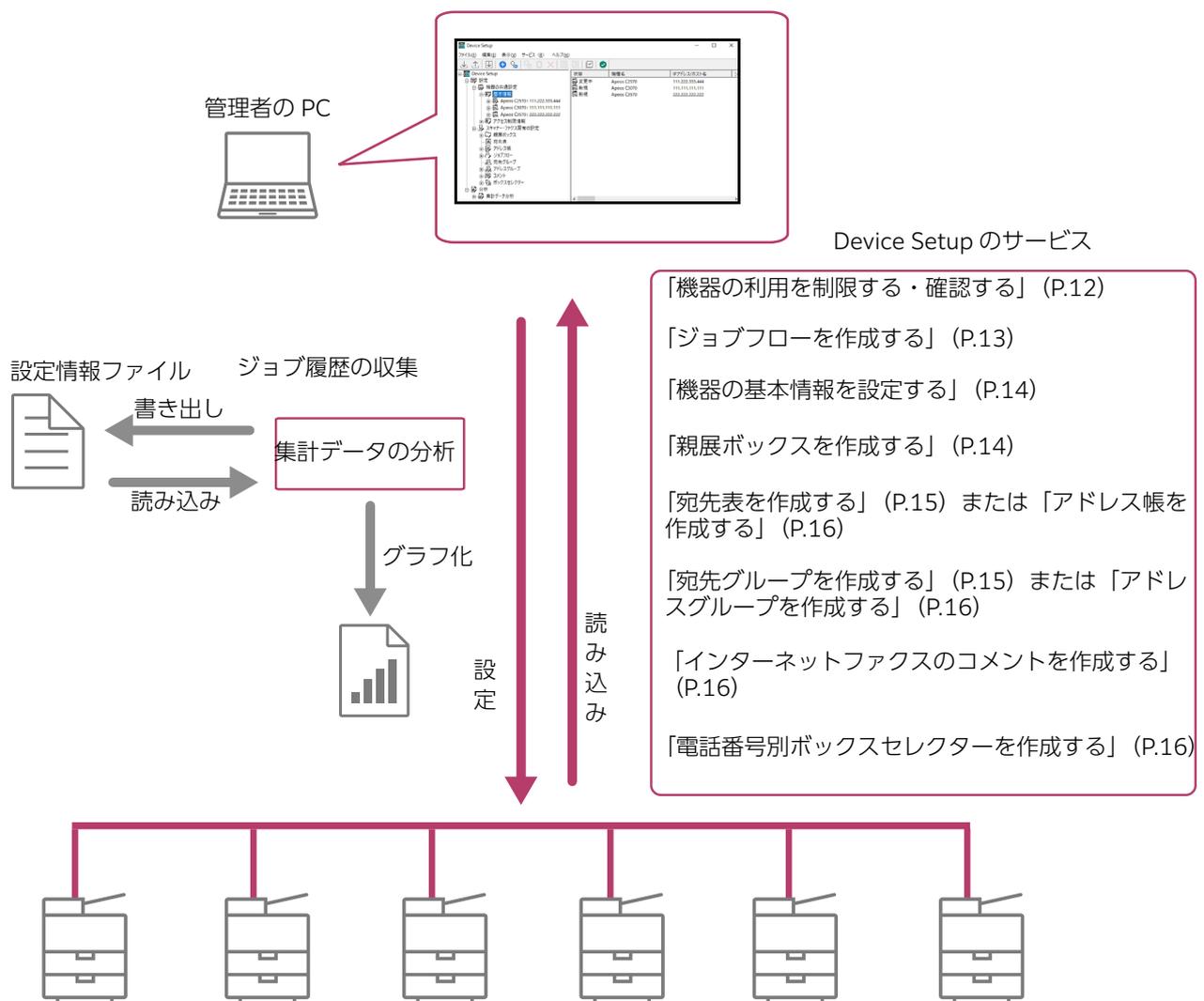
1 Device Setup の概要

Device Setup とは

ここでは、Device Setup の特長と主な機能について説明します。

Device Setup は、ネットワーク上にある複数の機器の状況を把握し、状況に応じて設定を変更したり、使用を制限したりできるソフトウェアです。Device Setup から提供される機器の管理機能を、サービスと呼びます。

Device Setup には、次のサービスがあります。



Device Setup の特長

Device Setup の特長は、次のとおりです。

- 機器の一覧表示・機器の一括設定
- オフラインでの設定変更作業
- 機器設置プランの作成
- 利用制限、親展ボックス、宛先表 / アドレス帳、ジョブフローなどの一括作成

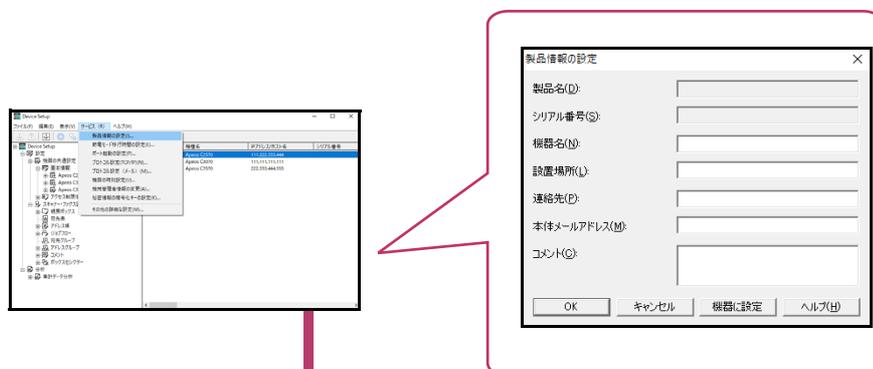
機器の一覧表示・機器の一括設定

機器が提供しているサービスの設定は、通常、機器の操作パネルで行います。

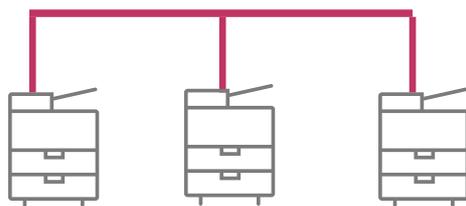
Device Setup は、PC 上で複数の機器を一覧して管理・設定するためのユーザーインターフェイスを提供しています。

複数の機器が持つ属性を一覧で確認したり、Device Setup のサービスごとの設定を複数の機器に一括で反映したりできます。これによって、管理作業を軽減できます。

属性とは、機器が持つ情報です。具体的には、機器の設定情報（起動しているポートや管理者情報など）や登録情報（ユーザー、親展ボックス、宛先表 / アドレス帳、ジョブフローなど）があります。



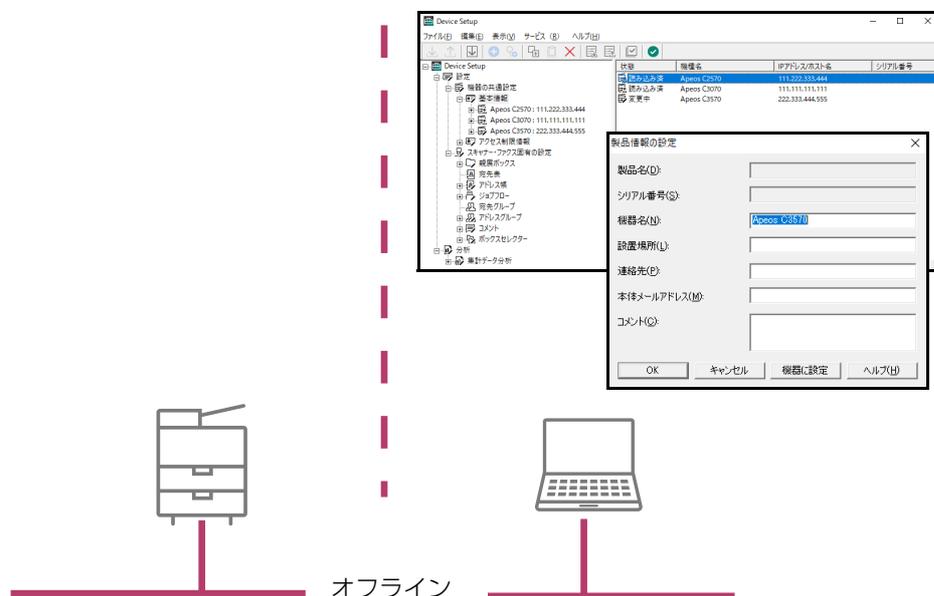
複数の機器を一度に選択・設定



オフラインでの設定変更作業

Device Setup が機器と通信（オンライン）するのは、現在の設定情報を機器から取得するときと、Device Setup で編集した情報を機器に設定するときだけです。Device Setup での作業中は、機器と通信しません。ほかのユーザーが機器を操作中の場合でも Device Setup で作業ができます。これによって、機器やネットワークの負荷を軽減できます。

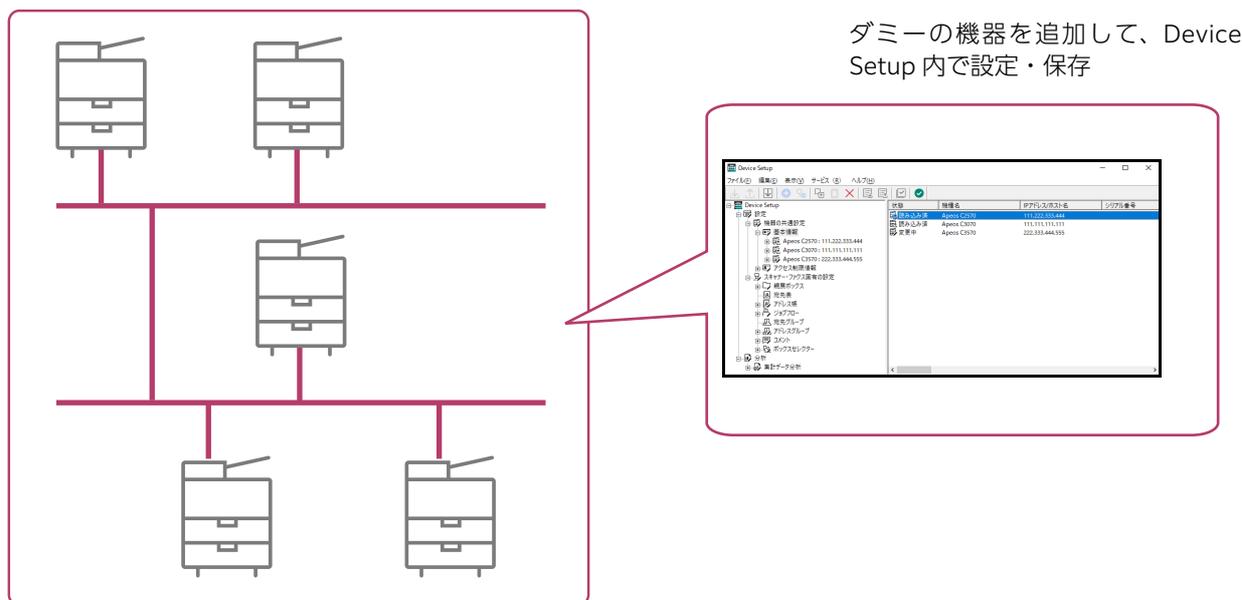
Device Setup 内で設定・保存



機器設置プランの作成

Device Setup では、実際に機器が存在しなくても、ダミー（架空）の機器を想定して機器の設定情報を作成し、ファイルに書き出せます。

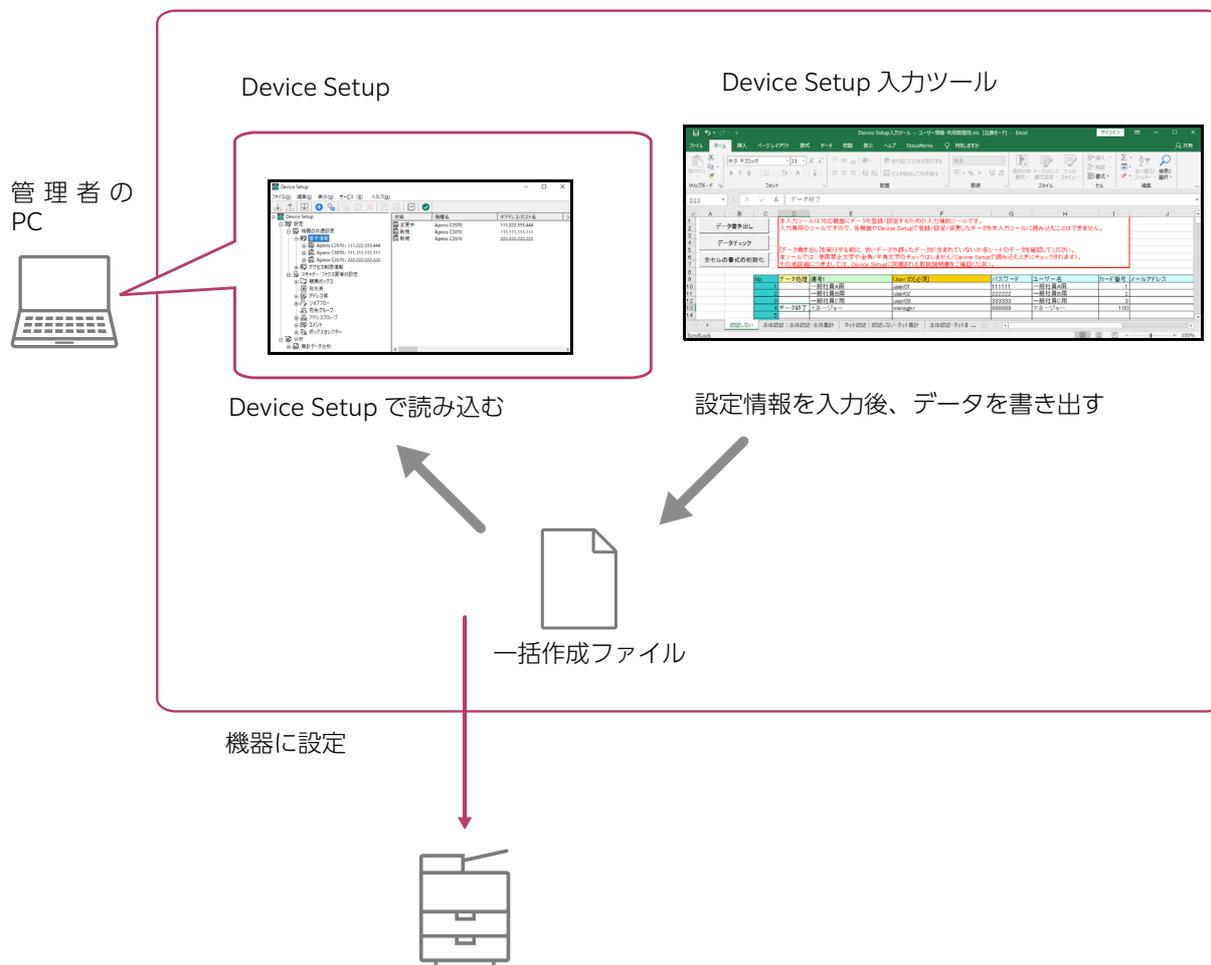
これによって、職場の拠点移動や、配置の変更などで機器を移動した場合でも、一括で機器に情報を設定できます。



各サービスの情報の一括作成

Device Setup では、ユーザー情報やユーザーの利用制限、親展ボックス、宛先表 / アドレス帳、宛先グループ / アドレスグループ、ボックスセレクター、コメント、およびジョブフローについて、一度に複数の情報を編集し、1 台の機器に設定できます。

この設定は、Microsoft Excel 形式の「Device Setup 入力ツール」で行います。「Device Setup 入力ツール」で、一括作成ファイルを作成し、Device Setup で読み込みます。



👓 参照

一括作成の方法については、「利用制限を一括作成する」(P.113)、「親展ボックスを一括作成する」(P.47)、「アドレス帳を一括作成する」(P.77)、「宛先を一括作成する」(P.59)、および「ジョブフローを一括作成する」(P.141)を参照してください。

Device Setup の機能

Device Setup の主な機能は、次のとおりです。

- 機器の利用制限・使用状況の確認
- ジョブフローの作成
- 機器の基本情報の設定
- 親展ボックス・宛先表 / アドレス帳・宛先グループ / アドレスグループ・インターネットファクスのコメント・電話番号別ボックスセクターの作成



機器の種類によって、対応しているサービスが異なります。Readme.txt を参照してください。

機器の利用を制限する・確認する

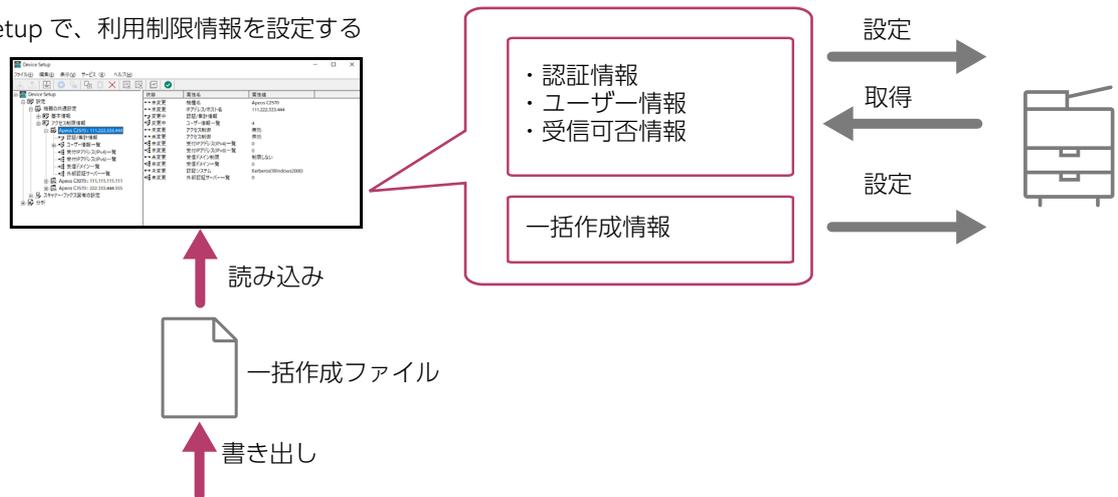
Device Setup では、機器の利用を制限・確認するサービスを提供します。

アクセス制限サービスについて

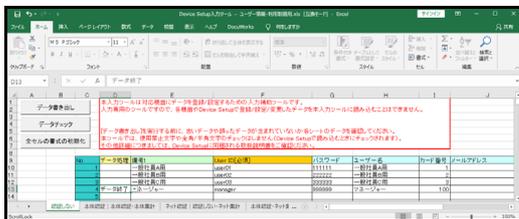
アクセス制限情報サービスは、機器の認証・集計についての設定をするサービスです。機器で、コピーしたページ数をカラーと白黒別に確認したり、カラーコピーやカラープリントができるユーザーを限定したりできます。また、機器への通信を許可する送信元 IP アドレスを設定したり、機器への通信を許可、または拒否するメールの送信元ドメインを設定したりできます。

さらに、「Device Setup 入力ツール」で、一度に複数のユーザー情報、およびユーザーの利用制限情報を作成し、Device Setup に設定できます。

Device Setup で、利用制限情報を設定する

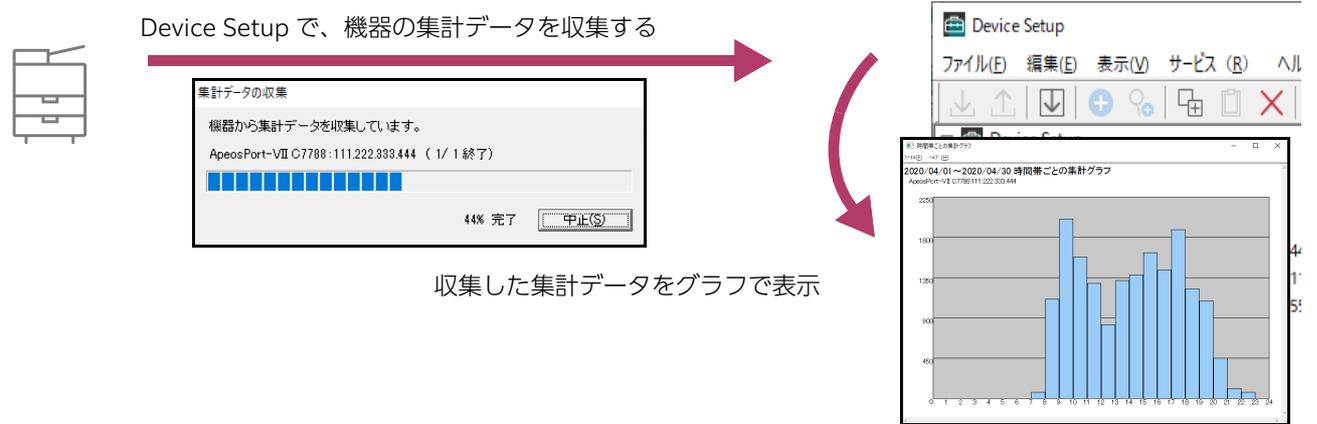


Device Setup 入力ツールに、利用制限情報を入力する



集計データ分析サービスについて

集計データ分析サービスは、機器のジョブ履歴を収集し、使用状況のグラフや一覧を作成するサービスです。



より詳細な機器データの管理・集計は、弊社製品の「ApeosWare Management Suite」で行えます。

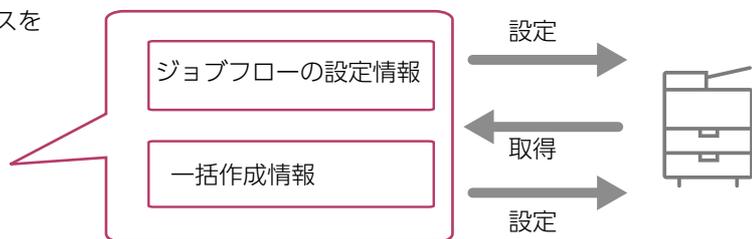
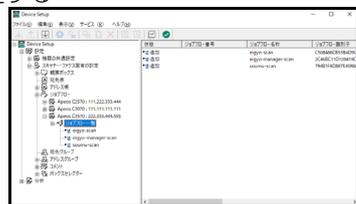
ジョブフローを作成する

ジョブフローとは、スキャン、プリント、メール送信、ファクス送信、ファイル転送などの、機器の処理（ジョブ）の流れを記述した情報です。

ジョブフローサービスは、ジョブフローの作成・編集・コピー・削除、ジョブフローの所有者の変更、ジョブフローのファイル書き出し・読み込みをします。

また、「Device Setup 入力ツール」で一度に複数のジョブフローの設定情報を作成し、Device Setup に設定できます。

Device Setup で、ジョブフローサービスを設定する



読み込み



一括作成ファイル

書き出し

Device Setup 入力ツールに、ジョブフロー設定情報を入力する

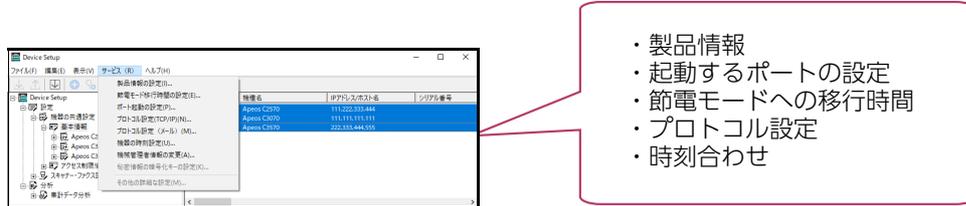


機器の基本情報を設定する

基本情報サービスは、製品情報、起動するポートの設定、節電モードへ移行する時間の設定、プロトコルの設定、および時刻合わせをするサービスです。

基本情報サービスで設定する属性には、複数の機器を選択して、一度に同じ設定にできるものが多く含まれています。この特長を利用すると、複数の機器を効率よく設定できます。

Device Setup の [基本情報] を展開し、リストビューで複数の機器を選択



複数の機器を一度に選択・設定



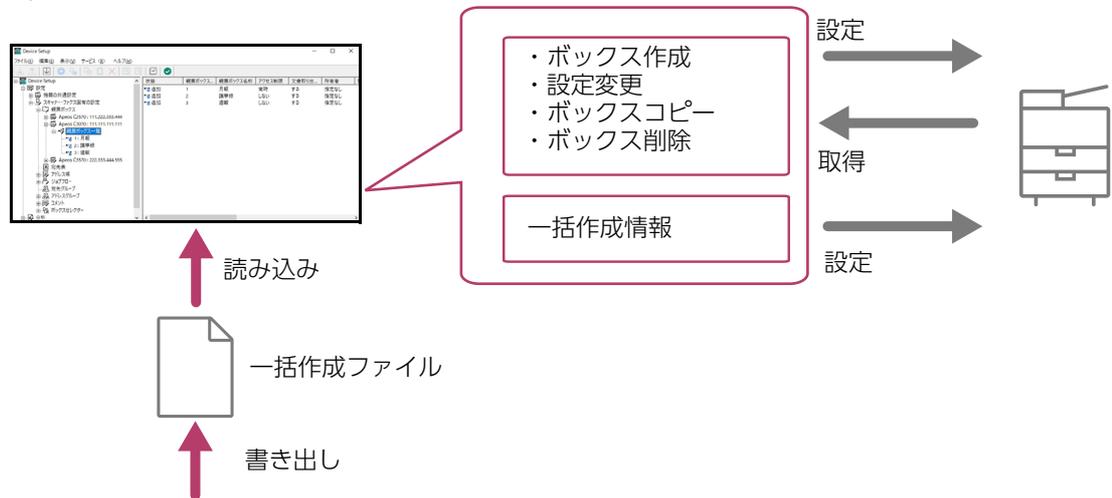
親展ボックスを作成する

親展ボックスとは、スキャン文書やファクス文書を保管するために、機器に備えられた蓄積領域です。

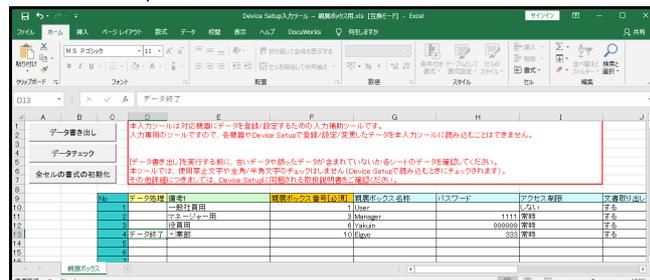
親展ボックスサービスは、親展ボックスを作成、設定変更、コピー、および削除して、機器に反映するサービスです。

また、「Device Setup 入力ツール」で、一度に複数の親展ボックスを作成し、Device Setup に設定できます。

Device Setup で、親展ボックス情報を設定する



Device Setup 入力ツールに、親展ボックス情報を入力する

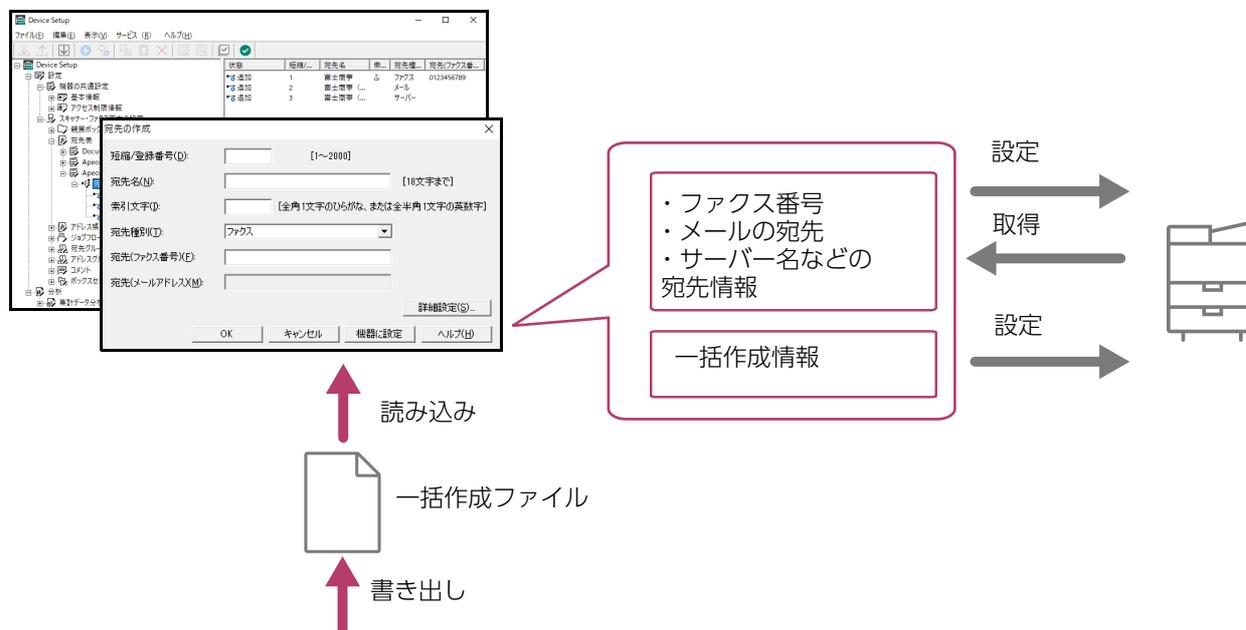


宛先表を作成する

宛先表サービスは、機器の宛先表を管理するサービスです。短縮 / 登録番号とその宛先を Device Setup で設定して、機器に反映できます。また、機器に設定されている宛先表を、Device Setup で読み込んで編集したり、他の機器に設定したりできます。

また、「Device Setup 入力ツール」で、一度に複数の宛先を作成し、Device Setup に設定できます。

Device Setup で、宛先表を作成する



Device Setup 入力ツールに、宛先情報を入力する

No.	短縮 / 登録番号	宛先名	宛先種類	宛先	宛先 (ファクス番号)	宛先 (メールアドレス)	内線 / 外線	接続
1	10	一般社員用	内線	1-111-1111			内線	
2	20	一般社員用	内線	1-111-2222			内線	
3	30	一般社員用	内線	1-111-3333			内線	
4	40	マネージャー用	内線	1-111-4444			内線	

宛先グループを作成する

機器の宛先グループを管理するサービスです。宛先グループには、最大 20 件の短縮番号を登録できます。最大 50 件の宛先グループを作成できます。

また、機器に設定されている宛先グループを、Device Setup で読み込んで編集したり、他の機器に設定したりできます。

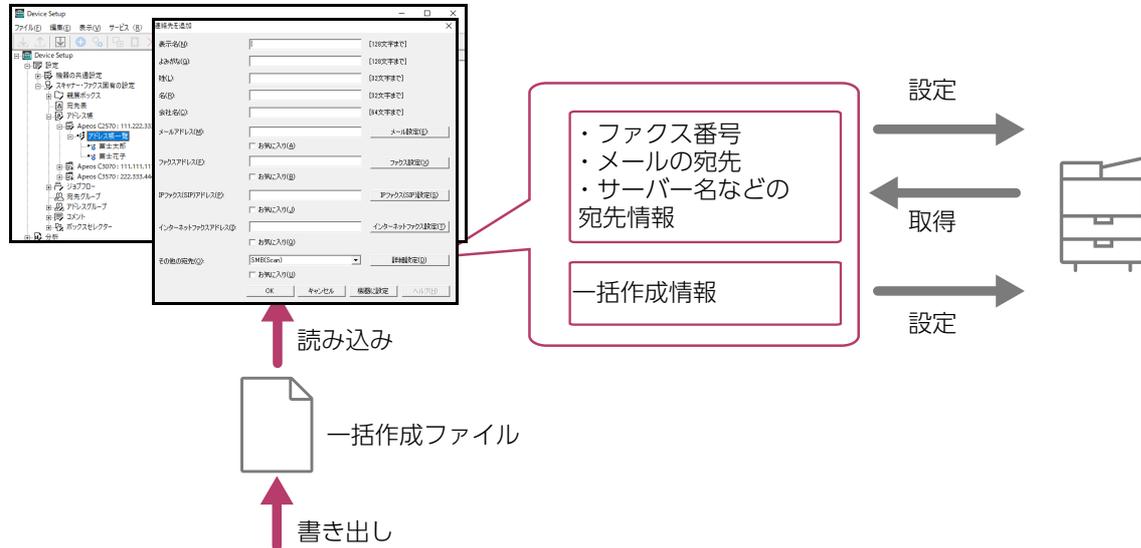
また、「Device Setup 入力ツール」で、一度に複数の宛先グループを作成し、Device Setup に設定できます。

アドレス帳を作成する

アドレス帳サービスは、機器のアドレス帳を管理するサービスです。Device Setup で設定した宛先名を機器に反映できます。また、機器に設定されているアドレス帳を、Device Setup で読み込んで編集したり、他の機器に設定したりできます。

また、「Device Setup 入力ツール」で、一度に複数の宛先を作成し、Device Setup に設定できます。

Device Setup で、アドレス帳を作成する



Device Setup 入力ツールに、アドレス帳情報を入力する



アドレスグループを作成する

機器のアドレスグループを管理するサービスです。

作成できるアドレスグループの数は、ファクスグループ最大 250 件、メールグループ最大 250 件です。

アドレスグループに登録できるメンバーの数は、ファクスグループ最大 600 件、メールグループ最大 100 件です。

また、機器に設定されているアドレスグループを、Device Setup で読み込んで編集したり、他の機器に設定したりできます。

また、「Device Setup 入力ツール」で、一度に複数のアドレスグループを作成し、Device Setup に設定できます。

インターネットファクスのコメントを作成する

インターネットファクスの送信シートに使用するコメントを、最大 50 件まで登録できます。

また、「Device Setup 入力ツール」で、一度に複数のコメントを作成し、Device Setup に設定できます。

電話番号別ボックスセクターを作成する

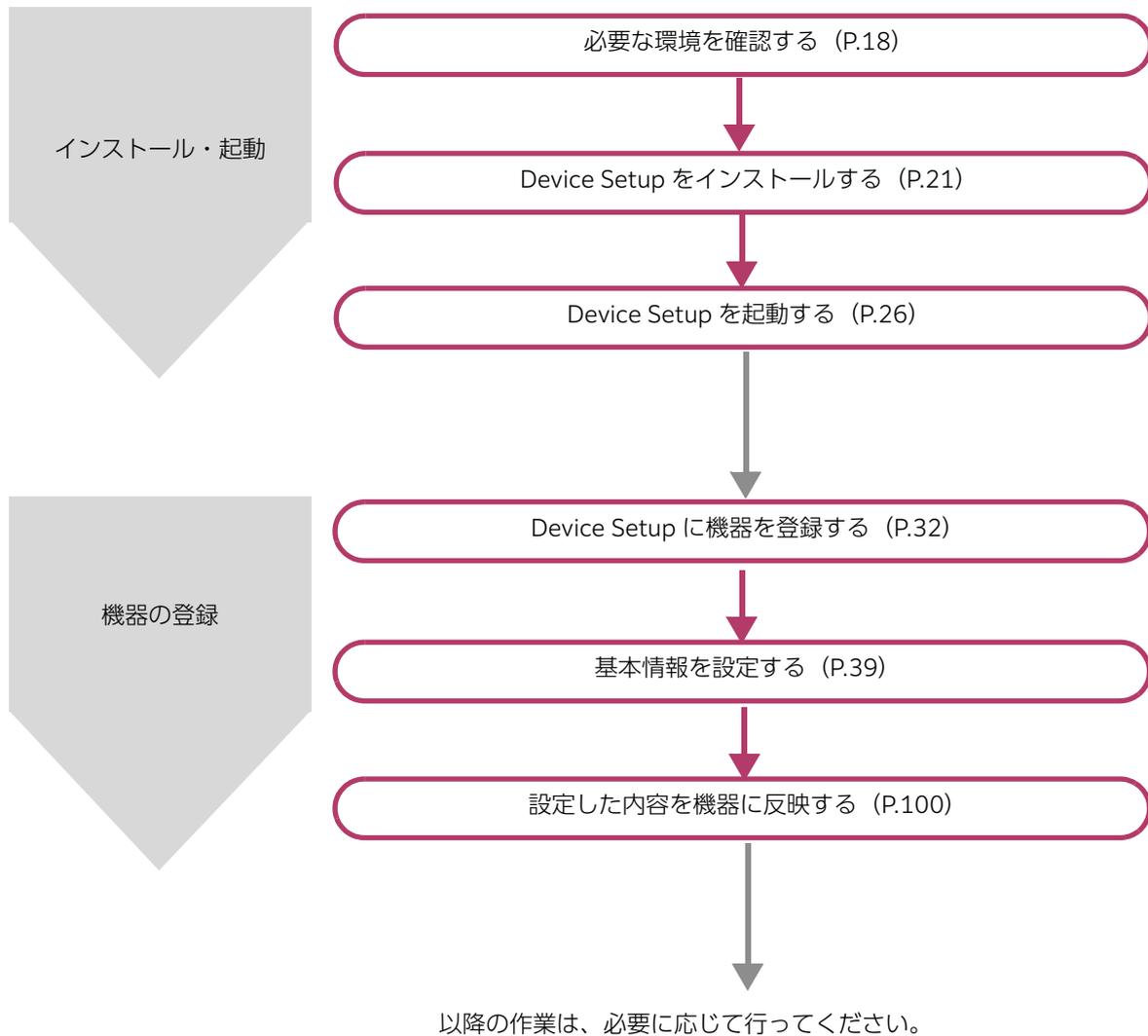
受信したファクスの文書を、相手の電話番号の種類と電話番号ごとに親展ボックスに振り分けるサービスです。

リモート ID は、相手局から通知された G3ID です。

また、「Device Setup 入力ツール」で、一度の複数のボックスセクターを作成し、Device Setup に設定できます。

作業の流れ

ここでは、Device Setup の作業の流れについて説明します。



2 Device Setup をインストールする前に

必要なシステム環境

Device Setup を使用するために必要動作環境の最新の情報については、弊社公式サイトをご覧ください。

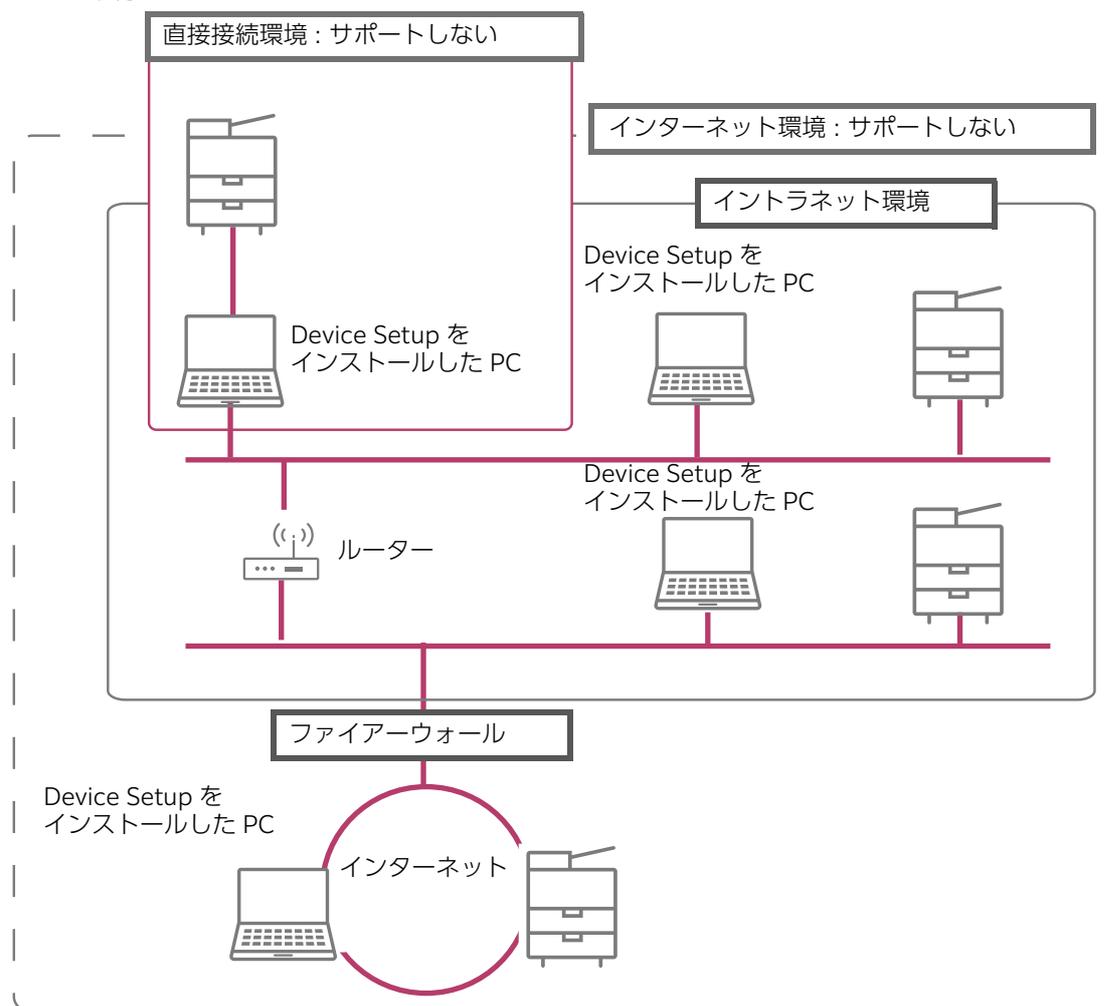
ネットワーク環境

ここでは、Device Setup が機器に接続できるネットワーク環境について説明します。

- イン트라ネット環境



シリアル、パラレル、USB などの PC と直接接続している環境、またファイアウォールを越えたインターネット環境は、サポートしていません。



機器と接続するために必要な準備

ここでは、Device Setup が機器と接続するために、事前に必要な準備について説明します。

機器の情報を確認する

Device Setup を使用する前に、機器の情報を機械管理者に確認する必要があります。確認する情報は、次のとおりです。

- 機種名
- ソフトウェアバージョン
- 機械管理者 ID
- 機械管理者のパスワード



補足

ソフトウェアバージョンは、機器の操作パネルで確認できます。[機械確認] ボタンを押して、[機械状態] 画面で [機械情報] を選択し、[ソフトウェアバージョン] を確認してください。または、機器の機能設定リストを出力して確認することもできます。



参照

機器の情報についての詳細は、機器のマニュアルを参照してください。

機器の設定を確認する

Device Setup を使用する前に、機器の設定を確認する必要があります。確認する内容は、次のとおりです。

機器と通信するために必要な設定

Device Setup が機器と接続するには、機器が次の状態になっている必要があります。次の状態になっていない場合は、機器で設定してください。

- 固定 IP アドレスが設定されていること
機器が DHCP、またはその他の手段で動的 IP アドレスを取得している場合は、DNS ホスト名から現在の IP アドレスを取得できるように、機器と DNS サーバーが設定されていること。
- [SNMP] ポートが、トランスポートプロトコル [UDP] で起動していること ([UDP エージェント] と表示される機種があります)
- [SOAP] ポートが起動していること



補足

IP アドレスが設定されているか、およびポートが起動されているかは、機器の「プリンター設定リスト」、または「機能設定リスト」で確認できます。



参照

IP アドレスの初期設定方法は、機器のマニュアルを参照してください。

メール / インターネットファクス / ファイル転送を実行するために必要な設定

機器でメール、インターネットファクス、またはファイル転送を実行するには、次の設定が必要です。これらの確認や設定は、Device Setup でもできます。Device Setup が機器と通信できることを確認して、Device Setup に機器を登録したあとに行ってください。

メール/インターネットファクス

Device Setup では、機器からのメール送信、およびインターネットファクス送信を含むジョブフローを作成できます。これらのジョブフローを機器で使用するには、機器が次の状態になっている必要があります。

- [本体メールアドレス] が設定されていること
- [メール送信] ポートが起動していること
- メール送信プロトコル (SMTP) が設定されていること

参照

- ・ [メール送信] ポートとメール送信プロトコルは、一部の機種では Device Setup を使用して設定できません。Device Setup で確認、および設定する方法は、「機器のメールアドレスを設定する」(P.39)、「機器のポートを設定する」(P.40)、および「メールプロトコルの設定について」(P.42) を参照してください。
- ・ 機器の操作パネルで確認、および設定する方法は、機器のマニュアルを参照してください。

ファイル転送

Device Setup では、スキャン文書やファクス文書などを、SMB 転送を使用して PC の共有フォルダーへ保存するジョブフローや、FTP 転送を使用して FTP サーバーへ保存するジョブフローを作成できます。これらのジョブフローを機器で使用するには、機器が次の状態になっている必要があります。

■ SMB 転送を使用する場合

- [SMB] ポートが起動していること

■ FTP 転送を使用する場合

- [FTP クライアント] ポートが起動していること

参照

- ・ Device Setup で確認、および設定する方法は、「機器のポートを設定する」(P.40) を参照してください。
- ・ 機器の操作パネルで確認、および設定する方法は、機器のマニュアルを参照してください。

機器との SOAP 通信に SSL を使用する場合について

Device Setup と機器との SOAP 通信に SSL を使用すると、通信内容が暗号化されます。SSL を使用する場合は、機器に証明書が設定されていて、さらに Device Setup をインストールする PC で機器の証明書を信頼できるようにする必要があります。

機器の証明書が信頼されているかを確認する方法は、次のとおりです。このとき、機器側で SSL を使用するための用意が完了していることを機器の管理者に確認してから、操作してください。

1. Device Setup をインストールする PC で Internet Explorer を起動し、次の URL を指定します。
[https:// (機器の DNS ホスト名、または IP アドレス)]

補足

機器の証明書が、Windows の証明書ストア内で信頼されるようにするために、必ず Internet Explorer を使用してください。

- [管理者の認証] ページが表示され、Internet Explorer のステータスバーに SSL で接続中を示すアイコン (鍵のかかったアイコン) が表示された場合

1. 機器の証明書が信頼されています。Internet Explorer を閉じます。

補足

「ページを表示できません」のようなエラーページが表示された場合は、機器の証明書の取得や SSL を有効にする設定など、SSL を使用するための用意が完了しているか、機器の管理者に確認してください。

- 「このサイトのセキュリティ証明書には問題があります」という [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示された場合

1. 機器の証明書が信頼されていません。[証明書の表示] をクリックし、表示された [証明書] ダイアログボックスで [証明書のインストール] をクリックします。[証明書のインポートウィザード] が表示されるので、画面の指示に従って機器の証明書をインストールします。

3 Device Setup をインストールする

Device Setup を新規にインストールする

ここでは、Device Setup を新規にインストールする手順について説明します。



- ・ Device Setup のインストールを開始する前に、すべてのアプリケーションを終了してください。インストールを開始したら、インストールをキャンセル、または終了するまで、ほかのアプリケーションを使用しないでください。
- ・ Device Setupをインストールする PCには、Administratorsグループのユーザーでログオンする必要があります。

1. [Launcher.exe] ファイルをダブルクリックします。

- Microsoft Visual C++ 2019 Redistributable Package (x86) がインストールされていない場合は、インストール画面が表示されます。
インストール画面で [インストール] をクリックします。



PC の再起動を促すメッセージが表示されることがあります。この場合は、必ず再起動してから、Device Setup を使用してください。

[Device Setup セットアップへようこそ] ダイアログボックスが表示されます。

2. [次へ] をクリックします。

[使用許諾契約] ダイアログボックスが表示されます。

3. [使用許諾契約] ダイアログボックスの内容を確認し、[使用許諾契約の条項に同意します] を選択します。



使用許諾契約書は、必ずお読みください。使用許諾契約に同意された場合にだけ、Device Setup を使用できます。

4. [次へ] をクリックします。

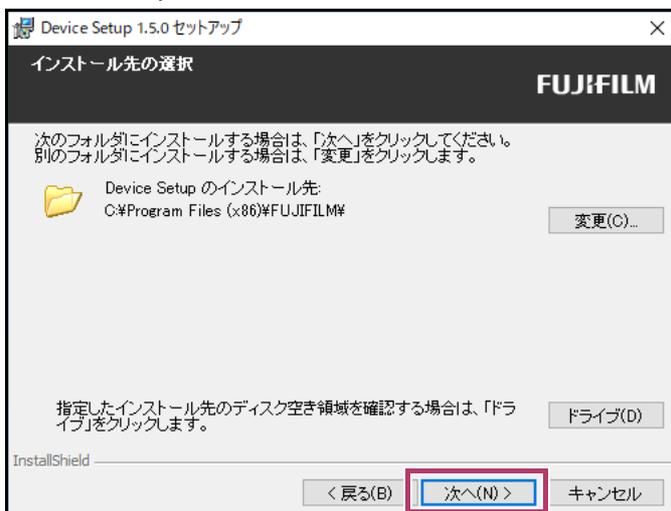
[ユーザー情報] ダイアログボックスが表示されます。

5. [ユーザー名]、[所属] をそれぞれ入力します。
入力したら、[次へ] をクリックします。



[インストール先の選択] ダイアログボックスが表示されます。

6. Device Setup のインストール先のフォルダーを確認し、[次へ] をクリックします。



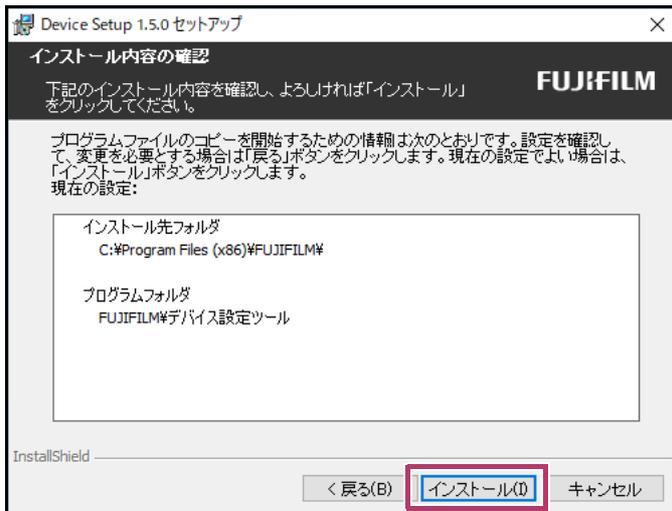
[インストール内容の確認] ダイアログボックスが表示されます。



補足

- ・ インストール先のドライブ、またはフォルダーを変更する場合は、[変更] をクリックして、インストール先を入力してください。インストール先に指定できる文字数は 100 バイトまでです。
- ・ インストール先のドライブとして指定できるのは、100 MB 以上の空き容量がある、ローカルの固定ディスクです。インストール先ドライブの空き容量を確認したい場合は、[ドライブ] を選択してください。

7. インストールするコンポーネント、およびインストール場所などを確認して、[インストール] をクリックします。



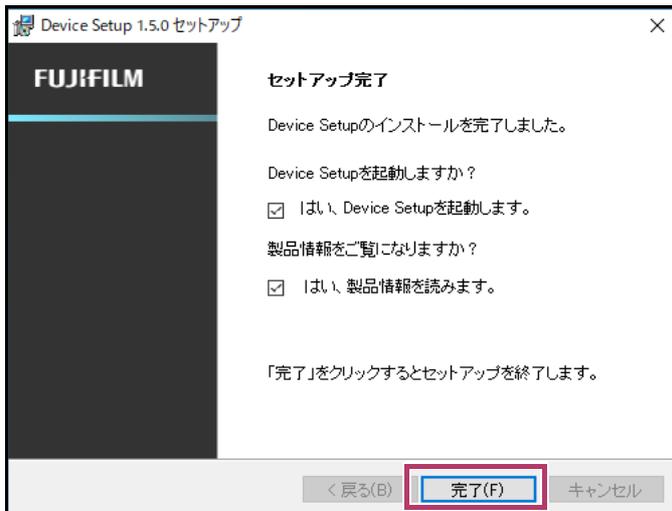
インストールが開始されます。インストールが終了すると、[セットアップ完了] ダイアログボックスが表示されます。



補足

PCの再起動を促すメッセージが表示されることがあります。この場合は、必ず再起動してから、Device Setup を使用してください。

8. [完了] をクリックします。



ダイアログボックスが閉じます。

Device Setup を修正インストールする

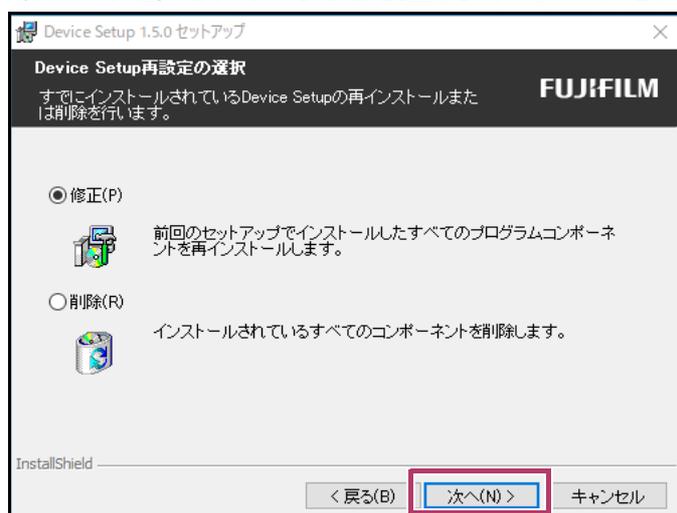
ここでは、Device Setup を修正インストールする方法について説明します。

すでに設定されている情報を変更することなく、Device Setup をインストールし直すことができます。Device Setup の関連ファイルが壊れて、Device Setup が正常に動作しないときなどに使用します。



- ・ Device Setup の修正インストールを開始する前に、すべてのアプリケーションを終了してください。修正インストールを開始したら、修正インストールをキャンセルするか終了するまで、ほかのアプリケーションを使用しないでください。
- ・ Device Setup を修正インストールをする PC には、Administrators グループのユーザーでログオンする必要があります。

1. [Launcher.exe] ファイルをダブルクリックします。
[Device Setup 再設定セットアップへようこそ] ダイアログボックスが表示されます。
2. [次へ] をクリックします。
[Device Setup 再設定の選択] ダイアログボックスが表示されます。
3. [修正] が選択されていることを確認して、[次へ] をクリックします。



プログラムの再インストールが開始されます。インストールが終了すると、[再設定完了] ダイアログボックスが表示されます。



PC の再起動を促すメッセージが表示されることがあります。この場合は、必ず再起動してから、Device Setup を使用してください。

4. [完了] をクリックします。
ダイアログボックスが閉じます。

Device Setup をアンインストールする

ここでは、Device Setup をアンインストール（削除）する方法について説明します。

使用中の Device Setup の設定を再利用する場合は、アンインストールする前に、Device Setup の設定情報をファイルに書き出しておく必要があります。



補足

- ・ Device Setup のアンインストールを開始する前に、すべてのアプリケーションを終了してください。アンインストールを開始したら、アンインストールをキャンセルするか終了するまで、ほかのアプリケーションを使用しないでください。
- ・ Device Setup をアンインストールする PC には、Administrators グループのユーザーでログオンする必要があります。



参照

Device Setup の設定情報をファイルを書き出す方法については、「設定情報をファイルに書き出す」(P.102) を参照してください。

1. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コントロールパネル] の順に選択します。
[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。
2. [プログラム] の [プログラムのアンインストール] をクリックします。
[プログラムと機能] ウィンドウが表示されます。
3. ソフトウェアの一覧で、「FUJIFILM デバイス設定ツール {バージョン}」を選択します。
4. [アンインストール] をクリックします。
[プログラムと機能] ダイアログボックスが表示されます。
5. [はい] をクリックします。
プログラムのアンインストールが開始されます。
アンインストールの進行状況を示すメッセージが閉じます。

4 Device Setup を起動する

Device Setup を起動する

ここでは、次の項目について説明します。

- Device Setup の起動方法
- 電子マニュアルの参照方法

Device Setup を起動する

Device Setup を起動する方法は、次のとおりです。

1. Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [デバイス設定ツール] の順に選択します。
[Device Setup パスワードの入力] ダイアログボックスが表示されます。
2. パスワードを入力し、[OK] をクリックします。
[Device Setup] ウィンドウが表示されます。



デフォルトのパスワードは、「x-admin」です。セキュリティ機能向上のため、必ず Device Setup のパスワードを変更してください。[編集] メニューの [Device Setup パスワードの変更] を選択して表示される、[Device Setup パスワードの変更] ダイアログボックスで変更できます。

■ Device Setup をアップグレードしてから初めて起動する場合

- Device Setup をアップグレードしたあとに、新しく追加された属性についてのメッセージが表示されることがあります。これらの属性は、デフォルトの値が設定されています。Device Setup をアップグレードしてから初めて起動したときは、「機器から属性値を取得」を実行してください。



操作方法については、「機器から属性値を取得する」(P.38) を参照してください。

- 以前登録した機器に対して、ControllerROM のバージョン (ソフトウェアバージョン) を指定する必要があるために、[機種の特定] ダイアログボックスが表示されることがあります。[機種の特定] ダイアログボックスが表示された場合は、機器の ControllerROM のバージョンを調べてから、指定してください。



ControllerROM のバージョンを確認する方法については、「機器の情報を確認する」(P.19) を参照してください。

電子マニュアルを参照する

デバイス設定ツールがインストールされた PC で、Windows の [スタート] メニュー、[プログラム]、[FUJIFILM]、[デバイス設定ツール]、[ユーザーズガイド] の順に選択してください。ユーザーズガイドの URL のショートカットが表示されます。

デバイス設定ツールがインストールされていない PC の場合は、デバイス設定ツールの DVD-ROM をドライブにセットして、「manual」フォルダー中の「DeviceSetup User Guide」をダブルクリックしてください。

ホームページからアップデートモジュールをダウンロードした場合は、解凍先のフォルダーに「manual」フォルダーがあります。

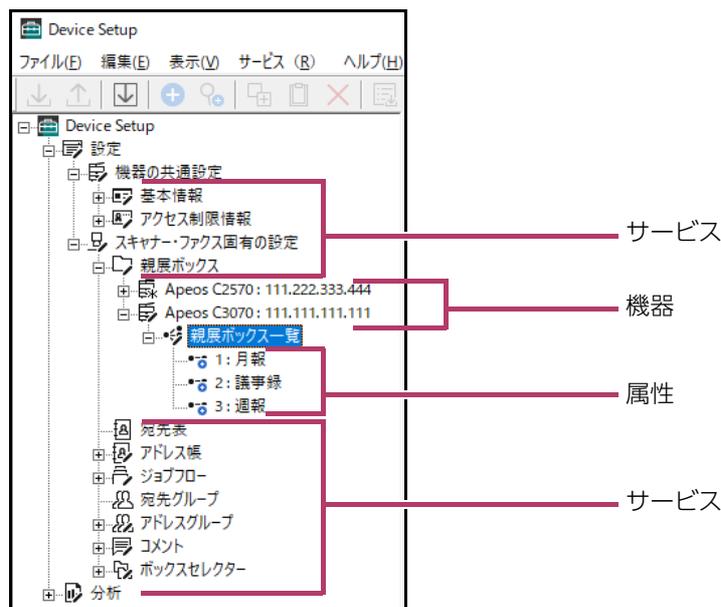
Device Setup の構成

ここでは、Device Setup のウィンドウ構成について説明します。

Device Setup メインウィンドウは、2つのフレームから構成されています。左側をツリービュー、右側をリストビューと呼びます。

ツリービュー

Device Setup のサービス、サービスが管理する機器、およびその属性を、ツリー形式で表示します。それぞれを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。コンテキストメニューの内容は、サービスに応じて異なります。ツリービューの内容は、次のとおりです。



サービス

サービスとは、Device Setup から提供される、機器の管理機能を持つプラグインモジュールです。サービスは、機能の種類ごとに分類されています。

6D 参照

各サービスの概要は、「Device Setup の機能」(P.12)を参照してください。

機器

サービスの [+] をクリックすると、サービスに登録されている機器が表示されます。Device Setup のインストール直後は、どのサービスにも機器は登録されていないので、まず機器を登録する必要があります。ツリービューでは、機器は 1 つだけ選択できます。



参照

サービスに機器を登録する方法については、「Device Setup に機器を登録する」(P.32) を参照してください。

属性値

機器の [+] をクリックすると、機器の属性値が表示されます。

属性値とは、機器が持つ情報のことです。具体的には、機器の設定情報（起動しているポートや管理者情報など）や登録情報（ユーザー、親展ボックス、ジョブフローなど）が属性値にあたります。

ツリービューでは、属性値は 1 つだけ選択できます。

リストビュー

Device Setup では、リストビューにサービスが管理している機器、機器の状態、属性の種類、およびその値を、リスト形式で表示します。

リストビューでは、複数の機器や属性を選択できます。複数の機器に対して一度に同じ設定をしたい場合に便利です。

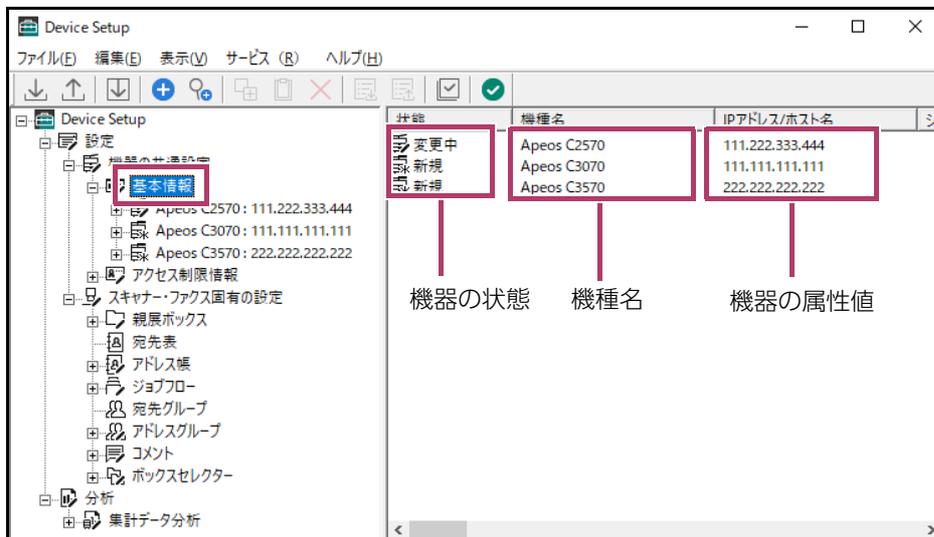
複数の機器や属性を選択するには、<Shift> キー、または <Ctrl> キーを押しながら、機器や属性をクリックします。

すべての機器や属性を選択するには、[編集] メニューの [すべて選択] を選択します。

ツリービューは、次のように表示されます。

ツリービューでサービスを選択した場合

サービスが管理している機器とその状態が、リスト形式で表示されます。



ツリービューで機器を選択した場合

機器の属性とその状態が、リスト形式で表示されます。

状態	属性名	属性値
●● 未変更	機種名	Apeos C2570
●● 未変更	Pアドレス/ホスト名	111.222.333.444
●● 未変更	シリアル番号	
●● 未変更	機器名	Apeos C2570
●● 未変更	設置場所	A棟1階
●● 未変更	連絡先	03-XXXX-XXXX
●● 未変更	本体メールアドレス	XXXX@example.com
●● 未変更	コメント	
●● 未変更	低電力モード移行時間	1
●● 未変更	スリープモード移行時間	1
●● 未変更	.PD	起動
●● 未変更	:TPクライアント	起動
●● 未変更	JnPアドレスカバリ	起動
●● 未変更	メール受信	起動
●● 未変更	メール送信	起動
●● 未変更	メール通知サービス	起動
●● 未変更	WebDAV	起動
●● 未変更	Pアドレス取得方法	手で設定
●● 未変更	Pアドレス	111.222.255.255
●● 未変更	サブネットマスク	255.255.255.0

属性の状態 属性の種類 属性値

5 Device Setup に機器を登録する

作業の流れ（機器を登録するまで）

ここでは、Device Setup に機器を登録するときの、作業の流れを説明します。

Device Setup を使うには、まず Device Setup に機器を登録する必要があります。機器がすでに設置されている場合と、機器が未設置の場合とで、作業の流れが異なります。

機器がすでに設置されている場合

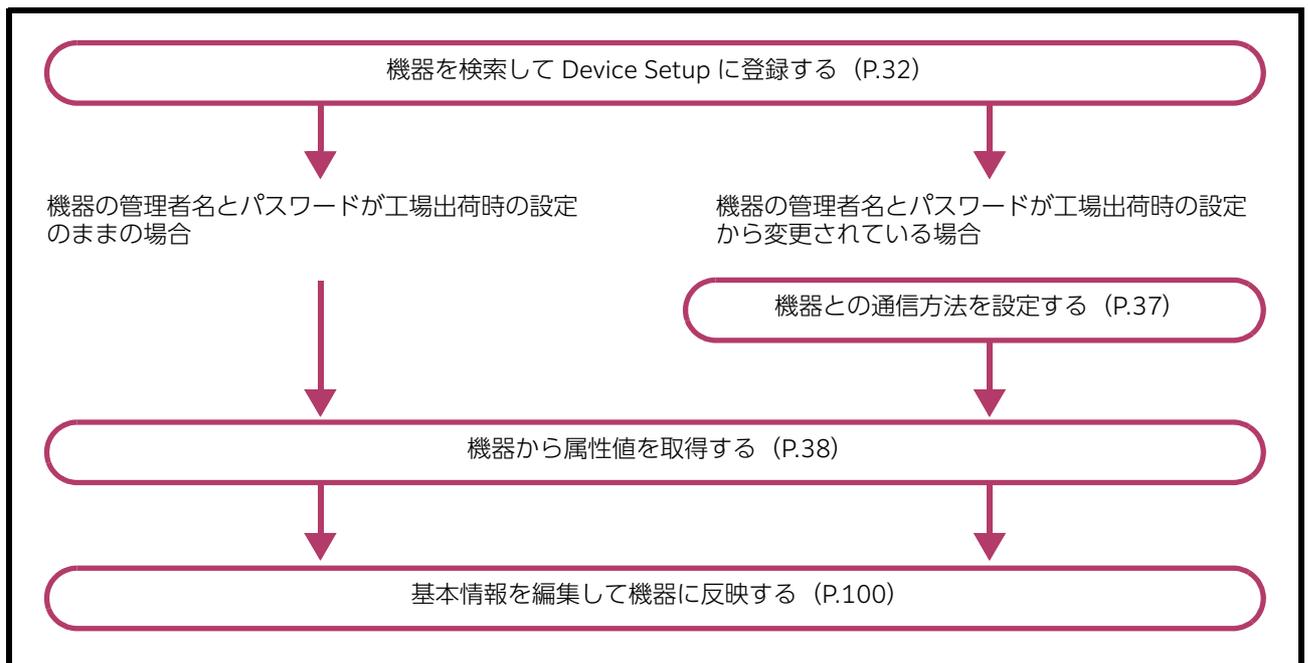
機器がすでに設置されている場合の作業は、次のとおりです。

Device Setup に機器を登録する前に、機器に IP アドレスや適切なポートが設定されている必要があります。



参照

あらかじめ機器側で必要な準備については、「機器と通信するために必要な設定」(P.19) を参照してください。

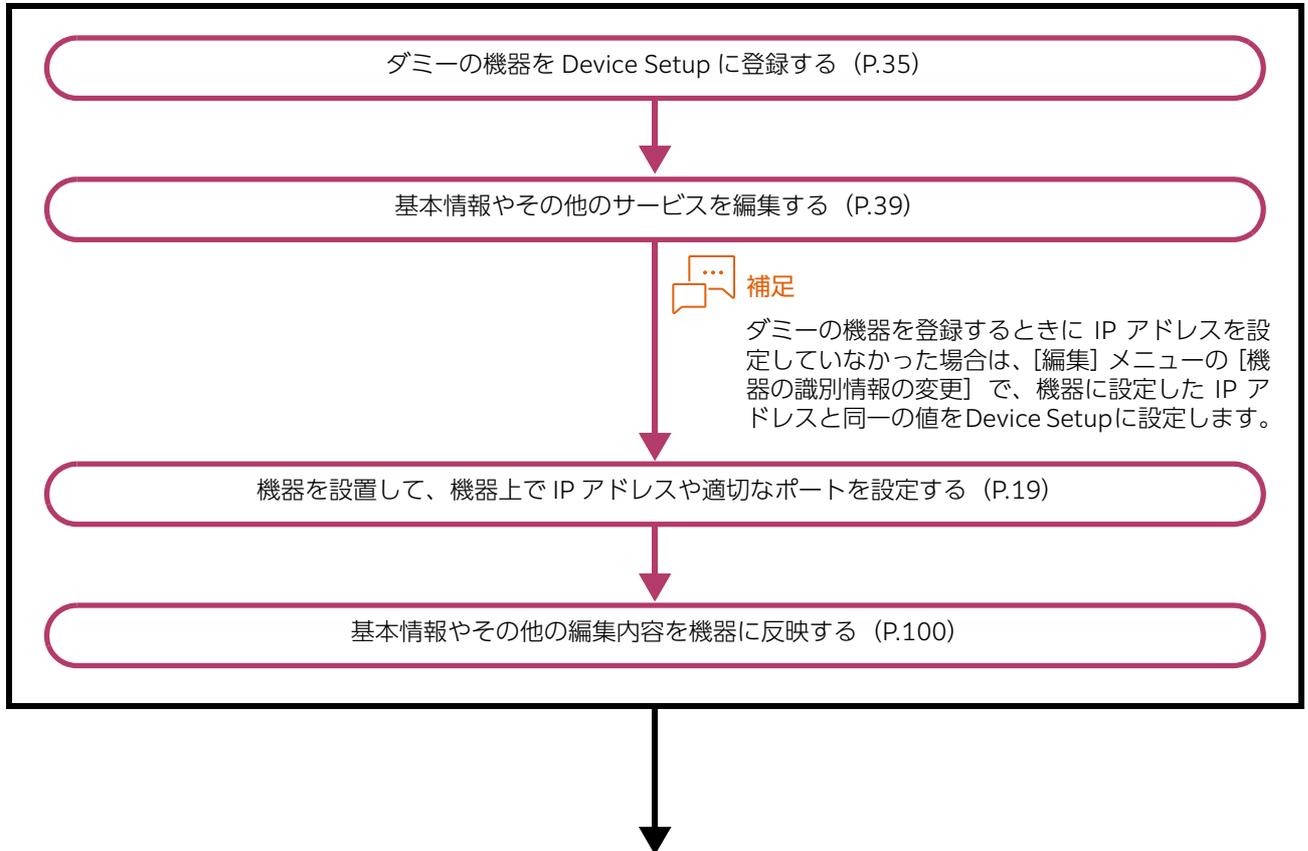


ここから先は、必要に応じて親展ボックス、宛先表 / アドレス帳、アクセス制限、ジョブフローなどを設定してください。

機器が未設置の場合

機器の納入前など、機器が未設置の場合の作業は、次のとおりです。

機器が実際に存在しなくても、Device Setup にダミー（架空）の機器を登録して、プランに基づいて機器の情報を編集できます。機器が設置されてから、Device Setup 上の編集内容を機器に反映できます。



ここから先は、必要に応じて親展ボックス、宛先表 / アドレス帳、アクセス制限、ジョブフローなどを設定してください。

Device Setup に機器を登録する

ここでは、次の項目について説明します。

- 機器を登録する方法
- 機器との通信を設定する方法
- 機器から属性値を取得する方法

機器を登録する

Device Setup に機器を登録する方法は、次のとおりです。

- ネットワーク内の機器を検索して登録する
- 機器を指定して登録する / ダミー（架空）の機器を登録する

ネットワーク内の機器を検索して登録する

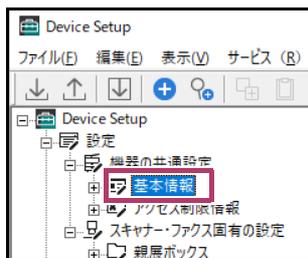
ネットワーク内の機器を検索して、Device Setup に登録します。



検索して登録できるのは、次の条件を満たす機器です。

- ・ IPv4 の固定 IP アドレスが設定されていること DHCP、またはその他の手段によって動的 IP アドレスを取得する機器は、DNS ホスト名を指定して登録してください。IPv6 の固定 IP アドレスが設定され、IPv4 の固定 IP アドレスが設定されていない機器は、IPv6 の固定アドレス、または DNS ホスト名を指定して登録してください。
- ・ SNMP v1/v2 のコミュニティ名、または SNMP v3 のパスワードが工場出荷時の値であることコミュニティ名、またはパスワードを工場出荷時の値から変更している機器は、固定 IP アドレス、または DNS ホスト名を指定して登録してください。
- ・ Device Setup は、TCP/IP で機器に接続できます。
- ・ Device Setup に登録する機器の台数は、10 台までを推奨します。登録できる台数の上限はありませんが、お使いの環境によっては、多くの機器を Device Setup に登録すると、メモリー不足で PC の動作が不安定になることがあります。

1. ツリービューを展開し、サービスを選択します。



2. [編集] メニューの [機器を検索して追加] を選択します。

[機器の追加 - 検索条件の設定] ダイアログボックスが表示されます。



Device Setup をインストールした PC と同じサブネットにある機器を検索する場合は、手順 6 に進みます。

3. 別のサブネットにある機器を検索する場合は、[検索条件] をクリックします。



[検索条件の設定] ダイアログボックスが表示されます。

4. [追加するサブネットアドレス] に、機器が所属するサブネットのブロードキャストアドレスを入力して、[追加] をクリックします。

[検索するサブネットアドレス] にアドレスが追加されます。



補足

機器が所属するネットワークのブロードキャストアドレスがわからない場合は、お使いの環境のネットワーク管理者にお問い合わせください。

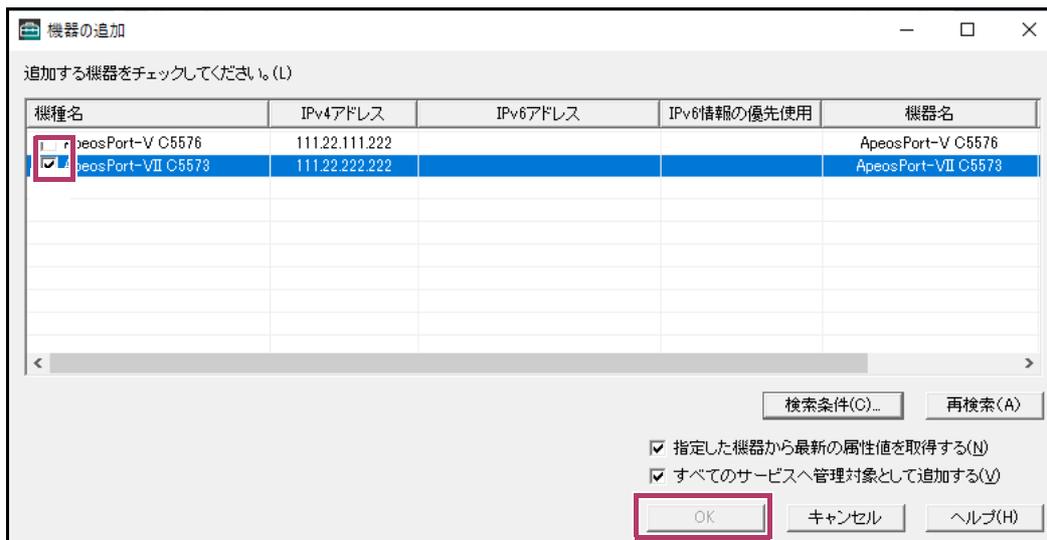
5. 検索条件の設定が完了したら、[OK] をクリックします。

[機器の追加－検索条件の設定] ダイアログボックスに戻ります。

6. [検索] をクリックします。

機器の検索が始まります。検索が終わると、[機器の追加] ダイアログボックスに、検索された機器が表示されます。

7. 登録する機器を確認して、[OK] をクリックします。



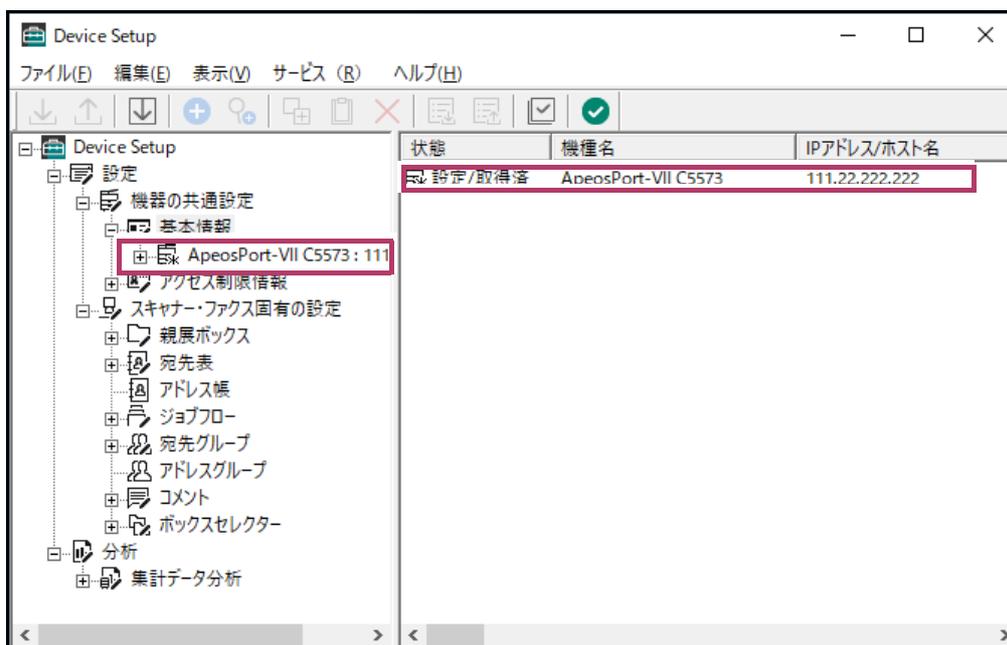
[機器の追加－属性値の取得] ダイアログボックスが表示されます。

8. 内容を確認して、[はい] をクリックします。

属性値の取得が始まります。属性値の取得が終了すると、「機器を追加しました。」というメッセージが表示されます。

9. [OK] をクリックします。

サービスの下に機器が登録されます。



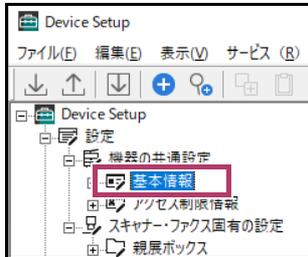
補足

「機器から最新の属性値を取得できませんでした。」のメッセージが表示された場合は、機器の電源やネットワークの設定を確認してください。また、機械管理者 ID やパスワードを、工場出荷時の値から変更している場合は、機器の属性を取得できません。機器との通信方法を設定し、属性値を再度、取得する必要があります。「機器との通信方法を設定する」(P.37)、および「機器から属性値を取得する」(P.38)を参照してください。

機器を指定して登録する / ダミー（架空）の機器を登録する

すでにネットワークに接続されている機器を指定して Device Setup に登録できます。また、実際に機器が存在しなくても、ダミーの機器を Device Setup に登録できます。ダミーの機器を Device Setup に登録しておくと、機器の納入が予定されている場合に、Device Setup でサービスの設定が事前に行えます。

1. ツリービューを展開し、サービスを選択します。

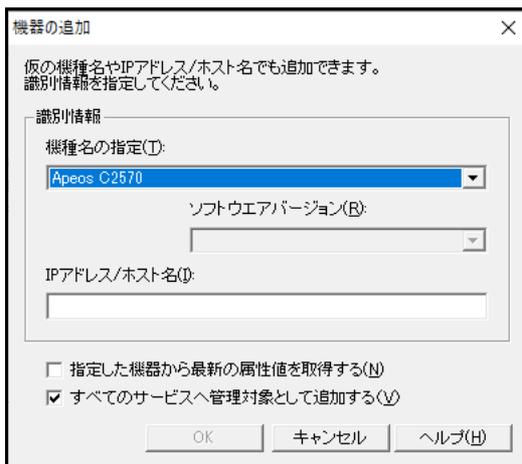


2. [編集] メニューの [機器の追加] を選択します。

[機器の追加] ダイアログボックスが表示されます。

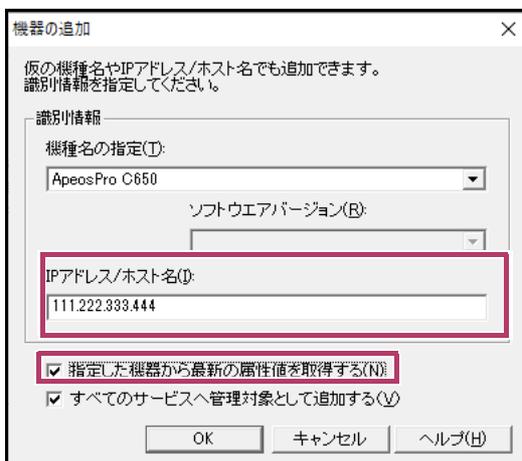
3. 機種名の識別情報として、機種名と IP アドレスを設定します。

ControllerROM に複数のバージョンがある機種を選択した場合、[ソフトウェアバージョン] の項目が有効になります。この場合は、[ソフトウェアバージョン] から機器の ControllerROM バージョンを選択します。



■ ネットワークに接続されている機器を登録する場合

実際の機種名と、IP アドレス、またはホスト名を指定します。IP アドレスは、IPv4 形式、または IPv6 形式で指定できます。[指定した機器から最新の属性値を取得する] にチェックマークを付けて [OK] をクリックすると、機器の現在の設定が、Device Setup に取り込まれます。



■ ダミーの機器を登録する場合

設定が予定されている機器の機種名と、その機器に割り当てる予定の IP アドレス、またはホスト名を指定します。

機器の追加

仮の機種名やIPアドレス/ホスト名でも追加できます。
識別情報を指定してください。

識別情報

機種名の指定(I):
Apeos C3070

ソフトウェアバージョン(B):

IPアドレス/ホスト名(O):
dummy1

指定した機器から最新の属性値を取得する(N)

すべてのサービスへ管理対象として追加する(V)

OK キャンセル ヘルプ(H)

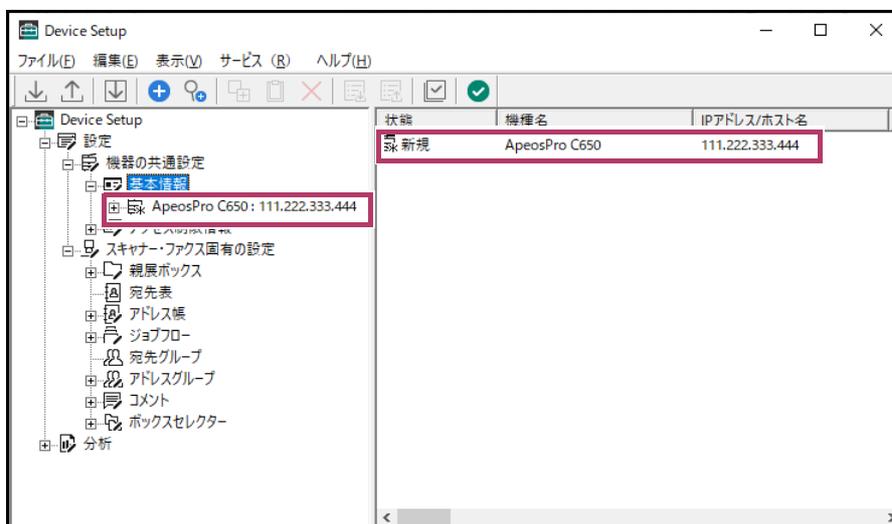


補足

- ・ [指定した機器から最新の属性値を取得する] のチェックマークは、外したままにします。チェックマークを付けて [OK] をクリックすると、存在しない機器と通信しようとして、エラーになります。
- ・ DHCP、またはその他の手段によって動的 IP アドレスを取得している機器を登録する場合は、[ホスト名] に DNS ホスト名、またはコンピューター名を指定してください。
- ・ 機種名、ソフトウェアバージョン、IP アドレス、および DNS ホスト名は、機器を登録したあとでも変更できます。変更する場合は、[編集] メニューの [機器の識別情報の変更] を選択すると表示される、[機器の識別情報の変更] ダイアログボックスで設定します。

4. [OK] をクリックします。

サービスの下に、機器が登録されます。



補足

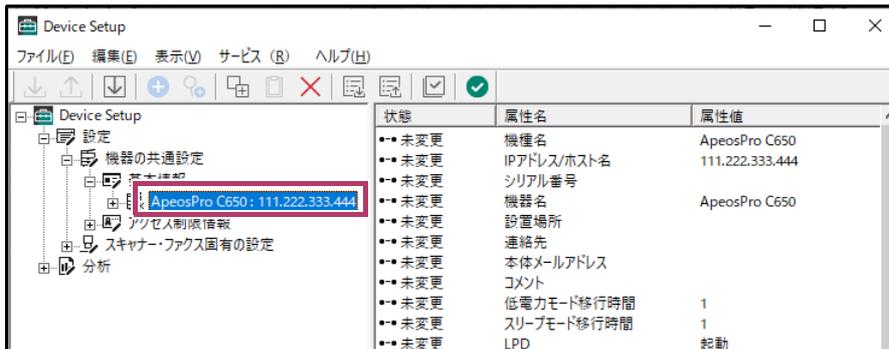
すでにネットワークで接続されている機器の場合で、「機器から最新の属性値を取得できませんでした。」のメッセージが表示された場合は、機器の電源やネットワークの設定を確認してください。また、機械管理者 ID やパスワード、SNMP の設定などを工場出荷時の値から変更している場合は、機器の属性を取得できません。機器との通信方法を設定し、属性値を再度、取得する必要があります。「機器との通信方法を設定する」(P.37)、および「機器から属性値を取得する」(P.38) を参照してください。

機器との通信方法を設定する

Device Setup は、機器と通信するときに、機械管理者 ID とパスワードを使用します。既定では、機器の工場出荷時に設定されている機械管理者 ID、およびパスワードと同じ値が Device Setup に設定されています。機器側で機械管理者 ID やパスワードを変更した場合は、Device Setup に登録されている機械管理者 ID、およびパスワードも変更してください。また、機器側で SNMP の設定を工場出荷時の値から変更している場合も、Device Setup に登録されている値を変更してください。

機器との通信方法を設定する方法は、次のとおりです。

1. ツリービューを展開し、サービスの下の機器を選択します。



2. [編集] メニューから、[機器との通信設定] を選択します。

[機器との通信設定] ダイアログボックスが表示されます。

3. [機械管理者 ID]、[パスワード]、および [パスワードの確認] に、機器に設定されている機械管理者 ID とパスワードを入力します。

また、[SNMP] や [ポート番号] も同様に入力します。



4. [OK] をクリックします。

機器から属性値を取得する

機械管理者 ID とパスワード、SNMP などを Device Setup に設定して、機器との通信が可能になったら、機器から最新の属性値を Device Setup に取り込みます。

属性値とは、機器が持つ情報のことです。具体的には、機器の設定情報（起動しているポートや管理者情報など）や登録情報（ユーザー、親展ボックス、ジョブフローなど）が属性値にあたります。

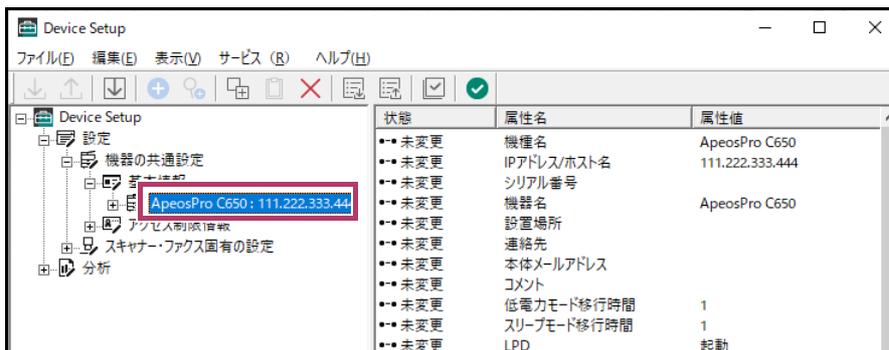
機器から属性値を取得する方法は、次のとおりです。



参照

Device Setup で機器から属性値を取得できない場合は、「機器から属性値を取得・設定できない」(P.157) を参照してください。

1. ツリービューを展開し、サービスの下の機器を選択します。

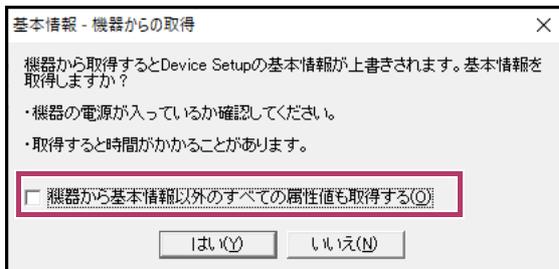


2. [編集] メニューの [機器から属性値を取得] を選択します。

属性値の取得を確認するダイアログボックスが表示されます。

3. 選択したサービスの属性値だけを取得する場合は、[はい] をクリックします。

選択していないサービスの属性値も同時に取得する場合は、[機器から（サービス名）以外のすべての属性値も取得する] にチェックマークを付けます。



属性値の取り込みが始まります。

4. 属性値の取り込みが終了したら、[OK] をクリックします。

機器から最新の属性値が Device Setup に取り込まれ、機器の状態が「新規」から「設定 / 取得済」に変わります。

基本情報を設定する

ここでは、次の項目について説明します。

- 基本情報サービスについて
- 機器の情報を設定する方法

基本情報サービスについて

基本情報サービスは、次の設定を Device Setup から機器に反映するためのサービスです。

基本情報サービスとして設定できる属性は、次のとおりです。

- 機器の製品情報
- 起動するポート
- 節電モードへの移行時間
- プロトコルの基本設定
- 機器の現在時刻
- 機械管理者情報
- 秘密情報の暗号化キー

基本情報サービスで設定する属性には、複数の機器を選択して、一度に同じ設定にできるものが多くあります。この特長を利用すると、複数の機器に対して効率よく設定できます。

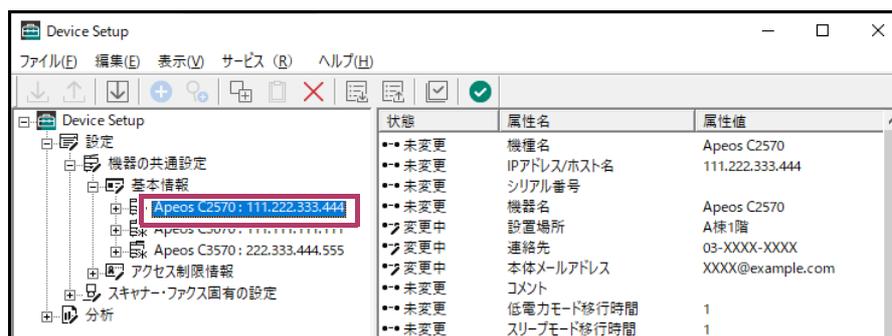
機器の情報を設定する

ここでは例として、機器に設定するメールアドレス、起動するポート、およびプロトコルを Device Setup に設定します。設定方法は、次のとおりです。

機器のメールアドレスを設定する

機器でメールやインターネットファクスなどを実行するには、機器に本体メールアドレスを設定する必要があります。

1. ツリービューで、[設定] > [機器の共通設定] > [基本情報] の順に展開し、設定する機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [製品情報の設定] を選択します。
[製品情報の設定] ダイアログボックスが表示されます。

3. [本体メールアドレス] を設定します。必要に応じて、その他の項目も設定します。

製品情報の設定

製品名(D):

シリアル番号(S):

機器名(M): Apeos C2570

設置場所(L): A棟1階

連絡先(P): 03-XXXX-XXXX

本体メールアドレス(M): XXXX@example.com

コメント(C):

OK キャンセル 機器に設定 ヘルプ(H)

4. [OK] をクリックします。

Device Setup

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) サービス (R) ヘルプ(H)

設定

機器の共通設定

基本情報

Apeos C2570: 111.222.333.444

プロトコル設定 (メール)

Apeos C3070: 111.111.111.111

Apeos C3570: 222.333.444.555

アクセス制限情報

スキャナー・ファクス固有の設定

分析

状態	属性名	属性値
未変更	機種名	Apeos C2570
未変更	IPアドレス/ホスト名	111.222.333.444
未変更	シリアル番号	
未変更	機種名	Apeos C2570
変更中	設置場所	A棟1階
変更中	連絡先	03-XXXX-XXXX
変更中	本体メールアドレス	XXXX@example.com
未変更	コメント	
未変更	低電力モード移行時間	1
未変更	スリープモード移行時間	1

Device Setup に、設定した内容が反映されます。

補足

この時点では、本体メールアドレスは機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100) を参照してください。

機器のポートを設定する

機器のポートを、Device Setup から起動、または停止できます。

6D 参照

機器でメール、インターネットファクス、およびファイル転送を実行する設定を Device Setup で行うために、機器で起動が必要なポートについては、「メール/インターネットファクス/ファイル転送を実行するために必要な設定」(P.19) を参照してください。

1. ツリービューで、[設定] > [機器の共通設定] > [基本情報] の順に展開し、設定する機器を選択します。

Device Setup

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) サービス (R) ヘルプ(H)

設定

機器の共通設定

Apeos C2570: 111.222.333.444

Apeos C3570: 222.333.444.555

アクセス制限情報

スキャナー・ファクス固有の設定

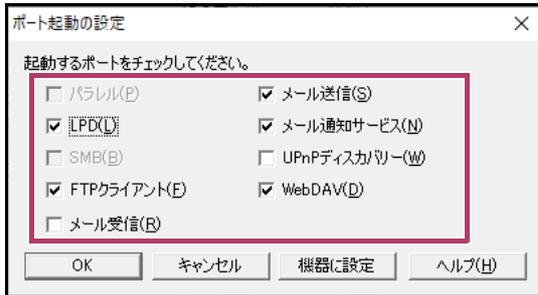
分析

状態	属性名	属性値
未変更	機種名	Apeos C2570
未変更	IPアドレス/ホスト名	111.222.333.444
未変更	シリアル番号	
未変更	機種名	Apeos C2570
変更中	設置場所	A棟1階
変更中	連絡先	03-XXXX-XXXX
変更中	本体メールアドレス	XXXX@example.com
未変更	コメント	
未変更	低電力モード移行時間	1
未変更	スリープモード移行時間	1

補足

基本情報サービスに登録されているすべての機器を選択する場合は、ツリービューで [基本情報] を展開し、[編集] メニューの [すべて選択] を選択します。リストビューで <Shift> キー、または <Ctrl> キーを押しながら複数の機器をクリックして選択することもできます。ほかのサービスでも、操作方法は同じです。

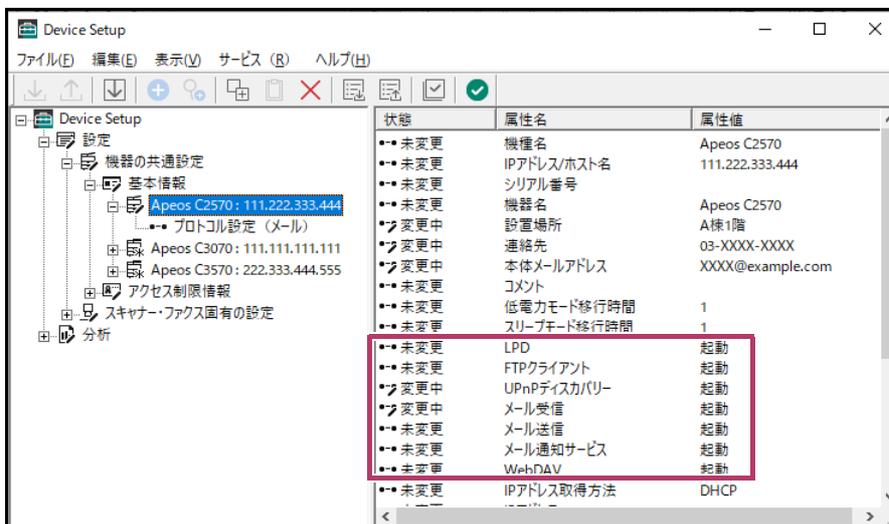
- [サービス] メニューの [ポート起動の設定] を選択します。
[ポート起動の設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 起動するポートにチェックマークを付けます。



参照

- ・ [メール送信] ポートを設定できる機種については、Readme.txt を参照してください。
- ・ 各ポートの詳細い内容については、ヘルプを参照してください。

- [OK] をクリックします。



Device Setup に、設定した内容が反映されます。



補足

この時点では、起動するポートは機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定してください。設定方法については「設定内容を機器に反映する」(P.100) を参照してください。

機器のプロトコルを設定する

機器でメールやインターネットファクスを使用するには、機器にメール送信プロトコル (SMTP) が設定されている必要があります。

Device Setup を使用して、機器にメールプロトコル (SMTP と POP) および TCP/IP (ネットワークインターフェイスの設定) を設定できます。



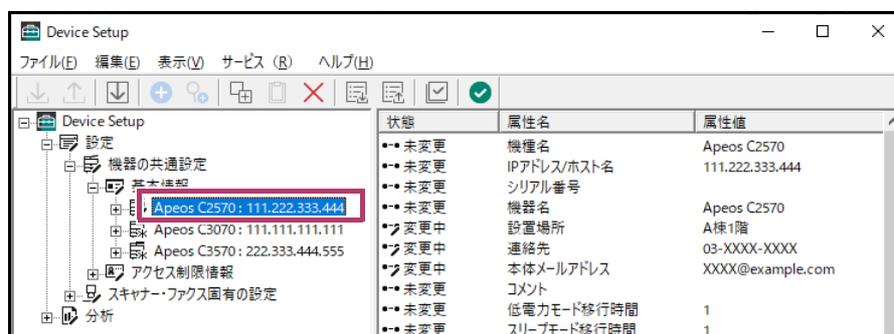
補足

プロトコル設定 (メール) は、一部の機種では Device Setup を使用して設定できません。機種については、Readme.txt を参照してください。

メールプロトコルの設定について

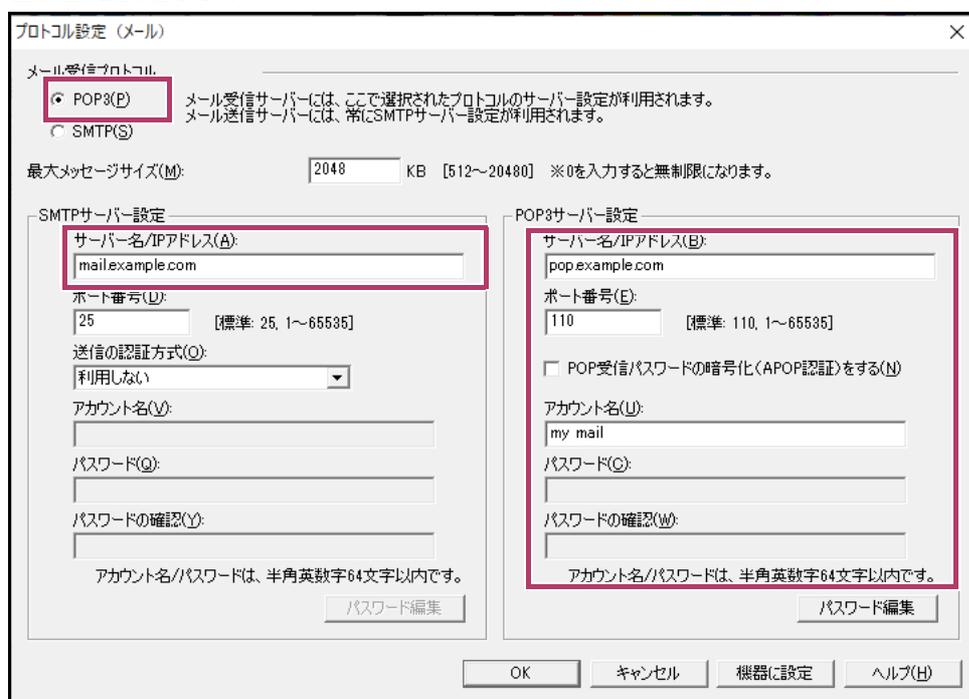
メールプロトコルの設定方法は、次のとおりです。

1. ツリービューで、[設定] > [機器の共通設定] > [基本情報] の順に展開し、設定する機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [プロトコル設定 (メール)] を選択します。
[プロトコル設定 (メール)] ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定します。



補足

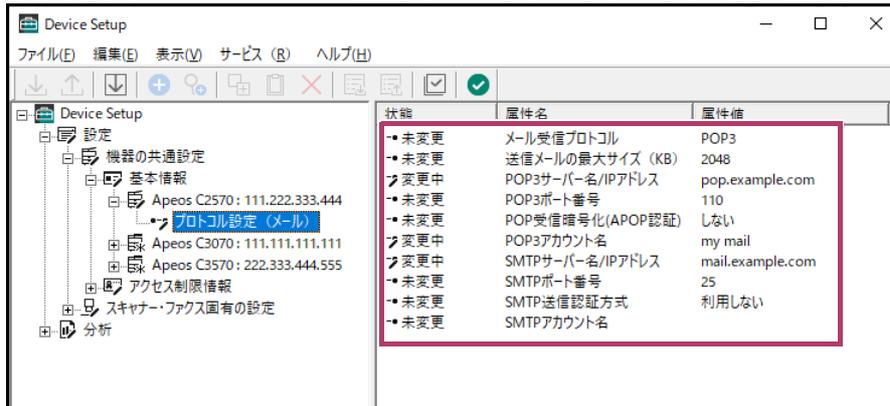
SMTP サーバー名、および POP サーバー名が DNS ホスト名である場合は、接続できないことがあります。その場合は、IP アドレスを設定してください。



参照

- ・ 各項目の詳しい内容については、ヘルプを参照してください。
- ・ パスワードの編集については、「パスワードの編集」(P.153) を参照してください。

4. [OK] をクリックします。



Device Setup に、設定した内容が反映されます。



補足

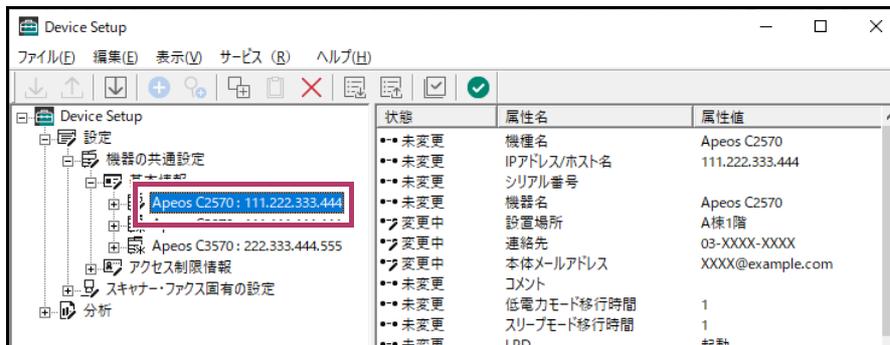
この時点では、プロトコル設定（メール）は機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100)を参照してください。

TCP/IP の設定について

TCP/IP の設定では、機器の IP アドレスや、機器が参照する DNS サーバーアドレスなどを設定、または変更できます。

設定を確認、および変更する方法は、次のとおりです。

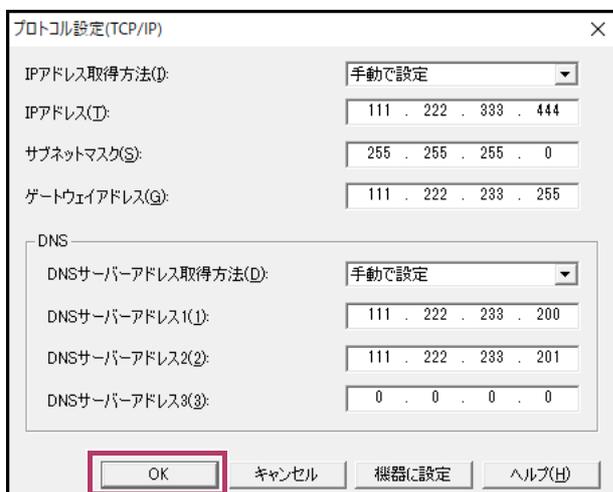
1. ツリービューで、[設定] > [機器の共通設定] > [基本情報] の順に展開し、設定する機器を選択します。



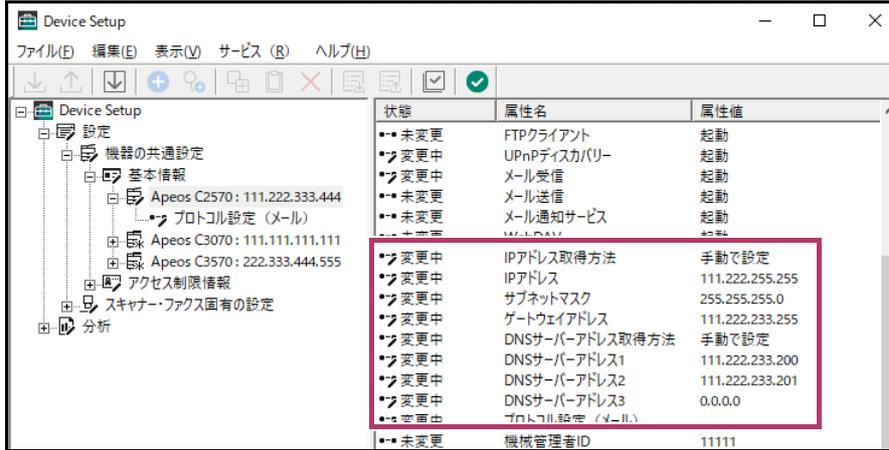
2. [サービス] メニューの [プロトコル設定 (TCP/IP)] を選択します。

[プロトコル設定 (TCP/IP)] ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目の設定を確認します。変更する必要がある場合は、変更内容を入力します。



4. [OK] をクリックします。



Device Setup に、設定した内容が反映されます。



補足

この時点では、プロトコル設定 (TCP/IP) は機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100) を参照してください。

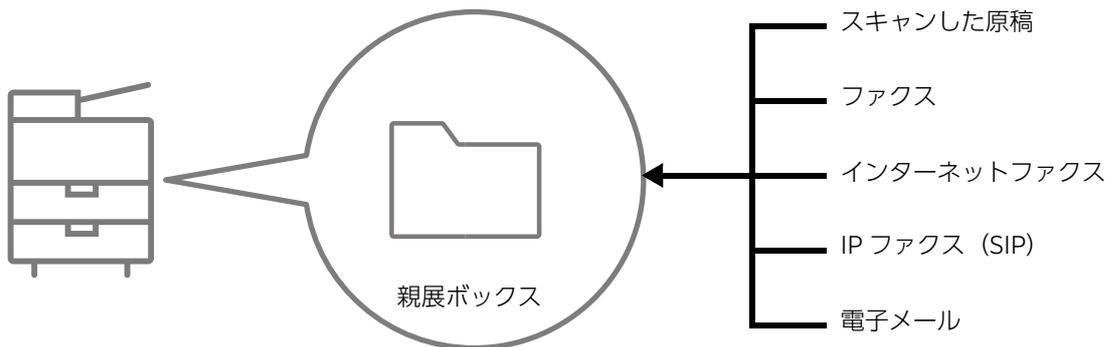
親展ボックスを設定する

ここでは、次の項目について説明します。

- 親展ボックスサービスについて
- 親展ボックスを設定する方法
- 複数の親展ボックスを一括作成する方法
- 親展ボックスを使用する方法

親展ボックスサービスについて

親展ボックスとは、機器に入力・送信されるデータを保存し、必要に応じて取り出すための領域です。



Device Setup の親展ボックスサービスを使用すると、機器に対して親展ボックスに関する操作を行えます。内容は、次のとおりです。

- 親展ボックスの作成
- 親展ボックスの設定変更
- 親展ボックスのコピー
- 親展ボックスの削除
- 親展ボックスの一括作成

機器に親展ボックスを設定する

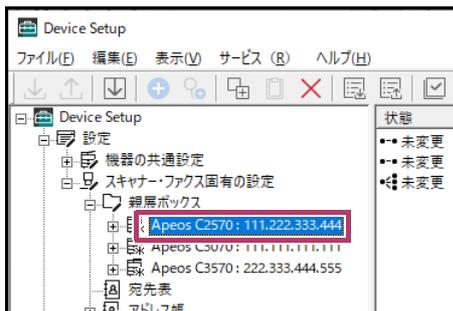
Device Setup 上で親展ボックスを追加する操作は、次のとおりです。

- 親展ボックスを新規に作成する
- 親展ボックスをコピーする

親展ボックスを新規に作成する

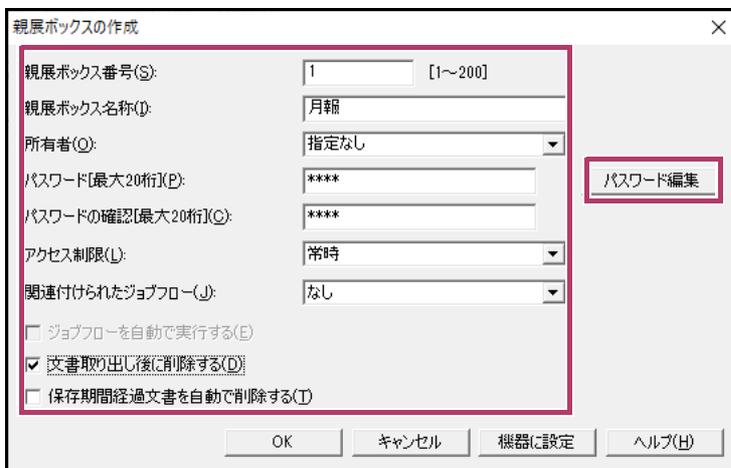
新しい親展ボックスを追加する方法は、次のとおりです。

1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [親展ボックス] の順に展開して、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [親展ボックスの作成] を選択します。
[親展ボックスの作成] ダイアログボックスが表示されます。

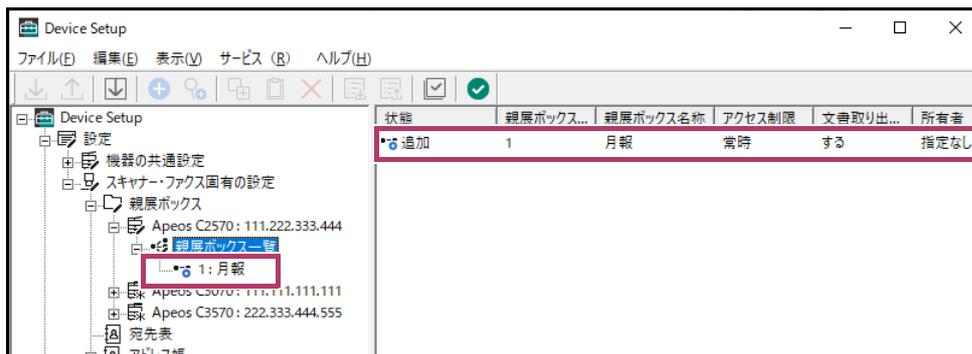
3. 各項目を設定します。
パスワードは、[パスワード編集] をクリックしてから入力します。



6 参照

- ・ 親展ボックスにジョブフローを関連付けない場合は、[関連付けられたジョブフロー] から [なし] を選択します。親展ボックスとジョブフローの関連付けについては、「親展ボックスから始まるジョブフローを作成する」(P.134) を参照してください。
- ・ パスワードの編集については、「パスワードの編集」(P.153) を参照してください。

4. [OK] をクリックします。



新しい親展ボックスが作成されます。

5. 同様の操作で、必要なだけ親展ボックスを追加します。



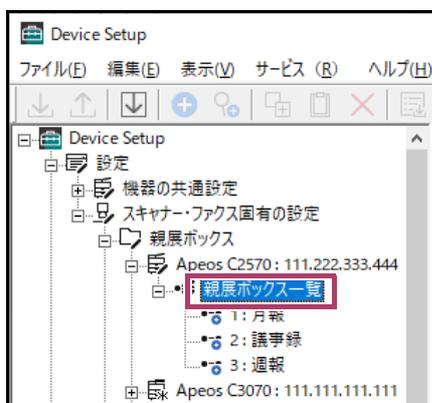
補足

この時点では、親展ボックスは機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100)を参照してください。

親展ボックスをコピーする

前項の操作で作成した親展ボックスを、別の機器にコピーできます。親展ボックスをコピーする方法は、次のとおりです。

1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [親展ボックス] > コピー元の機器の順に展開して、[親展ボックス一覧] を選択します。

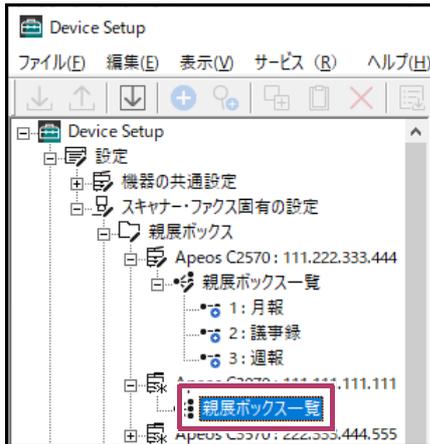


補足

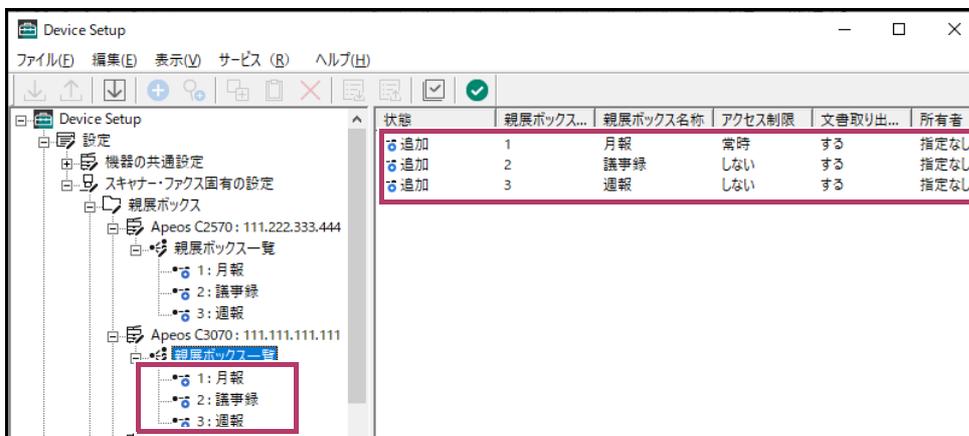
個々の親展ボックスをコピーする場合は、ツリービューまたはリストビューで、親展ボックスを選択します。

2. [サービス] メニューの [親展ボックスのコピー] を選択します。

3. ツリービューで、コピー先の機器を展開して、[親展ボックス一覧] を選択します。



4. [サービス] メニューの [親展ボックスの貼り付け] を選択します。



親展ボックスが貼り付けられます。



補足

- ・この時点では、親展ボックスは機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100) を参照してください。
- ・同じ番号の親展ボックスがコピー先にあった場合は、[親展ボックスの作成-貼り付けの確認] ダイアログボックスが表示されます。
[既存の親展ボックス番号に上書きする] を選択すると、Device Setup 内に登録されている同じ番号の設定内容が、上書きされます。(この時点では、機器には反映されません。) 別の番号で登録したい場合は、[別の親展ボックス番号で登録する] を選択して、新しい番号を入力してください。

親展ボックスを一括作成する

「Device Setup 入力ツール」と Device Setup を使用して、複数の親展ボックスを一括で作成できます。複数の親展ボックスを、1 台の機器に登録したいときに便利です。

Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel のブック形式のファイルです。

複数の親展ボックスの情報を Device Setup の Excel シートに入力し、書き出したデータを Device Setup で取り込んで、親展ボックスを一括作成します。



補足

Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel を使用して、一度に多くの設定情報を作成できます。設定情報を入力したデバイス設定入力ツールを保存する場合は、保存したファイルから個人情報が流出しないように保護してください。例としては、次のような方法があります。

- ・パスワードを設定した ZIP ファイルにする
- ・アクセスできるユーザーを限定したフォルダーに格納する

Device Setup 入力ツールで一括作成ファイルを作成する

Device Setup 入力ツールを使用して、親展ボックスの一括作成ファイルを作成します。作成方法は、次のとおりです。



注記

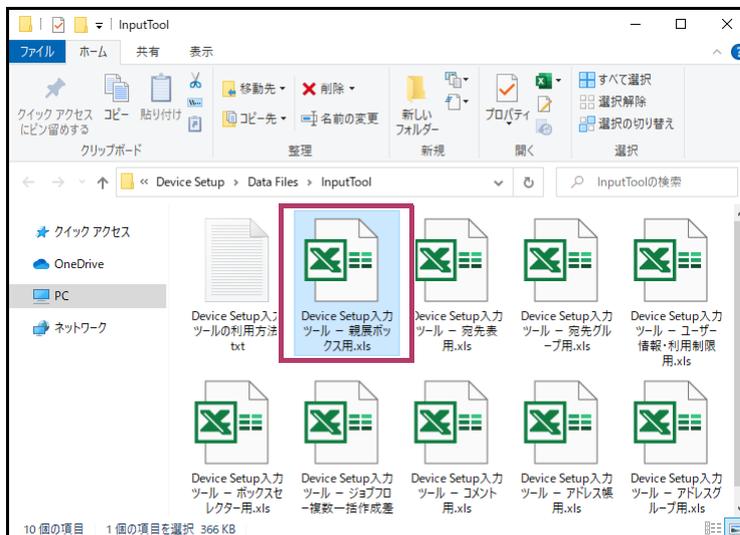
Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。



補足

- ・ 機器や Device Setup で変更した親展ボックスの情報は、デバイス設定入力ツールには反映されません。したがって、Excel のシート内容は、機器の最新の状態とは異なる場合があります。
- ・ 書き出した一括作成ファイルの拡張子は、「mb3」（Device Setup 独自のフォーマット）です。

1. Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [デバイス設定入力ツール] の順に選択します。[InputTool] ウィンドウが表示されます。
2. 「Device Setup 入力ツール – 親展ボックス用 .xls」 ファイルをダブルクリックします。



補足

- ・ Device Setup 入力ツールはマクロを使用しています。このツールを利用するには、Microsoft Excel のセキュリティレベルを [中] 以下にする必要があります。[中] の場合は、マクロの実行を確認するメッセージが表示されますので、[マクロを有効にする] をクリックします。
- ・ 「Device Setup 入力ツールの利用方法.txt」 をダブルクリックすると、Device Setup 入力ツールの補足情報や、制限事項が表示されます。



参照

Device Setup 入力ツールが対応している Excel のバージョンについては、「必要なシステム環境」(P.18) を参照してください。

3. 表示された Excel シートに、作成する親展ボックスの情報を入力します。1 行に 1 つの親展ボックスの情報を設定します。親展ボックス情報は、最大で 500 件まで入力できます。入力が終了したら、最後に入力した行で [データ処理] 列のセルの [▼] をクリックし、[データ終了] を選択します。

補足

[データチェック] をクリックすると、セルに入力した内容が正しいかどうかをチェックできます。ただし、手順 4 で [データ書き出し] をクリックしたときも、同じチェックが実行されます。

参照

各セルに入力する内容については、見出しのセルをクリックすると表示されるヘルプを参照してください。

4. [データ書き出し] をクリックします。
セルの入力値がチェックされます。内容に誤りがある場合は、エラーのセルが強調され、エラーメッセージが表示されます。
正しい値を入力してから、再度 [データ書き出し] をクリックします。
内容が正しい場合は、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。
5. ファイル名と保存先を指定して、[保存] をクリックします。

[データの書き出し] メッセージが表示されます。

6. [OK] をクリックします。

指定した場所に、拡張子「mb3」（Device Setup 独自のフォーマット）の一括作成ファイルが作成されます。

あらかじめ用意されているブックは、上書き保存できません。入力した内容を保存するには、[ファイル]メニューの[名前を付けて保存]を選択し、名前を指定して保存します。



Device Setup のインストール先フォルダーとは別の場所にある、アクセスできるユーザーを限定したフォルダーに保存してください。

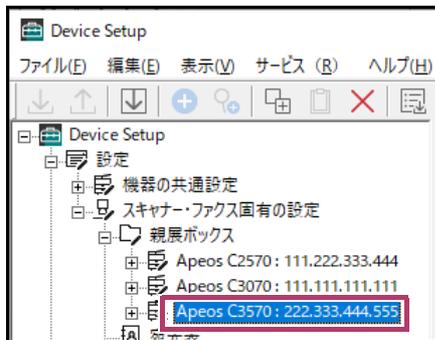
7. [ファイル] メニューから、[閉じる] を選択します。

Device Setup 入力ツールが終了します。

Device Setup で一括作成ファイルを読み込む

Device Setup 入力ツールで書き出した一括作成ファイルを Device Setup に読み込む方法は、次のとおりです。

1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [親展ボックス] の順に展開して、機器を選択します。

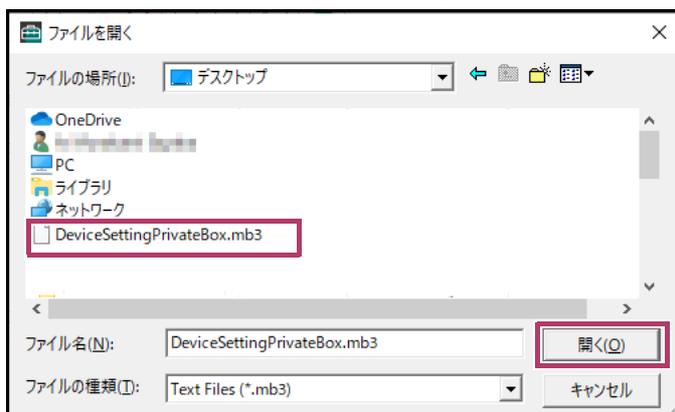


2. [サービス] メニューの [親展ボックスの読み込み] を選択します。

[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。

3. 前項で一括作成ファイルを書き出した場所を参照します。

一括作成ファイル（拡張子は「mb3」）を選択し、[開く] をクリックします。



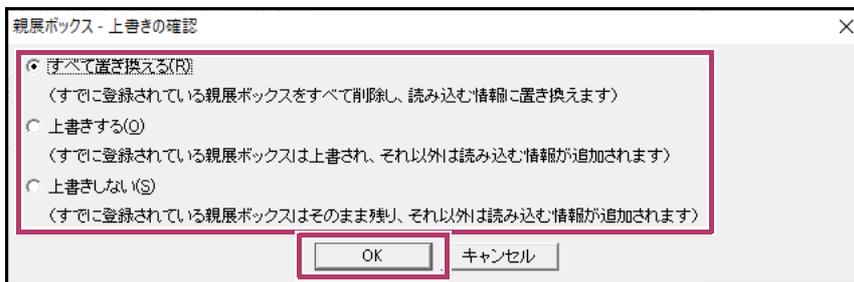
[親展ボックス情報の内容確認] ダイアログボックスが表示されます。

4. 作成する親展ボックスとして、誤った情報がないか確認します。
確認したら、[はい] をクリックします。



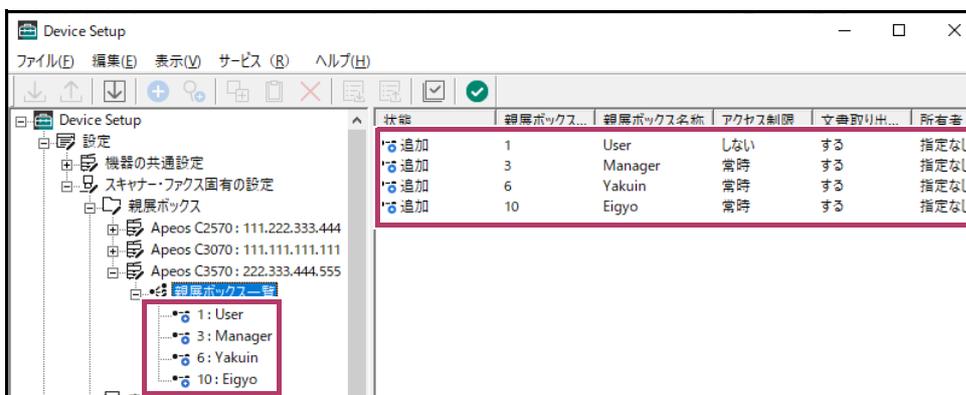
[親展ボックス - 上書きの確認] ダイアログボックスが表示されます。

5. 親展ボックスを上書きするかどうかを選択します。
選択したら、[OK] をクリックします。



確認のメッセージが表示されます。

6. [OK] をクリックします。



[親展ボックス一覧] に、一括作成ファイルから読み込んだ親展ボックスが表示されます。

補足

この時点では、親展ボックスは機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100)を参照してください。
機器に該当の機能が無い場合は、機器に設定するときにエラーが発生します。

親展ボックスを使用する

作成した親展ボックスを使用する方法は、次のとおりです。



次の操作は、親展ボックスを機器に設定したあとに実行してください。詳しくは、「設定内容を機器に反映する」(P.100) を参照してください。

1. 原稿を機器にセットします。
2. 機器の操作パネルで [メニュー] ボタンを押し、[スキャナー (ボックス保存)] を選択します。
3. データを保存する親展ボックスを選択し、スキャンを実行します。
4. PC 上で、親展ボックスからスキャンデータを取り込みます。



お使いの機種によって、操作方法が異なる場合があります。機器の詳しい操作手順については、機器のマニュアルを参照してください。

宛先表を設定する

ここでは、次の項目について説明します。

- 宛先表サービスについて
- 機器に宛先表を設定する方法
- 宛先表をファイルに書き出す方法、および Device Setup に読み込む方法
- 宛先を一括作成する方法

宛先表サービスについて

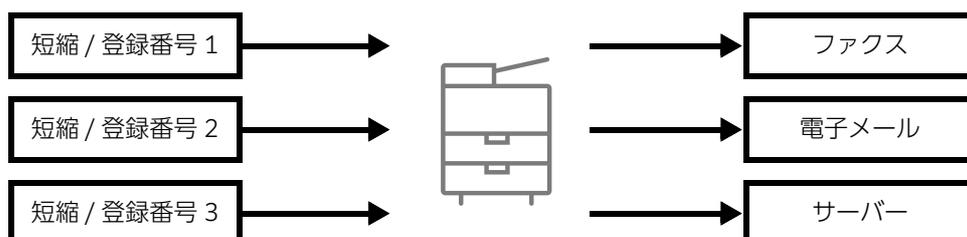
宛先表サービスは、機器の宛先表を Device Setup で管理するためのサービスです。

宛先表とは、短縮 / 登録番号と、宛先を保存した情報です。

機器に原稿をセットして短縮 / 登録番号を選択すると、対応する宛先に送信されます。

宛先の種類には、ファクスだけでなく電子メール、インターネットファクス、IP ファクス (SIP)、サーバー (SMB または FTP) もあります。

電子メールやサーバー送信をサポートしている機器では、原稿をセットして短縮 / 登録番号を選択すると、原稿をスキャンしたイメージが、電子メールで送信されたり、共有フォルダーや FTP サーバーに送信されたりします。



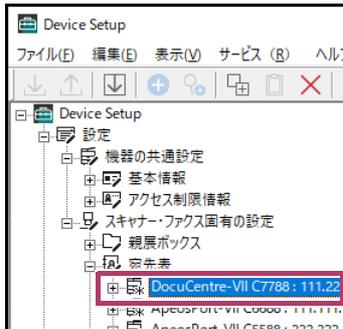
機器に宛先表を設定する

Device Setup 上で宛先表を追加する方法は、次のとおりです。

- 宛先表を新規に作成する
- 宛先表をコピーする

宛先表を新規に作成する

1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [宛先表] の順に展開して、機器を選択します。

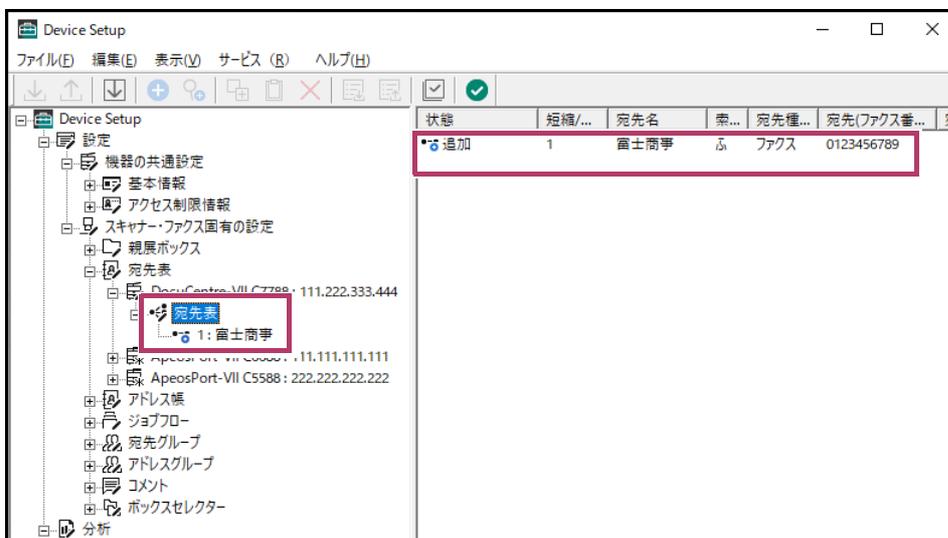


2. [サービス] メニューの [宛先の作成] を選択します。
[宛先の作成] ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定します。

短縮/登録番号(D):	1	[1~2000]
宛先名(N):	富士商事	[18文字まで]
索引文字(I):	ふ	[全角1文字のひらがな、または全半角1文字の英数字]
宛先種別(D):	ファクス	
宛先(ファクス番号)(E):	0123456789	
宛先(メールアドレス)(M):		

4. [OK] をクリックします。



新しい宛先が作成されます。

5. 同様の操作で、必要なだけ宛先を追加します。



この時点では、宛先表は機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100) を参照してください。

宛先表をコピーする

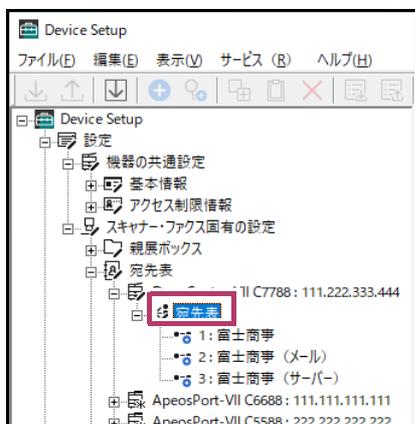
Device Setup に登録されている宛先表を、別の機器にコピーできます。



宛先の最大登録数が異なる機種間で宛先表をコピーする場合、宛先はその機器の最大登録数までコピーされません。

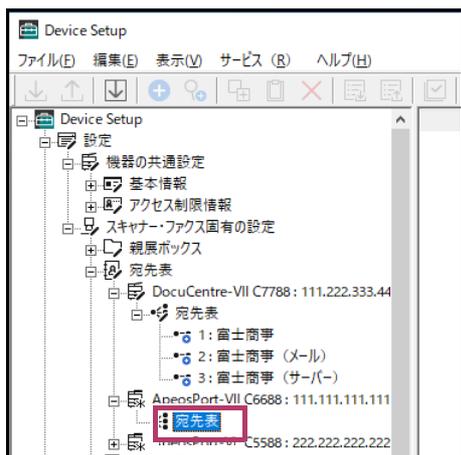
1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [宛先表] > コピー元の機器の順に展開して、[宛先表] を選択します。

個々の宛先をコピーする場合は、ツリービューまたはリストビューで、宛先を選択します。

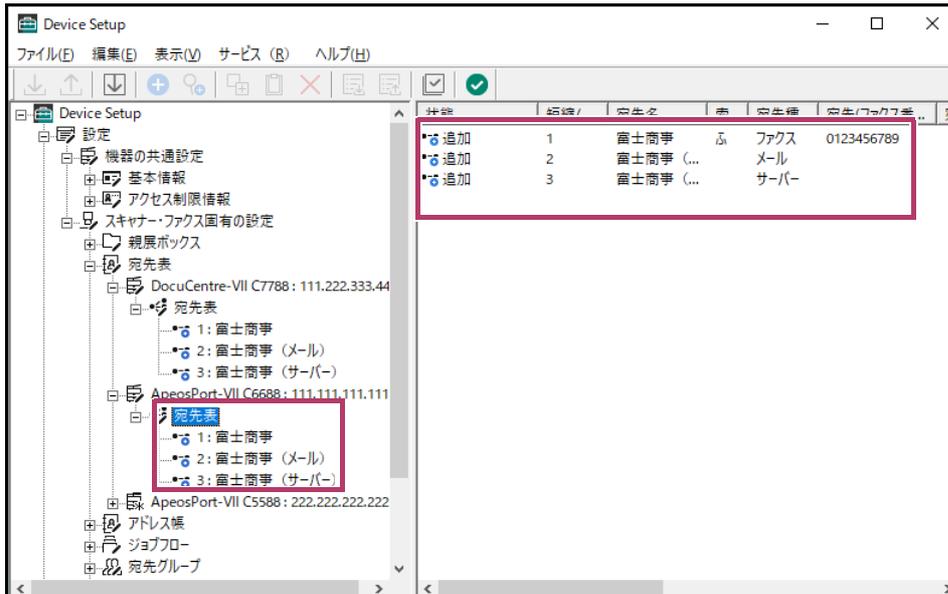


2. [サービス] メニューの [宛先のコピー] を選択します。

3. ツリービューでコピー先の機器を展開して、[宛先表] を選択します。



4. [サービス] メニューの [宛先の貼り付け] を選択します。



宛先表が貼り付けられます。



補足

この時点では、宛先表は機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100) を参照してください。

宛先表を書き出す・読み込む

Device Setup に登録されている機器の宛先表をファイルに書き出せます。さらに、書き出したファイルを Device Setup に読み込むこともできます。

この機能は、他の PC の Device Setup で、同じ宛先表を使用する場合などに利用できます。

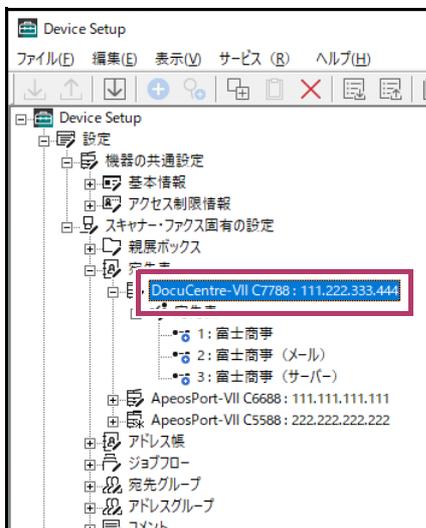


補足

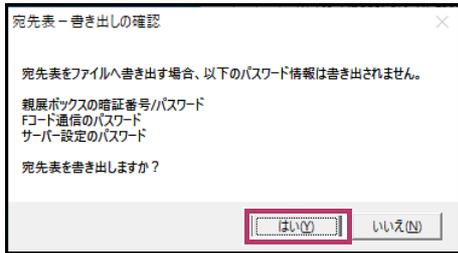
- ・ Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。
- ・ 書き出した宛先表ファイルの拡張子は、「mb5」（Device Setup 独自のフォーマット）です。

宛先表をファイルに書き出す

1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [宛先表] の順に展開して、機器を選択します。

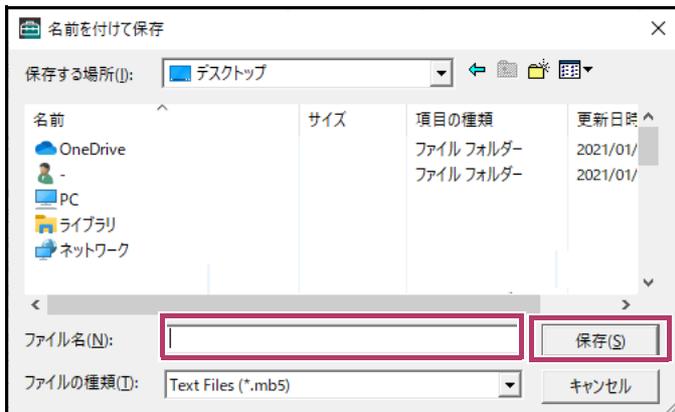


2. [サービス] メニューの [宛先表の書き出し] を選択します。
[宛先表一書き出しの確認] ダイアログボックスが表示されます。
3. [宛先表一書き出しの確認] ダイアログボックスの内容を確認し、[はい] をクリックします。



[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

4. 保存する場所、およびファイル名を指定し、[保存] をクリックします。

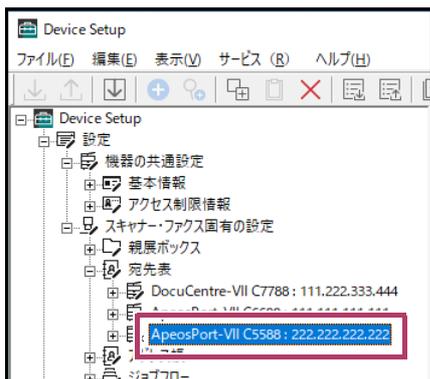


指定した場所に、拡張子「mb5」（Device Setup 独自のフォーマット）の宛先表ファイルが作成されます。

宛先表ファイルを Device Setup に読み込む

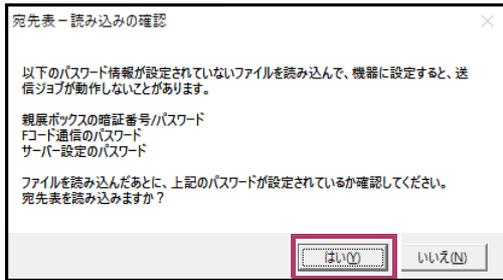
前項で書き出した宛先表ファイルを Device Setup に読み込む方法は、次のとおりです。

1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [宛先表] の順に展開して、機器を選択します。



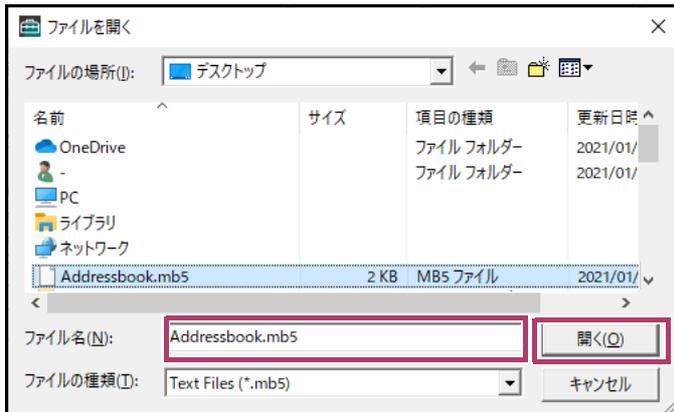
2. [サービス] メニューの [宛先表の読み込み] を選択します。
[宛先表一読み込みの確認] ダイアログボックスが表示されます。

3. [宛先表一読み込みの確認] ダイアログボックスの内容を確認し、[はい] をクリックします。



[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。

4. 前項で宛先表ファイルを書き出した場所を参照します。 宛先表ファイル (拡張子は「mb5」) を選択し、[開く] をクリックします。



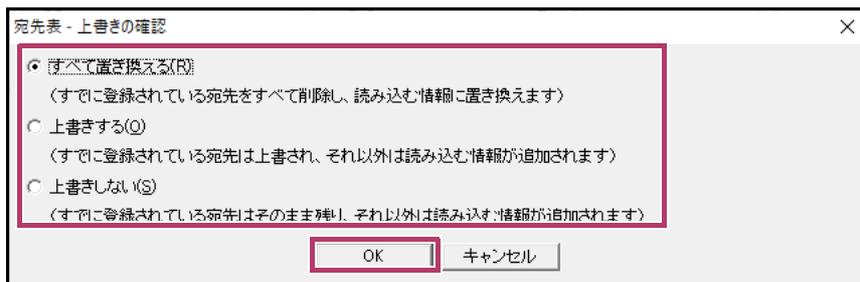
[宛先情報の内容確認] ダイアログボックスが表示されます。

5. Device Setup に読み込む宛先として、誤った情報がないか確認します。 確認したら、[はい] をクリックします。



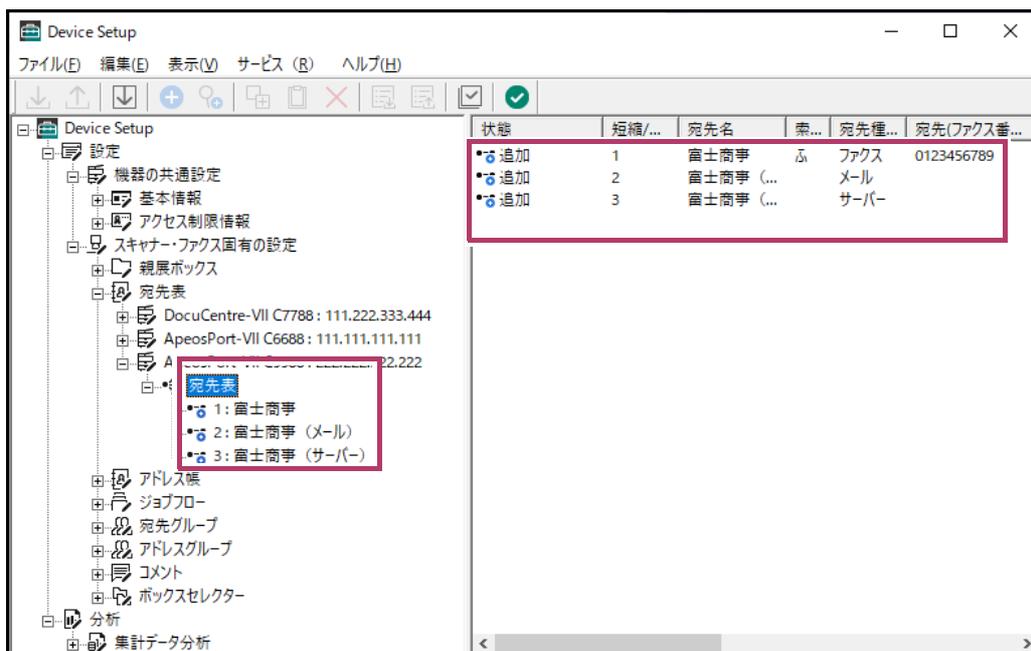
[宛先表一上書きの確認] ダイアログボックスが表示されます。

6. 宛先表を上書きするかどうかを選択して、[OK] をクリックします。



確認のメッセージが表示されます。

7. [OK] をクリックします。



[宛先表] に、ファイルから読み込んだ宛先が表示されます。



補足

この時点では、宛先表は機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定し参照してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100)を参照してください。
機器に該当の機能が無い場合は、機器に設定するときにエラーが発生します。

宛先表を使用する



補足

次の操作は、宛先表を機器に設定したあとに実行してください。詳しくは、「設定内容を機器に反映する」(P.100)を参照してください。

1. 原稿を機器にセットします。
2. 機器の操作パネルで、[メニュー] ボタンを押して、[ファクス] を選択します。
3. [短縮] ボタンを押して、数字ボタンで短縮番号を入力します。
4. [スタート] ボタンを押します。



参照

お使いの機種によって、操作方法が異なる場合があります。詳しい操作方法については、機器のマニュアルを参照してください。

宛先を一括作成する

「Device Setup 入力ツール」と Device Setup を使用して、宛先を一括で作成できます。複数の宛先を、1 台の機器に登録したいときなどに便利です。

Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel のブック形式のファイルです。

複数の宛先情報を Excel のシートに入力し、書き出したデータを Device Setup に取り込んで、宛先を一括作成する方法は、次のとおりです。



補足

Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel を使用して、一度に多くの設定情報を作成できます。設定情報を入力した Device Setup 入力ツールを保存する場合は、保存したファイルから個人情報が出ないように保護してください。例としては、次のような方法があります。

- ・パスワードを設定した ZIP ファイルにする
- ・アクセスできるユーザーを限定したフォルダーに格納する

Device Setup 入力ツールで一括作成ファイルを作成する

「Device Setup 入力ツール - 宛先表用.xls」は、次の Excel シートから構成されています。

- ファクス
宛先種別がファクスの宛先情報を作成するときに、このシートを使用します。設定できる項目は、[短縮 / 登録番号]、[宛先名]、[索引文字]、[宛先 (ファクス番号)]、[内線 / 外線]、[通信モード]、[送信画質] です。
- インターネット
ファクス宛先種別がインターネットファクスの宛先情報を作成するときに、このシートを使用します。設定できる項目は、[短縮 / 登録番号]、[宛先名]、[索引文字]、[宛先 (メールアドレス)]、[通信モード]、[送信画質]、[最大蓄積サイズ]、[インターネットファクスプロファイル] です。
- メール
宛先種別がメールの宛先情報を作成するときに、このシートを使用します。設定できる項目は、[短縮 / 登録番号]、[宛先名]、[宛先 (メールアドレス)]、[姓]、[名]、[補助項目 1]、[補助項目 2]、[補助項目 3] です。
- サーバー
宛先種別がサーバーの宛先情報を作成するときに、このシートを使用します。設定できる項目は、[短縮 / 登録番号]、[宛先名]、[転送プロトコル]、[サーバー名 / IP アドレス]、[共有名]、[保存場所]、[ログイン名]、[パスワード]、[ポート番号] です。
- IP ファクス (SIP)
宛先種別が IP ファクス (SIP) の宛先情報を作成するときに、このシートを使用します。設定できる項目は、[短縮 / 登録番号]、[宛先名]、[索引文字]、[宛先 (ファクス番号)]、[通信モード]、[送信画質] です。
- 短縮登録番号一覧
[ファクス]、[インターネットファクス]、[メール]、[サーバー]、[IP ファクス (SIP)] シートに記入されている宛先種別と宛先名を、[短縮 / 登録番号] の順に一覧で表示するときに、このシートを使用します。



注記

Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。

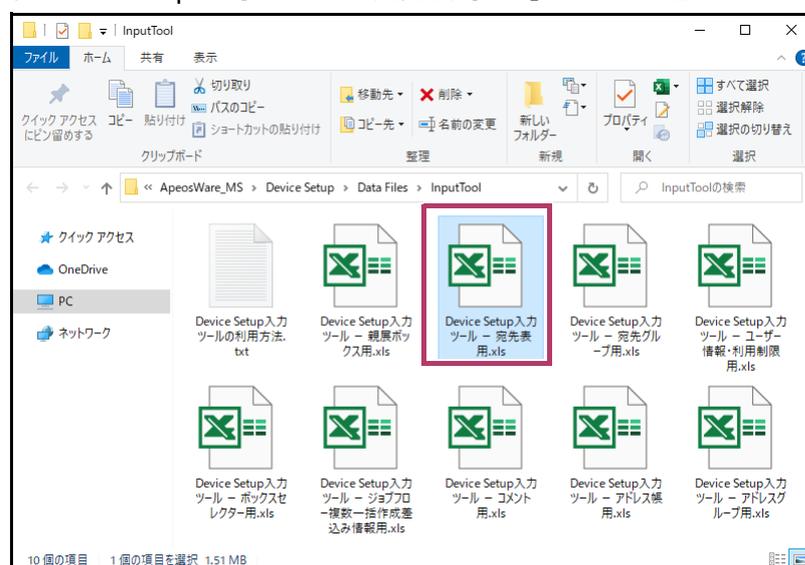


補足

- ・機器や Device Setup で変更した宛先情報は、Device Setup 入力ツールには反映されません。そのため、Excel のシート内容は、機器の最新の状態とは異なる場合があります。
- ・書き出した一括作成ファイルの拡張子は、「mb5」（Device Setup 独自のフォーマット）です。

ここでは、[ファクス] シートと [メール] シートを使用して、宛先の一括作成を実行する方法について説明します。

1. Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [デバイス設定入力ツール] の順に選択します。
[InputTool] ウィンドウが表示されます。
2. 「Device Setup 入力ツール - 宛先表用 .xls」 ファイルをダブルクリックします。



補足

- ・ Device Setup 入力ツールはマクロを使用しています。このツールを利用するには、Microsoft Excel のセキュリティレベルを [中] 以下にする必要があります。[中] の場合は、マクロの実行を確認するメッセージが表示されますので、[マクロを有効にする] をクリックします。
- ・ 「Device Setup 入力ツールの利用方法 .txt」 をダブルクリックすると、Device Setup 入力ツールの補足情報や、制限事項が表示されます。

参照

Device Setup 入力ツールが対応している Excel のバージョンについては、「必要なシステム環境」(P.18) を参照してください。

3. 使用する Excel シートを選択し、作成する宛先情報を入力します。
ここでは、[ファクス] シートと [メール] シートにそれぞれ入力します。
1 行に 1 つの宛先情報を設定します。[短縮 / 登録番号] は、次の条件を満たす必要があります。

- 番号は 1 ~ 2000 の範囲であること
- [ファクス]、[インターネットファクス]、[メール]、[サーバー]、[IP ファクス (SIP)] のシートを通して重複しないこと

補足

- ・ [宛先の作成] ダイアログボックスの項目には、「Device Setup 入力ツール - 宛先表用 .xls」に含まれていないものがあります。データを書き出すとき、その項目にはデフォルト値が設定されます。「Device Setup 入力ツール - 宛先表用 .xls」に含まれていない項目の属性値を修正する場合は、Device Setup で編集してください。
- ・ 「Device Setup 入力ツール - 宛先表用 .xls」で、入力が任意である項目を空白にした場合も、データを書き出すときにデフォルト値が設定されます。
- ・ 宛先表の最大登録数は、機器によって異なります。

参照

各セルに入力する内容については、見出しのセルをクリックすると表示されるヘルプを参照してください。

4. 入力終了したら、最後に入力した行で、[データ処理] 列のセルの [▼] をクリックし、[データ終了] を選択します。

■ [ファクス] シートの状態

本入力ツールは対応機器にデータを登録/設定するための入力補助ツールです。
入力専用のツールですので、各機器やDevice Setupで登録/設定/変更したデータを本入力ツールに読み込むことはできません。

任意入力属性(項目名が水色で表示されるセル)を空欄とした場合、デフォルト値がファイルに書き出されます。
この場合、通信エラーなどが生じる可能性がありますので、適切な値を入力してください。
本入力ツールにて入力欄が用意されていない項目は、Device Setup上でデータを登録/設定/変更する必要がありますのでご注意ください。

[データ書き出し]を実行すると、各シートのデータ処理欄に[データ終了]が設定されている全てのシートの属性が一括でファイルに書き出されます。
[データ書き出し]を実行する前に、古いデータや誤ったデータが含まれていないか各シートのデータを確認してください。
本ツールでは、使用禁止文字や全角/半角文字のチェックはしません(Device Setupで読み込むときにチェックされます)。
その他詳細につきましては、Device Setupに同梱される取扱説明書をご確認ください。

No.	データ処理	備考1	短縮/登録番号[必須]	宛先名	索引文字	宛先(ファクス番号)[必須]	内線/外線	通信
1	▼	一般社員A用	10	一般社員A用	い	1-111-1111	内線	
2	▼	一般社員B用	20	一般社員B用	い	1-111-2222	内線	
3	▼	一般社員C用	30	一般社員C用	い	1-111-3333	内線	
4	▼	マネージャー用	40	マネージャー用	ま	1-111-4444	内線	

■ [メール] シートの状態

本入力ツールは対応機器にデータを登録/設定するための入力補助ツールです。
入力専用のツールですので、各機器やDevice Setupで登録/設定/変更したデータを本入力ツールに読み込むことはできません。

任意入力属性(項目名が水色で表示されるセル)を空欄とした場合、デフォルト値がファイルに書き出されます。
この場合、通信エラーなどが生じる可能性がありますので、適切な値を入力してください。
本入力ツールにて入力欄が用意されていない項目は、Device Setup上でデータを登録/設定/変更する必要がありますのでご注意ください。

[データ書き出し]を実行すると、各シートのデータ処理欄に[データ終了]が設定されている全てのシートの属性が一括でファイルに書き出されます。
[データ書き出し]を実行する前に、古いデータや誤ったデータが含まれていないか各シートのデータを確認してください。
本ツールでは、使用禁止文字や全角/半角文字のチェックはしません(Device Setupで読み込むときにチェックされます)。
その他詳細につきましては、Device Setupに同梱される取扱説明書をご確認ください。

No.	データ処理	備考1	短縮/登録番号[必須]	宛先名	宛先(メールアドレス)[必須]	姓
1	▼	一般社員A用	100	一般社員A用	user1@example.com	
2	▼	一般社員B用	200	一般社員B用	user2@example.com	
3	▼	一般社員C用	300	一般社員C用	user3@example.com	
4	▼	マネージャー用	400	マネージャー用	manager@example.com	

補足

- ・ [データ終了] が設定されている行がない状態で [データチェック] または [データ書き出し] をクリックすると、エラーになります。
- ・ アクティブでないシートから宛先を書き出すには、そのシートに [データ終了] が設定されている行が必要です。
- ・ 空白のシートでは、[データ終了] を設定しないでください。
- ・ [データチェック] をクリックすると、それまで入力したセルの内容が正しいかどうかをチェックできます。ただし、手順 6 で [データ書き出し] をクリックしたときも、同じチェックが実行されます。

5. [短縮登録番号一覧] シートを選択し、[一覧作成] をクリックします。

[ファクス]、[インターネットファクス]、[メール]、[サーバー]、[IP ファクス (SIP)] シートで、[データ終了] を設定した行までの宛先種別と宛先名が、短縮登録番号の順に一覧で表示されます。[スキップ] が設定されている行は、表示されません。

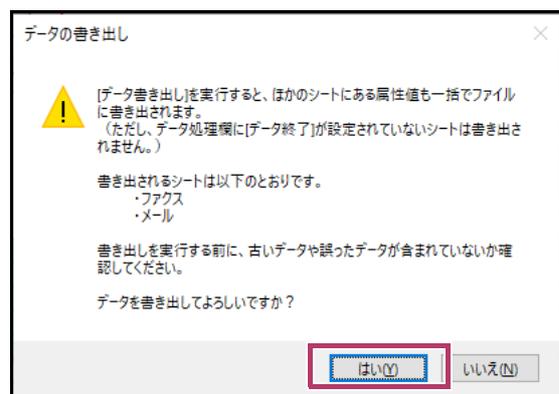


[短縮 / 登録番号] が重複している場合、または範囲外の番号の場合は、エラーメッセージが表示されます。また、エラーに該当するデータのセルにカーソルが移動して停止します。修正して、再度 [一覧作成] をクリックしてください。

6. [データ書き出し] をクリックします。

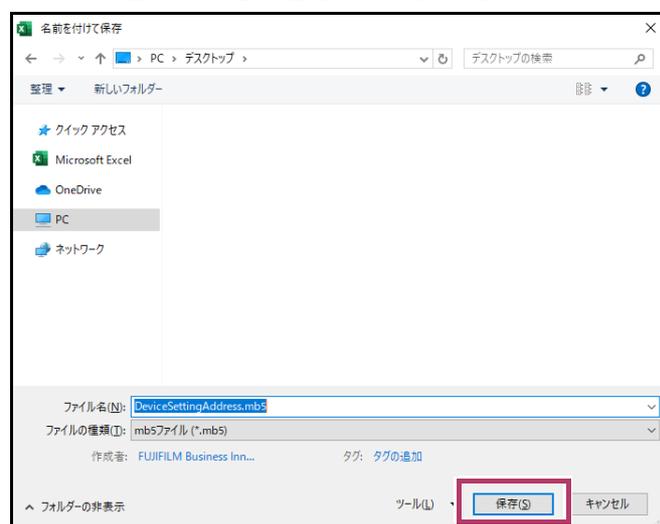
内容に誤りがある場合は、エラーのセルが強調され、エラーメッセージが表示されます。内容が正しい場合は、[データの書き出し] ダイアログボックスが表示されます。

7. 一括作成ファイルに書き出されるシートを確認します。確認したら、[はい] をクリックします。



[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

8. ファイル名と保存先を指定して、[保存] をクリックします。



[データの書き出し] メッセージが表示されます。

9. [OK] をクリックします。

指定した場所に、拡張子「mb5」(Device Setup 独自のフォーマット) の一括作成ファイルが作成されます。

あらかじめ用意されているブックは、上書き保存できません。入力した内容を保存するには、[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] を選択し、名前を指定して保存します。



Device Setup のインストール先フォルダーとは別の場所にある、アクセスできるユーザーを限定したフォルダーに

保存してください。

10. [ファイル] メニューから、[閉じる] を選択します。
Device Setup 入力ツールが終了します。

Device Setup で一括作成ファイルを読み込む



参照

「宛先表ファイルを Device Setup に読み込む」(P.56) を参照してください。

宛先グループを設定する



参照

宛先グループの概要については、「宛先グループを作成する」(P.15) を参照してください。

ここでは、次の項目について説明します。

- 機器に宛先グループを設定する方法
- 宛先グループをファイルに書き出す方法、および Device Setup に読み込む方法
- 宛先グループを一括作成する方法

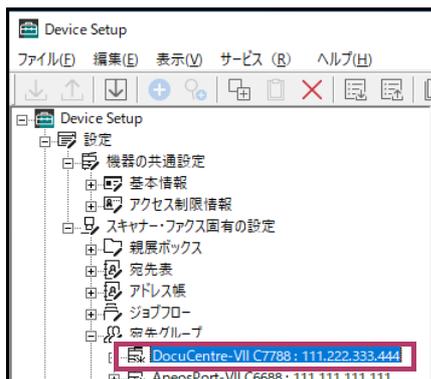
機器に宛先グループを設定する

Device Setup 上で宛先グループを追加する方法は、次のとおりです。

- 宛先グループを新規に作成する
- 宛先グループをコピーする

宛先グループを新規に作成する

1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[宛先グループ] の [+]、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [宛先グループの作成] を選択します。
[宛先グループの作成] ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定します。

宛先グループの作成

宛先グループ番号(G): [1-50]

宛先グループ名称(N):

短縮番号(M):

機器に設定可能な短縮番号をカンマ区切りで指定してください。
2000件まで登録できる機器は短縮番号を4桁で指定します。
4桁の場合の入力例: 0001,1001,2000
3桁の場合の入力例: 001,201,500

OK キャンセル 機器に設定 ヘルプ(H)

4. [OK] をクリックします。

Device Setup

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) サービス (B) ヘルプ(H)

状態	宛先グループ番号	宛先グループ名称	短縮番号
追加	1	営業一課	001

新しい宛先グループが作成されます。



補足

この時点では、宛先グループは機器に設定されていません。必要に応じて、「設定内容を機器に反映する」(P.100) の手順を実施してください。

宛先グループをコピーする

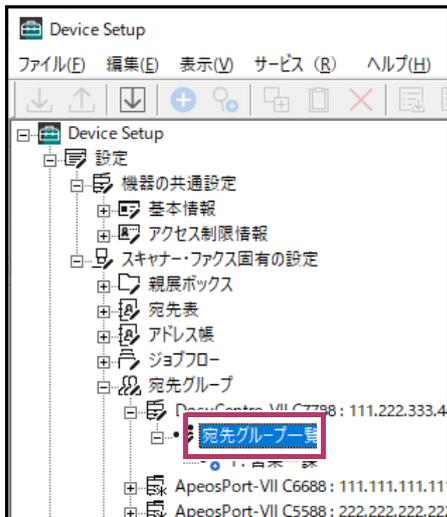
Device Setup に登録されている宛先グループを、別の機器にコピーできます。



補足

宛先グループの最大登録数が異なる機種間で宛先グループをコピーする場合、宛先グループはその機器の最大登録数までコピーされます。

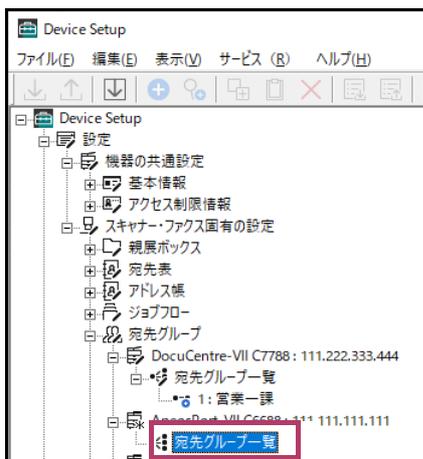
1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[宛先グループ] の [+]、コピー元の機器の [+]、[宛先グループ一覧] を選択します。



補足

個々の宛先グループをコピーする場合は、ツリービューまたはリストビューで、宛先グループを選択します。

2. [サービス] メニューの [宛先グループのコピー] を選択します。
3. ツリービューでコピー先の機器の [+]、[宛先グループ一覧] を選択します。



4. [サービス] メニューの [宛先グループの貼り付け] を選択します。



宛先グループが貼り付けられます。



補足

この時点では、宛先グループは機器に設定されていません。必要に応じて、「設定内容を機器に反映する」(P.100) の手順を実施してください。

宛先グループを書き出す・読み込む

Device Setup に登録されている機器の宛先グループをファイルに書き出せます。さらに、書き出したファイルを Device Setup に読み込むこともできます。

この機能は、他の PC の Device Setup で、同じ宛先グループを使用する場合などに利用できます。



注記

Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。

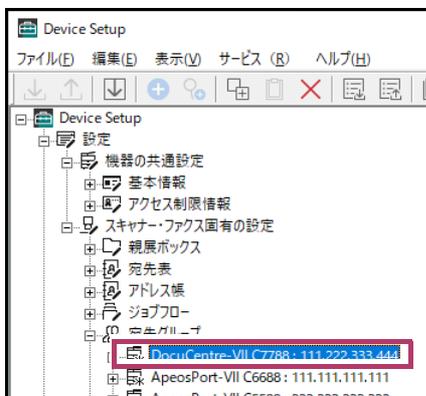


補足

書き出した宛先グループファイルの拡張子は、「mb6」(Device Setup 独自のフォーマット) です。

宛先グループをファイルに書き出す

1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[宛先グループ] の [+]、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [宛先グループの書き出し] を選択します。

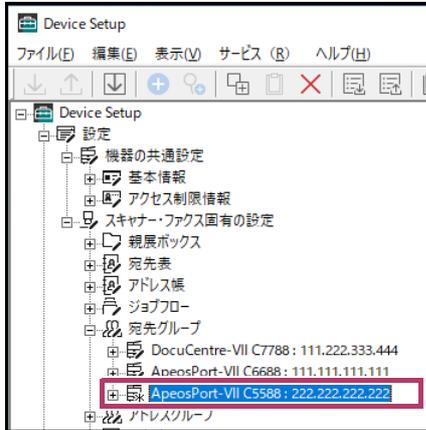
[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

3. 保存する場所、およびファイル名を指定して、[保存] をクリックします。

指定した場所に、拡張子が「mb6」（Device Setup 独自のフォーマット）の宛先グループのファイルが保存されます。

宛先グループのファイルを Device Setup に読み込む

1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[宛先グループ]、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [宛先グループの読み込み] を選択します。

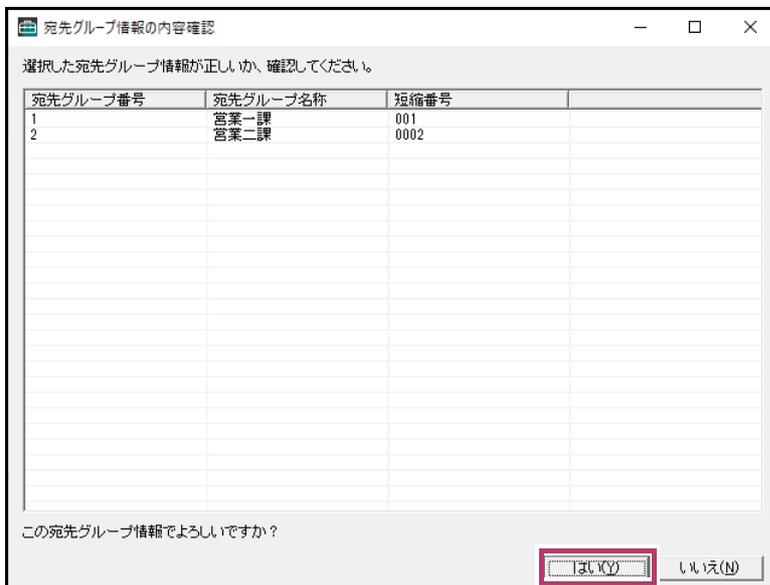
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。

3. 前項で宛先グループのファイルを書き出した場所を参照します。

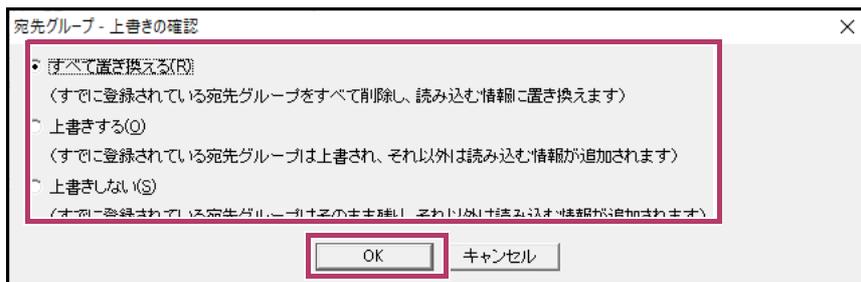
拡張子が「mb6」のファイルを選択して、[開く] をクリックします。

[宛先グループ情報の内容確認] ダイアログボックスが表示されます。

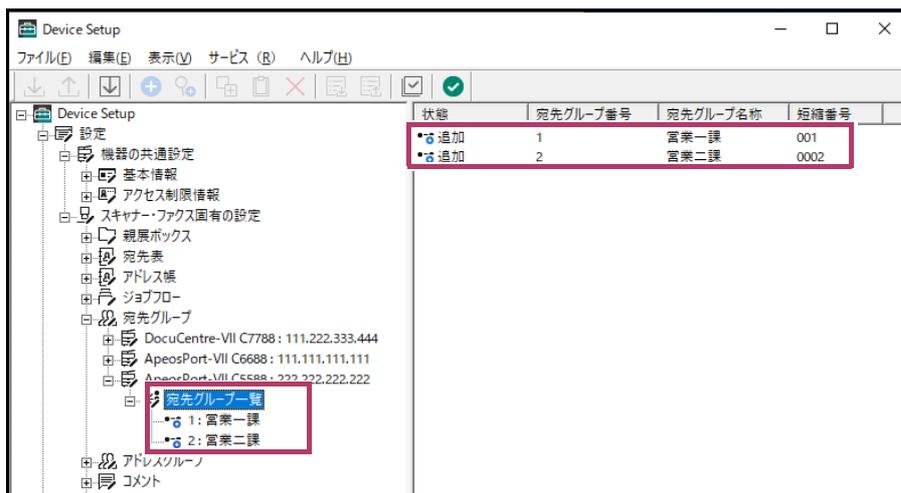
4. 問題がないか確認して、[はい] をクリックします。



5. 宛先グループを上書きするかどうかを選択して、[OK] をクリックします。



[宛先グループ一覧] に、ファイルから読み込んだ宛先グループが表示されます。



補足

この時点では、宛先グループは機器に設定されていません。必要に応じて、「設定内容を機器に反映する」(P.100) の手順を実施してください。

機器に該当の機能が無い場合は、機器に設定するときエラーが発生します。

宛先グループを一括作成する

「Device Setup 入力ツール」を使用して、宛先グループを一括で作成できます。複数の宛先グループを、1台の機器に登録したいときなどに便利です。

Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel 形式のファイルです。

Device Setup 入力ツールで一括作成ファイルを作成する



注記

Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。



補足

- ・ 機器や Device Setup で変更した宛先グループは、Device Setup 入力ツールには反映されません。そのため、Excel のシート内容は、機器の最新の状態とは異なる場合があります。
- ・ 書き出した一括作成ファイルの拡張子は、Device Setup 独自のフォーマットの「mb6」です。

1. Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [デバイス設定入力ツール] の順に選択します。 [InputTool] ウィンドウが表示されます。

2. 「Device Setup 入力ツール – 宛先グループ用 .xls」 ファイルをダブルクリックします。



補足

- ・ Device Setup 入力ツールはマクロを使用しています。このツールを利用するには、Microsoft Excel のセキュリティレベルを [中] 以下にする必要があります。[中] の場合は、マクロの実行を確認するメッセージが表示されますので、[マクロを有効にする] をクリックします。
- ・ 「Device Setup 入力ツールの利用方法 .txt」 をダブルクリックすると、Device Setup 入力ツールの補足情報や、制限事項が表示されます。



参照

Device Setup 入力ツールが対応している Excel のバージョンについては、「必要なシステム環境」(P.18) を参照してください。

3. 作成する宛先グループの情報を、1 行に 1 つずつ入力します。



補足

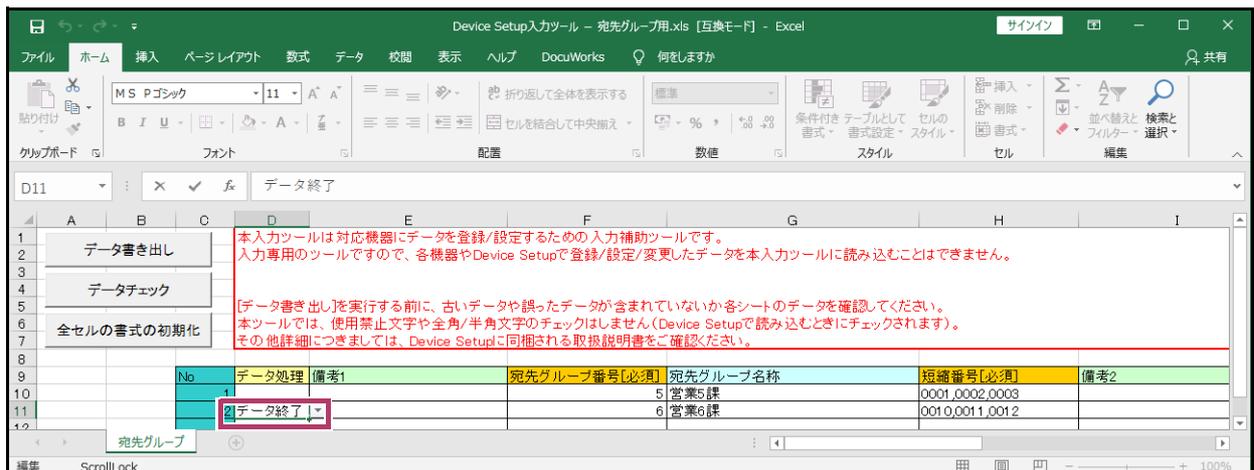
宛先グループの最大登録数は、機器によって異なります。



参照

各セルに入力する内容については、見出しのセルをクリックすると表示されるヘルプを参照してください。

4. 入力が終了したら、最後に入力した行で、[データ処理] 列のセルの [▼] をクリックして、[データ終了] を選択します。



補足

- ・ [データ終了] が設定されている行がない状態で [データチェック] または [データ書き出し] をクリックすると、エラーになります。
- ・ [データチェック] をクリックすると、それまで入力したセルの内容が正しいかどうかをチェックできます。次の手順で [データ書き出し] をクリックしたときも、同じチェックが実行されます。

5. [データ書き出し] をクリックします。

内容に誤りがある場合は、エラーのセルが強調され、エラーメッセージが表示されます。内容が正しい場合は、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

6. ファイル名と保存先を指定して、[保存] をクリックします。

[データの書き出し] メッセージが表示されます。

7. [OK] をクリックします。

指定した場所に、拡張子「mb6」(Device Setup 独自のフォーマット) の一括作成ファイルが作成されます。

8. [ファイル] メニューから、[閉じる] を選択します。

Device Setup 入力ツールが終了します。

Device Setup で一括作成ファイルを読み込む



参照

「宛先グループのファイルを Device Setup に読み込む」(P.67) を参照してください。

アドレス帳を設定する

ここでは、次の項目について説明します。

- アドレス帳サービスについて
- 機器にアドレス帳を設定する方法
- アドレス帳をファイルに書き出す方法、および Device Setup に読み込む方法
- アドレス帳を一括作成する方法

アドレス帳サービスについて

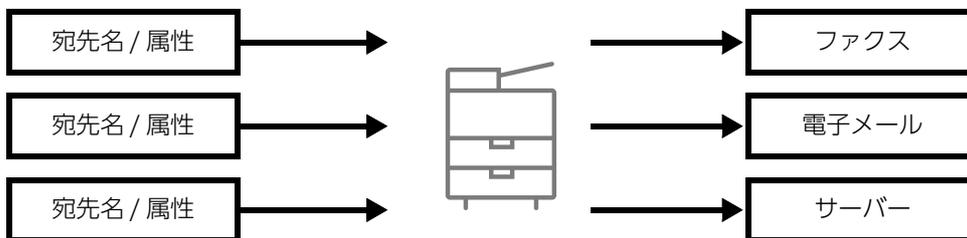
アドレス帳サービスは、機器のアドレス帳を Device Setup で管理するためのサービスです。

アドレス帳とは、宛先に属性を設定して保存した情報です。

機器に原稿をセットして宛先名や属性を入力して、宛先を選択します。

宛先の種類には、ファクスだけでなく電子メール、インターネットファクス、IP ファクス (SIP)、サーバー (SMB または FTP) もあります。

電子メールやサーバー送信をサポートしている機器では、原稿をセットして宛先を選択すると、原稿をスキャンしたイメージが、電子メールで送信されたり、共有フォルダーや FTP サーバーに送信されたりします。



機器にアドレス帳を設定する

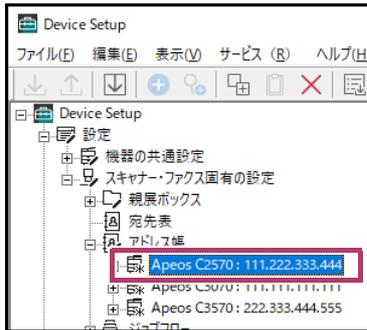
Device Setup 上でアドレス帳を追加する方法は、次のとおりです。

- アドレス帳を新規に作成する
- アドレス帳をコピーする

アドレス帳を新規に作成する

1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [アドレス帳] の順に展開して、機器を

選択します。



2. [サービス] メニューの [連絡先を追加] を選択します。
[連絡先を追加] ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定します。

連絡先を追加

表示名(N): 富士太郎 [128文字まで]

よみがな(G): ふじたろう [128文字まで]

姓(L): 富士 [32文字まで]

名(R): 太郎 [32文字まで]

会社名(C): [64文字まで]

メールアドレス(M): XXXX@example.com メール設定(E):

ファクスアドレス(F): 123456789 ファクス設定(O):

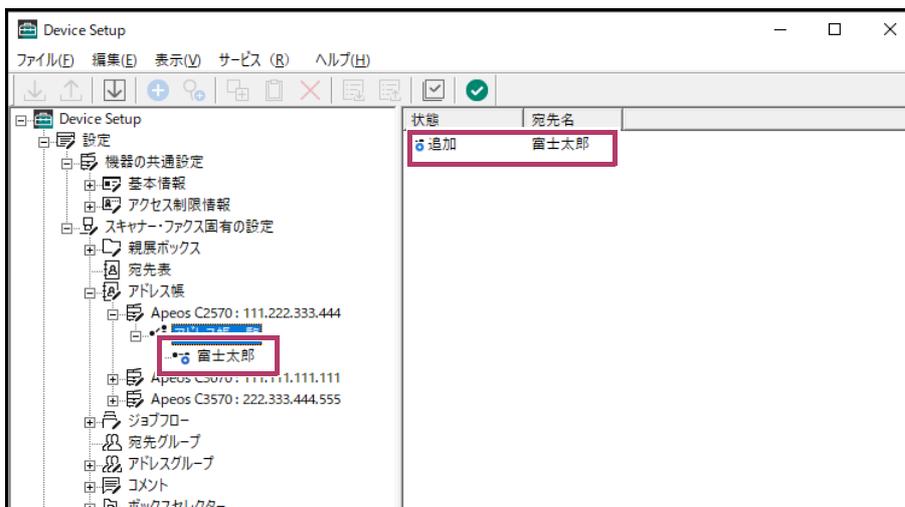
IPファクス(SIP)アドレス(P): IPファクス(SIP)設定(S):

インターネットファクスアドレス(I): インターネットファクス設定(I):

その他の宛先(Q): SMB(Scan) 詳細設定(D):

OK キャンセル 機器に設定 ヘルプ(H)

4. [OK] をクリックします。



新しいアドレス帳が作成されます。

5. 同様の操作で、必要なだけアドレス帳を追加します。



補足

この時点では、アドレス帳は機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100)を参照してください。

アドレス帳をコピーする

Device Setup に登録されているアドレス帳を、別の機器にコピーできます。

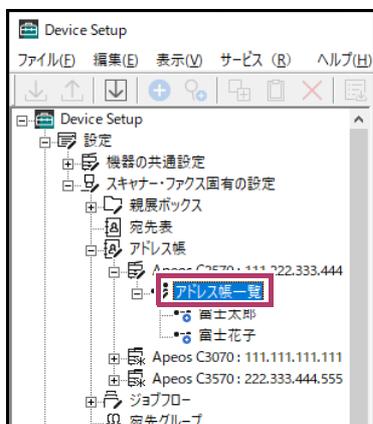


補足

アドレス帳の最大登録数が異なる機種間でアドレス帳をコピーする場合、アドレス帳はその機器の最大登録数までコピーされます。

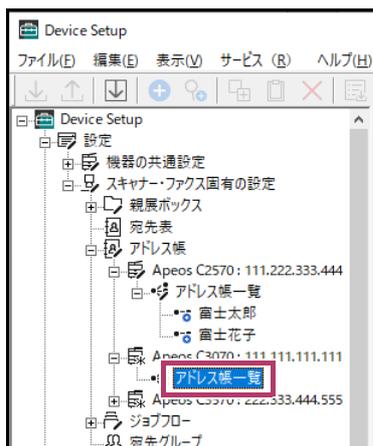
1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [アドレス帳] > コピー元の機器の順に展開して、[アドレス帳一覧] を選択します。

個々のアドレス帳をコピーする場合は、ツリービューまたはリストビューで、アドレス帳を選択します。

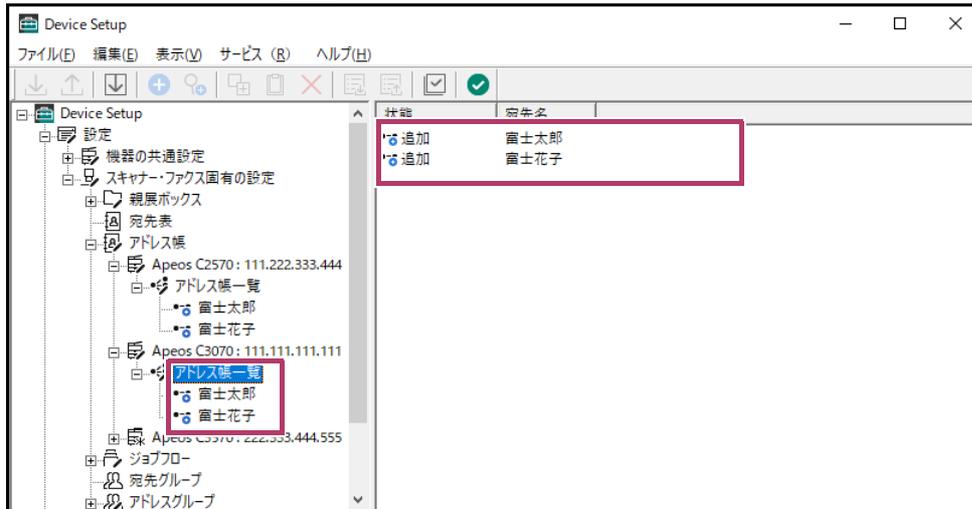


2. [サービス] メニューの [連絡先のコピー] を選択します。

3. ツリービューでコピー先の機器を展開して、[アドレス帳一覧] を選択します。



4. [サービス] メニューの [連絡先の貼り付け] を選択します。



アドレス帳が貼り付けられます。



この時点では、アドレス帳は機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100) を参照してください。

アドレス帳を書き出す・読み込む

Device Setup に登録されている機器のアドレス帳をファイルに書き出せます。さらに、書き出したファイルを Device Setup に読み込むこともできます。

この機能は、他の PC の Device Setup で、同じアドレス帳を使用する場合などに利用できます。



注記

Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。

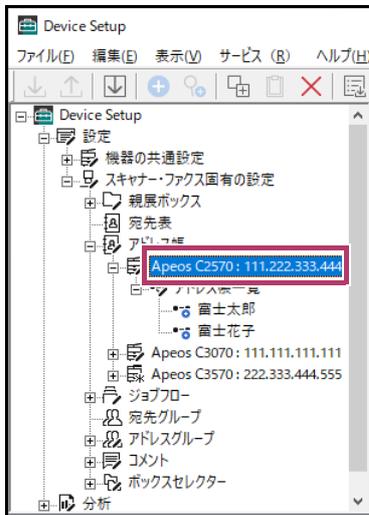


補足

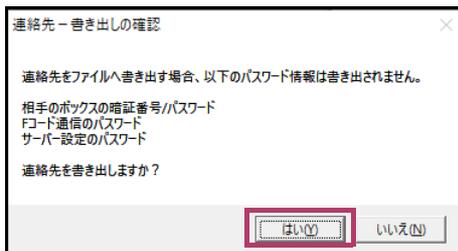
書き出したアドレス帳ファイルの拡張子は、「mb9」（Device Setup 独自のフォーマット）です。

アドレス帳をファイルに書き出す

1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [アドレス帳] の順に展開して、機器を選択します。

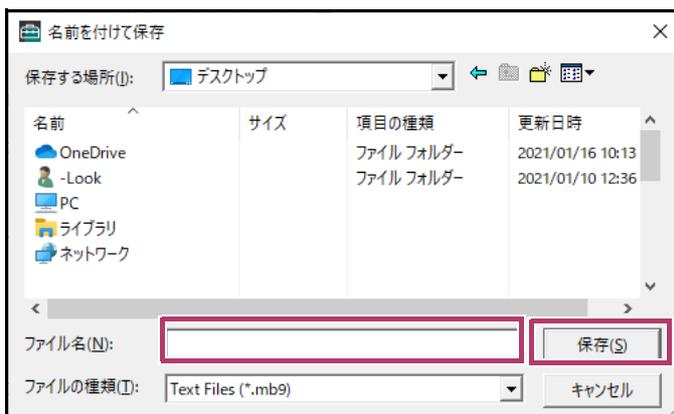


2. [サービス] メニューの [連絡先の書き出し] を選択します。
[連絡先書き出しの確認] ダイアログボックスが表示されます。
3. [連絡先書き出しの確認] ダイアログボックスの内容を確認し、[はい] をクリックします。



[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

4. 保存する場所、およびファイル名を指定し、[保存] をクリックします。

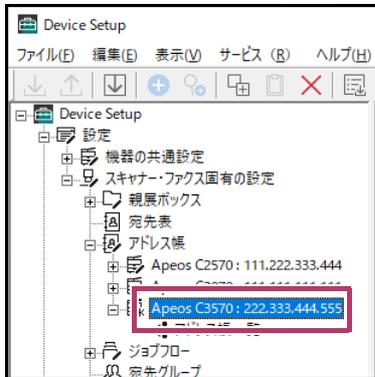


指定した場所に、拡張子「mb9」（Device Setup 独自のフォーマット）のアドレス帳ファイルが作成されます。

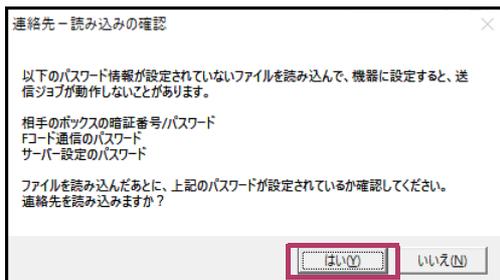
アドレス帳ファイルを Device Setup に読み込む

前項で書き出したアドレス帳ファイルを Device Setup に読み込む方法は、次のとおりです。

1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [アドレス帳] の順に展開して、機器を選択します。

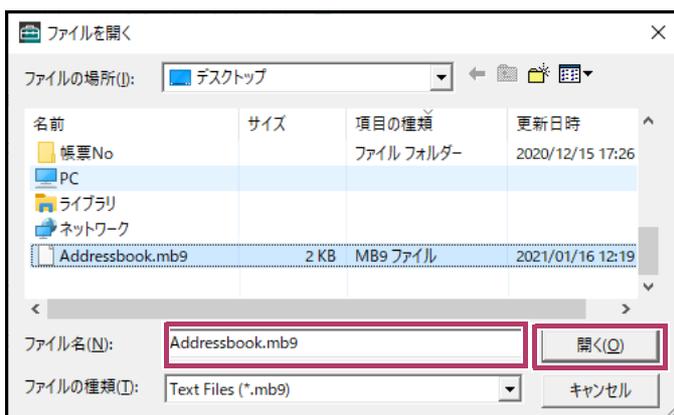


2. [サービス] メニューの [連絡先の読み込み] を選択します。
[連絡先—読み込みの確認] ダイアログボックスが表示されます。
3. [連絡先—読み込みの確認] ダイアログボックスの内容を確認し、[はい] をクリックします。



[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。

4. 前項でアドレス帳ファイルを書き出した場所を参照します。
アドレス帳ファイル (拡張子は「mb9」) を選択し、[開く] をクリックします。



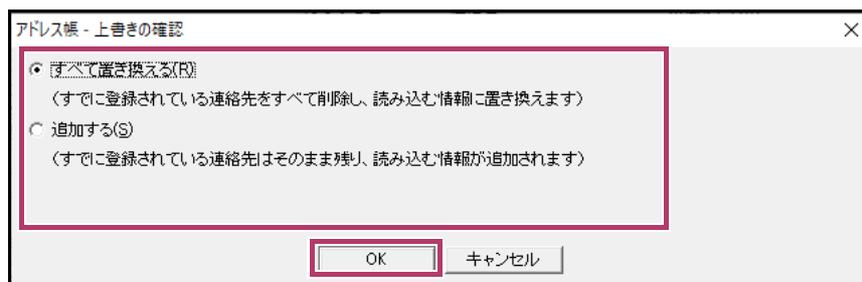
[連絡先情報の内容確認] ダイアログボックスが表示されます。

5. Device Setup に読み込む連絡先情報が正しいか確認します。
確認したら、[はい] をクリックします。



[アドレス帳 - 上書きの確認] ダイアログボックスが表示されます。

6. アドレス帳を上書きするかどうかを選択して、[OK] をクリックします。



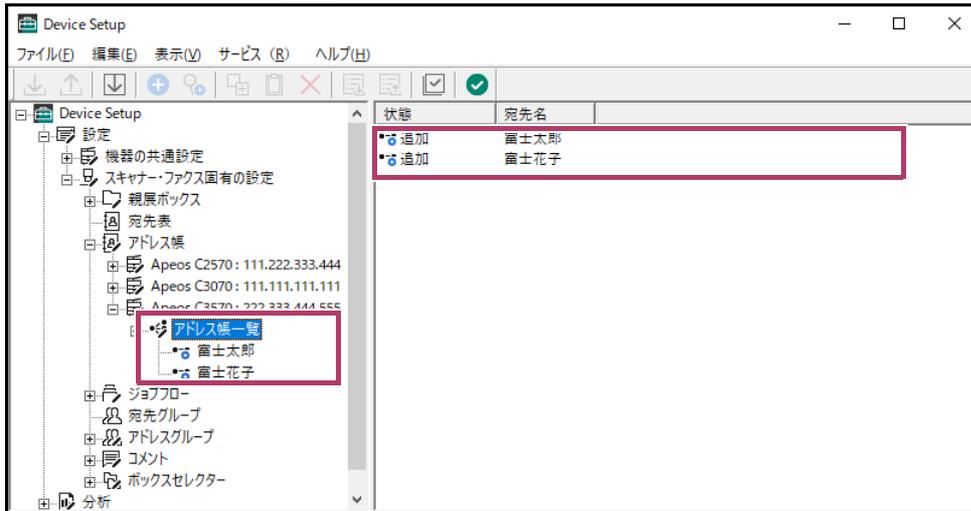
確認のメッセージが表示されます。



補足

アドレス帳の一部を編集することはできません。その場合は、Device Setup 上でアドレス帳を編集してください。

7. [OK] をクリックします。



[アドレス帳一覧] に、ファイルから読み込んだアドレス帳が表示されます。



補足

この時点では、アドレス帳は機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定し参照してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100)を参照してください。機器に該当の機能が無い場合は、機器に設定するときエラーが発生します。

アドレス帳を使用する



参照

次の操作は、アドレス帳を機器に設定したあとに実行してください。詳しくは、「設定内容を機器に反映する」(P.100)を参照してください。

1. 原稿を機器にセットします。
2. 機器の操作パネルで、[メニュー] ボタンを押して、[ファクス] をタップします。
3. [宛先を入力してください。] をタップして、宛先を指定します。
4. [完了] > [送信] をタップします。



参照

お使いの機種によって、操作方法が異なる場合があります。詳しい操作方法については、機器のマニュアルを参照してください。

アドレス帳を一括作成する

[Device Setup 入力ツール] と Device Setup を使用して、アドレス帳を一括で作成できます。複数のアドレス帳を、1 台の機器に登録したいときなどに便利です。

Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel のブック形式のファイルです。

複数のアドレス帳情報を Excel のシートに入力し、書き出したデータを Device Setup に取り込んで、アドレス帳を一括作成する方法は、次のとおりです。



補足

Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel を使用して、一度に多くの設定情報を作成できます。設定情報を入力した Device Setup 入力ツールを保存する場合は、保存したファイルから個人情報が流出しないように保護してください。例としては、次のような方法があります。

- ・パスワードを設定した ZIP ファイルにする
- ・アクセスできるユーザーを限定したフォルダーに格納する

Device Setup 入力ツールで一括作成ファイルを作成する

「Device Setup 入力ツール – アドレス帳用.xls」は、Excel シート「アドレス帳」だけで構成されています。本入力ツールは、「Device Setup 入力ツール – 宛先表用.xls」または「Device Setup」で登録、設定、変更した宛先表データを、アドレス帳データとして読み込むことができます。



注記

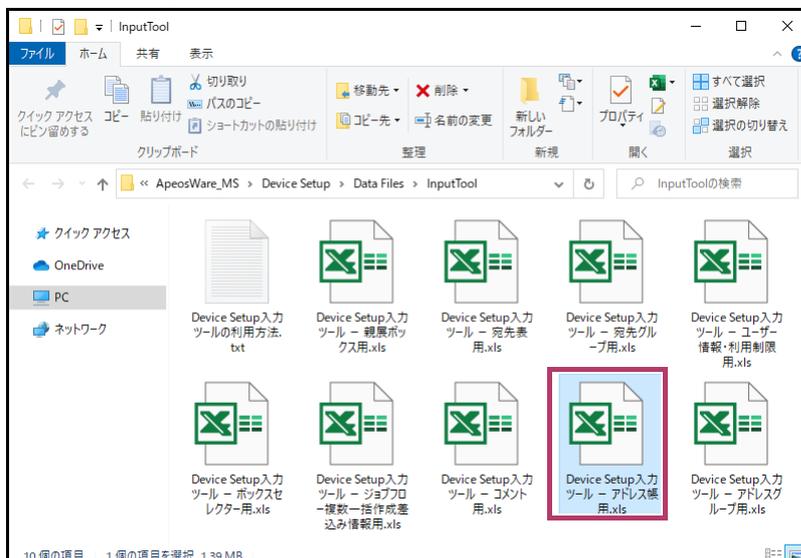
Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。



補足

- ・書き出した一括作成ファイルの拡張子は、「mb9」（Device Setup 独自のフォーマット）です。
- ・アドレス帳では、短縮 / 登録番号は設定できません。

1. Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [デバイス設定入力ツール] の順に選択します。
[InputTool] ウィンドウが表示されます。
2. 「Device Setup 入力ツール – アドレス帳用.xls」ファイルをダブルクリックします。



補足

- ・Device Setup 入力ツールはマクロを使用しています。このツールを利用するには、Microsoft Excel のセキュリティレベルを [中] 以下にする必要があります。[中] の場合は、マクロの実行を確認するメッセージが表示されますので、[マクロを有効にする] をクリックします。
- ・「Device Setup 入力ツールの利用方法.txt」をダブルクリックすると、Device Setup 入力ツールの補足情報や、制限事項が表示されます。



参照

Device Setup 入力ツールが対応している Excel のバージョンについては、「必要なシステム環境」(P.18) を参照してください。

3. 作成するアドレス帳情報を 1 行ごとに入力します。

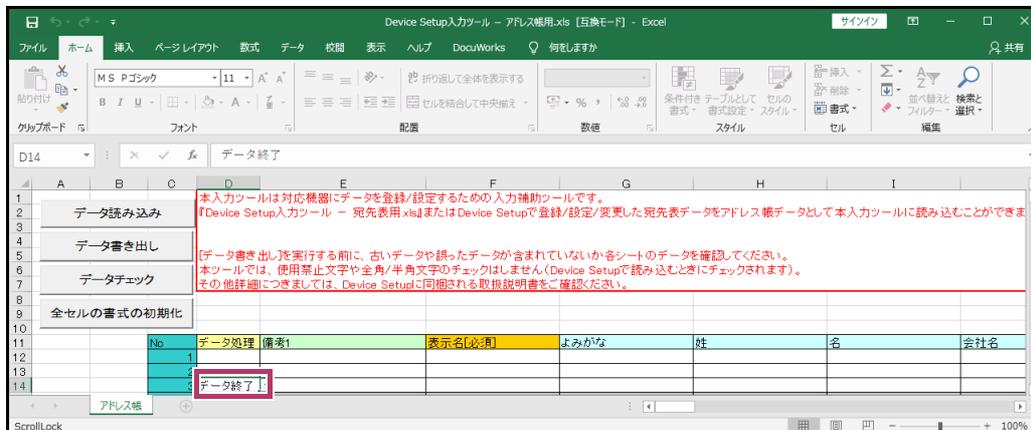


- ・[連絡先を追加] ダイアログボックスの項目には、「Device Setup 入力ツール - アドレス帳用.xls」に含まれていないものがあります。データを書き出すとき、その項目にはデフォルト値が設定されます。「Device Setup 入力ツール - アドレス帳用.xls」に含まれていない項目の属性値を修正する場合は、Device Setup で編集してください。
- ・「Device Setup 入力ツール - アドレス帳用.xls」で、入力が任意である項目を空白にした場合も、データを書き出すときにデフォルト値が設定されます。
- ・アドレス帳の最大登録数は、機器によって異なります。
- ・[データ処理] 列で [スキップ] を選択すると、データのチェックおよびファイルへの書き出しが実施されません。



各セルに入力する内容については、見出しのセルをクリックすると表示されるヘルプを参照してください。

4. 入力が終了したら、最後に入力した行で、[データ処理] 列のセルの [▼] をクリックし、[データ終了] を選択します。

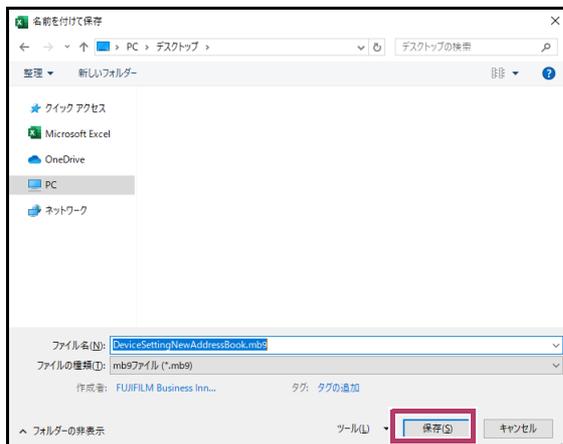


- ・[データ終了] が設定されている行がない状態で [データチェック] または [データ書き出し] をクリックすると、エラーになります。
- ・[データチェック] をクリックすると、それまで入力したセルの内容が正しいかどうかをチェックできます。ただし、手順 5 で [データ書き出し] をクリックしたときも、同じチェックが実行されます。

5. [データ書き出し] をクリックします。

内容に誤りがある場合は、エラーのセルが強調され、エラーメッセージが表示されます。内容が正しい場合は、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

6. ファイル名と保存先を指定して、[保存] をクリックします。



[データの書き出し] メッセージが表示されます。

7. [OK] をクリックします。

指定した場所に、拡張子「mb9」（Device Setup 独自のフォーマット）の一括作成ファイルが作成されます。

あらかじめ用意されているブックは、上書き保存できません。入力した内容を保存するには、[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] を選択し、名前を指定して保存します。



Device Setup のインストール先フォルダーとは別の場所にある、アクセスできるユーザーを限定したフォルダーに保存してください。

8. [ファイル] メニューから、[閉じる] を選択します。

Device Setup 入力ツールが終了します。

Device Setup で一括作成ファイルを読み込む



「アドレス帳ファイルを Device Setup に読み込む」(P.75) を参照してください。

アドレスグループを設定する



アドレスグループの概要については、「アドレスグループを作成する」(P.16) を参照してください。

ここでは、次の項目について説明します。

- 機器にアドレスグループを設定する方法
- アドレスグループをファイルに書き出す方法、および Device Setup に読み込む方法
- アドレスグループを一括作成する方法

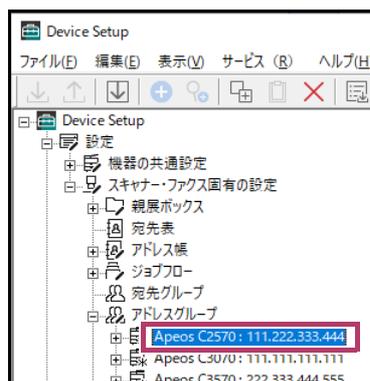
機器にアドレスグループを設定する

Device Setup 上でアドレスグループを追加する方法は、次のとおりです。

- アドレスグループを新規に作成する
- アドレスグループをコピーする

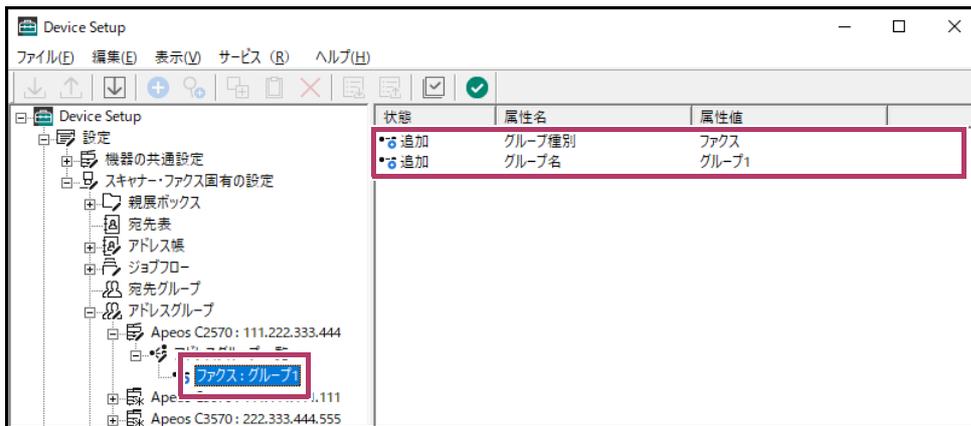
アドレスグループを新規に作成する

1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[アドレスグループ]の[+]、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [グループの追加] を選択します。
[グループの追加] ダイアログボックスが表示されます。
3. 各項目を設定します。

4. [OK] をクリックします。



新しいアドレスグループが作成されます。



補足

この時点では、アドレスグループは機器に設定されていません。必要に応じて、「設定内容を機器に反映する」(P.100) の手順を実施してください。

アドレスグループをコピーする

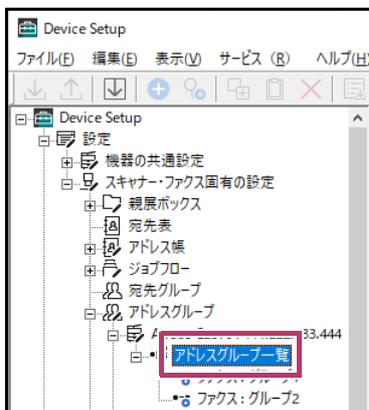
Device Setup に登録されているアドレスグループを、別の機器にコピーできます。



補足

アドレスグループの最大登録数が異なる機種間でアドレスグループをコピーする場合、アドレスグループはその機器の最大登録数までコピーされます。

1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[アドレスグループ] の [+], コピー元の機器の [+], [アドレスグループ一覧] を選択します。



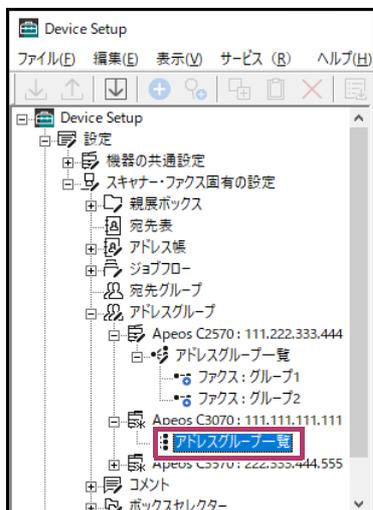


補足

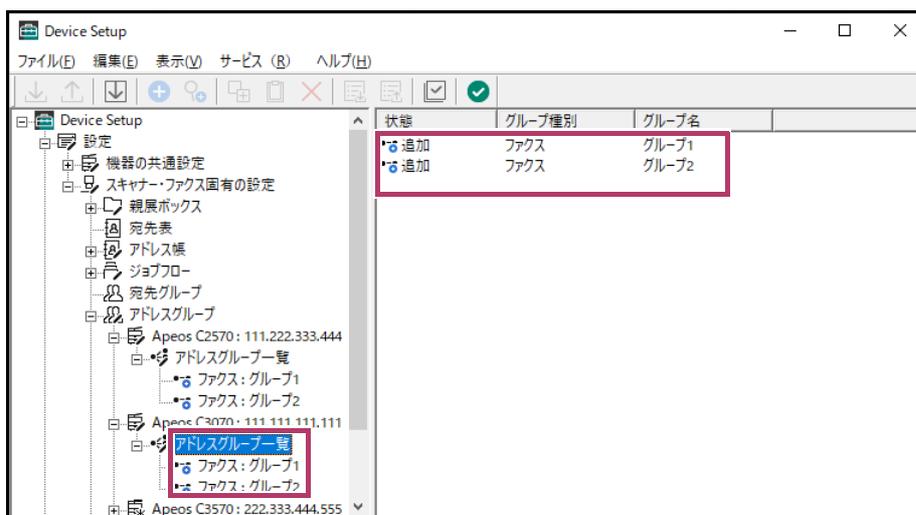
個々のアドレスグループをコピーする場合は、ツリービューまたはリストビューで、アドレスグループを選択します。

2. [サービス] メニューの [グループのコピー] を選択します。

3. ツリービューでコピー先の機器の [+], [アドレスグループ一覧] を選択します。



4. [サービス] メニューの [グループの貼り付け] を選択します。



アドレスグループが貼り付けられます。



補足

この時点では、アドレスグループは機器に設定されていません。必要に応じて、「設定内容を機器に反映する」(P.100) の手順を実施してください。

アドレスグループを書き出す・読み込む

Device Setup に登録されている機器のアドレスグループをファイルに書き出せます。さらに、書き出したファイルを Device Setup に読み込むこともできます。

この機能は、他の PC の Device Setup で、同じアドレスグループを使用する場合などに利用できます。

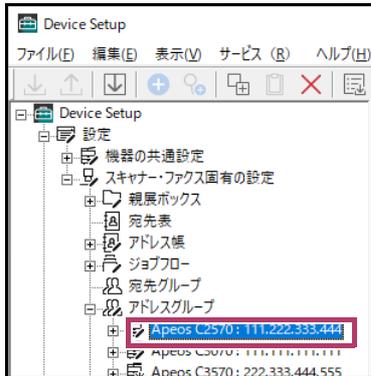


注記

Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。

アドレスグループをファイルに書き出す

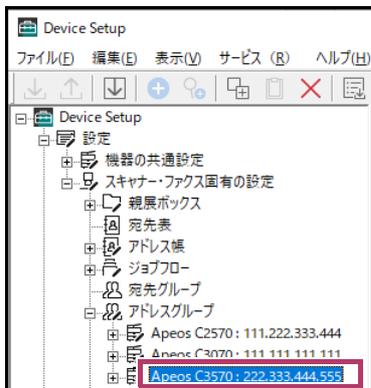
1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[アドレスグループ]の[+]、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [グループの書き出し] を選択します。
[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。
3. 保存する場所、およびファイル名を指定して、[保存] をクリックします。
指定した場所に、拡張子が「mb10」（Device Setup 独自のフォーマット）のアドレスグループのファイルが保存されます。

アドレスグループのファイルを Device Setup に読み込む

1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[アドレスグループ]、機器を選択します。

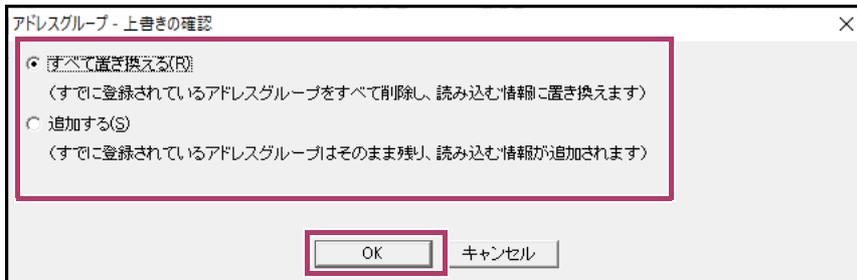


2. [サービス] メニューの [グループの読み込み] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
3. 前項でアドレスグループのファイルを書き出した場所を参照します。
拡張子が「mb10」のファイルを選択して、[開く] をクリックします。
[アドレスグループ情報の内容確認] ダイアログボックスが表示されます。

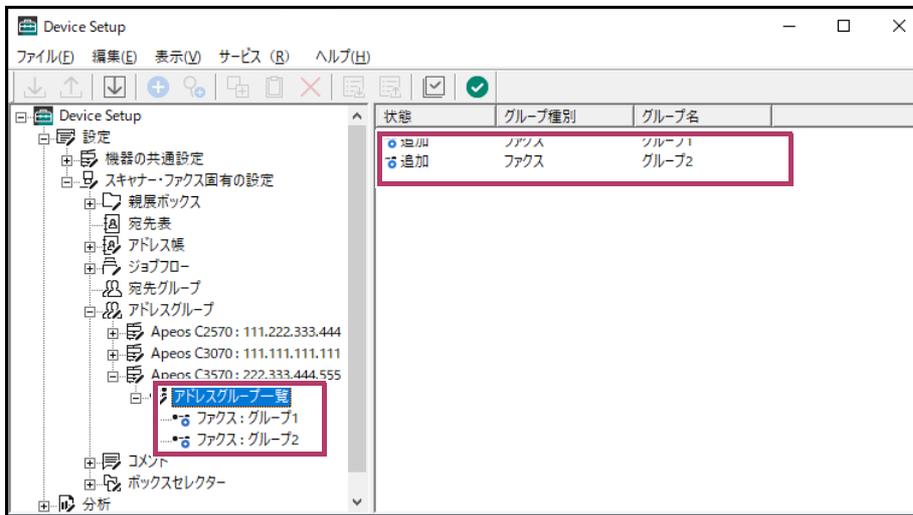
4. 問題がないか確認して、[はい] をクリックします。



5. アドレスグループを上書きするかどうかを選択して、[OK] をクリックします。



[アドレスグループ一覧] に、ファイルから読み込んだアドレスグループが表示されます。



補足

この時点では、アドレスグループは機器に設定されていません。必要に応じて、「設定内容を機器に反映する」(P.100) の手順を実施してください。
機器に該当の機能が無い場合は、機器に設定するときエラーが発生します。

アドレスグループを一括作成する

「Device Setup 入力ツール」を使用して、アドレスグループを一括で作成できます。
 複数のアドレスグループを、1 台の機器に登録したいときなどに便利です。
 Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel 形式のファイルです。

Device Setup 入力ツールで一括作成ファイルを作成する

「Device Setup 入力ツール – アドレスグループ用.xls」は、Excel シート「アドレスグループ」だけで構成されています。



注記

Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。



補足

- ・ 機器や Device Setup で変更したアドレスグループは、Device Setup 入力ツールには反映されません。そのため、Excel のシート内容は、機器の最新の状態とは異なる場合があります。
- ・ 書き出した一括作成ファイルの拡張子は、「mb10」（Device Setup 独自のフォーマット）です。
- ・ アドレスグループでは、短縮番号は設定できません。
- ・ Device Setup 入力ツールでは、アドレスグループに宛先を追加できません。一度機器にアドレス帳を設定した後、Device Setup で宛先表を追加してください。

1. Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [デバイス設定入力ツール] の順に選択します。
 [InputTool] ウィンドウが表示されます。

2. 「Device Setup 入力ツール – アドレスグループ用.xls」ファイルをダブルクリックします。



補足

- ・ Device Setup 入力ツールはマクロを使用しています。このツールを利用するには、Microsoft Excel のセキュリティレベルを [中] 以下にする必要があります。[中] の場合は、マクロの実行を確認するメッセージが表示されますので、[マクロを有効にする] をクリックします。
- ・ 「Device Setup 入力ツールの利用方法.txt」をダブルクリックすると、Device Setup 入力ツールの補足情報や、制限事項が表示されます。



参照

Device Setup 入力ツールが対応している Excel のバージョンについては、「必要なシステム環境」(P.18) を参照してください。

3. 作成するアドレスグループの情報を 1 行ごとに入力します。



補足

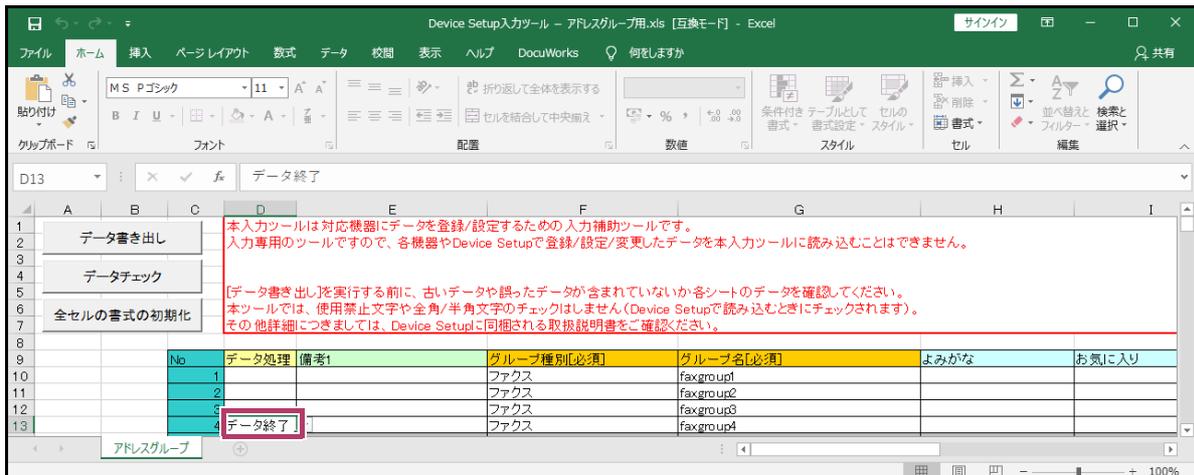
- ・ アドレスグループの最大登録数は、機器によって異なります。
- ・ [データ処理] 列で [スキップ] を選択すると、データのチェックおよびファイルへの書き出しが実施されません。



参照

各セルに入力する内容については、見出しのセルをクリックすると表示されるヘルプを参照してください。

4. 入力終了したら、最後に入力した行で、[データ処理] 列のセルの [▼] をクリックし、[データ終了] を選択します。



補足

- ・ [データ終了] が設定されている行がない状態で [データチェック] または [データ書き出し] をクリックすると、エラーになります。
- ・ [データチェック] をクリックすると、それまで入力したセルの内容が正しいかどうかをチェックできます。ただし、手順 5 で [データ書き出し] をクリックしたときも、同じチェックが実行されます。

5. [データ書き出し] をクリックします。

内容に誤りがある場合は、エラーのセルが強調され、次に、エラーメッセージが表示されます。内容が正しい場合は、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

6. ファイル名と保存先を指定して、[保存] をクリックします。

[データの書き出し] メッセージが表示されます。

7. [OK] をクリックします。

指定した場所に、拡張子「mb10」（Device Setup 独自のフォーマット）の一括作成ファイルが作成されます。

8. [ファイル] メニューから、[閉じる] を選択します。

Device Setup 入力ツールが終了します。

Device Setup で一括作成ファイルを読み込む

6. 参照

[アドレスグループのファイルを Device Setup に読み込む] (P.83) を参照してください。

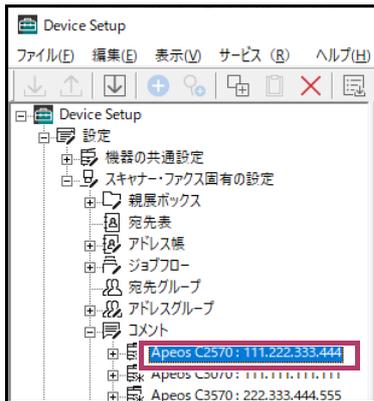
コメントを設定する

コメントの概要については、「インターネットファクスのコメントを作成する」(P.16) を参照してください。

機器にコメントを設定する

コメントを新規に作成する

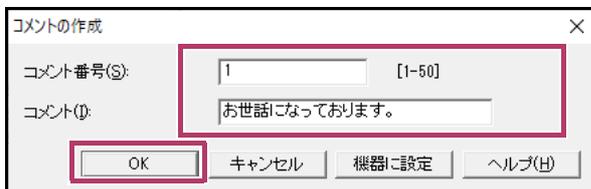
1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[コメント] の [+]、機器を選択します。



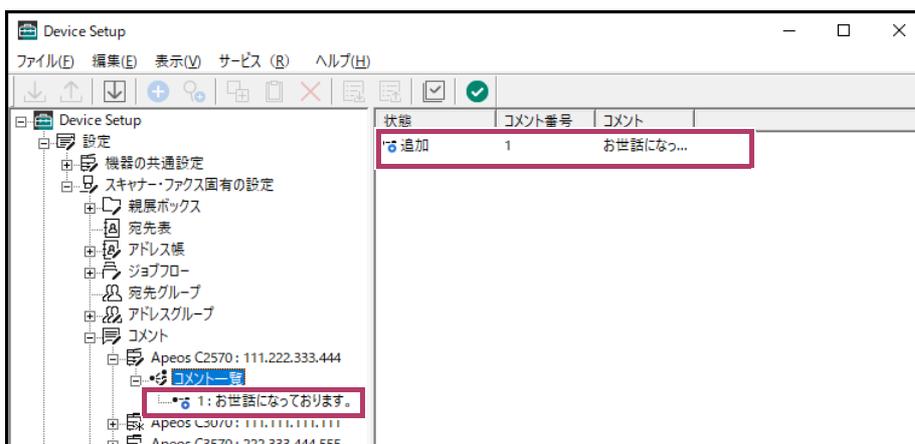
2. [サービス] メニューの [コメントの作成] を選択します。

[コメントの作成] ダイアログが表示されます。

3. 各項目を設定してから、[OK] をクリックします。



新しいコメントが作成されます。



補足

この時点では、コメントは機器に設定されていません。必要に応じて、「設定内容を機器に反映する」(P.100) の手順を実施してください。

コメントをコピーする

Device Setup に登録されているコメントを、別の機器にコピーできます。



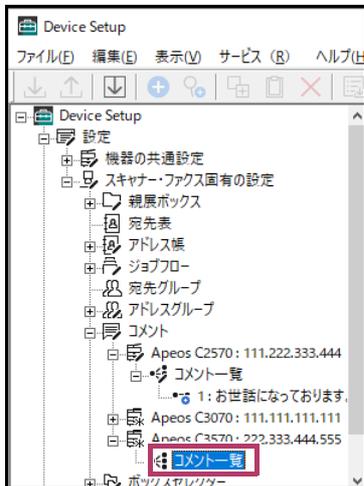
コメントの最大登録数が異なる機種間でコメントをコピーする場合、コメントはその機器の最大登録数までコピーされます。

1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[コメント] の [+]、コピー元の機器の [+]、[コメント一覧] を選択します。

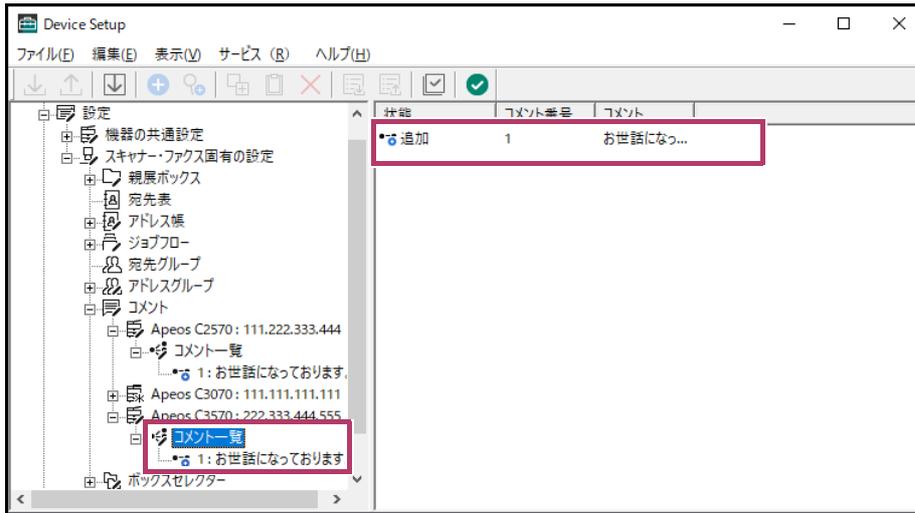


個々のコメントをコピーする場合は、ツリービューまたはリストビューで、コメントを選択します。

2. [サービス] メニューの [コメントのコピー] を選択します。
3. ツリービューでコピー先の機器の [+]、[コメント一覧] を選択します。



4. [サービス] メニューの [コメントの貼り付け] を選択します。



コメントが貼り付けられます。



補足

この時点では、コメントは機器に設定されていません。必要に応じて、「設定内容を機器に反映する」(P.100)の手順を実施してください。

コメントを書き出す・読み込む

Device Setup に登録されている機器のコメントをファイルに書き出せます。

さらに、書き出したファイルを Device Setup に読み込むこともできます。この機能は、他の PC の Device Setup で、同じコメントを使用する場合などに利用できます。



注記

Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。

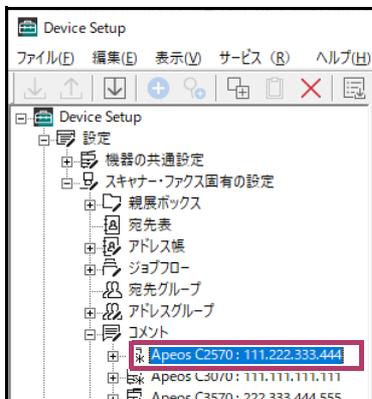


補足

書き出したコメントファイルの拡張子は、「mb7」(Device Setup 独自のフォーマット)です。

コメントをファイルに書き出す

1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[コメント] の [+], 機器を選択します。



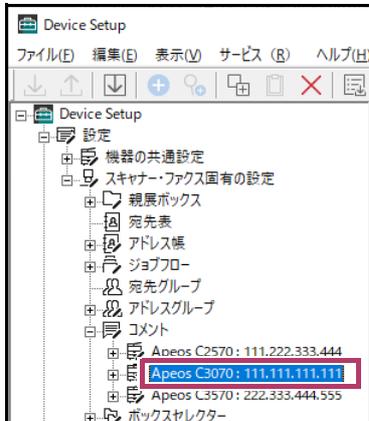
2. [サービス] メニューの [コメントの書き出し] を選択します。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

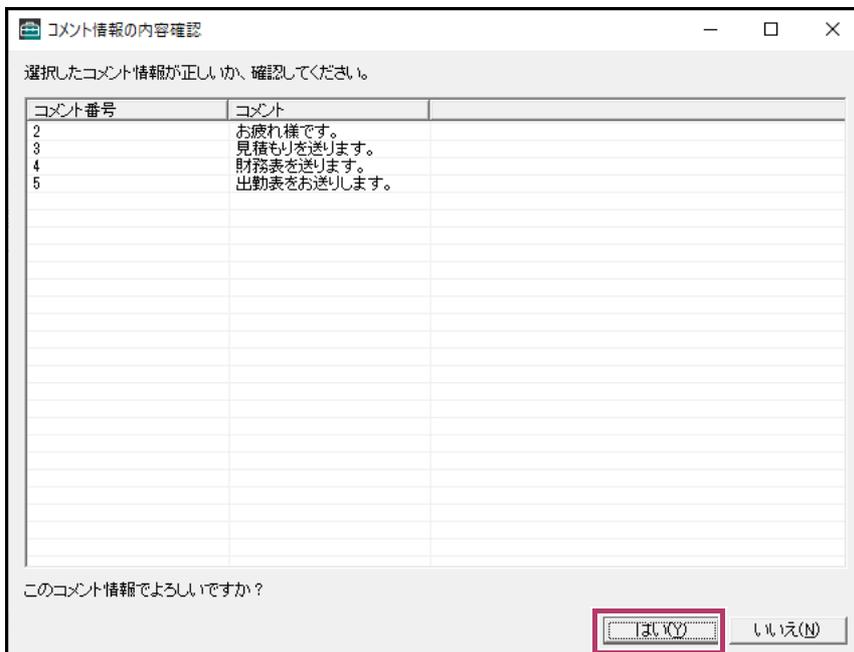
3. 保存する場所とファイル名を指定して、[保存] をクリックします。
指定した場所に、Device Setup 独自のフォーマットの、拡張子が「mb7」のファイルが作成されます。

コメントのファイルを Device Setup に読み込む

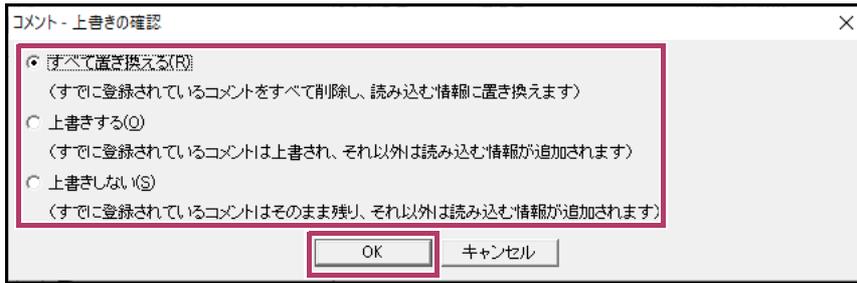
1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[コメント] の [+]、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [コメントの読み込み] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
3. 前項でコメントのファイルを書き出した場所を参照します。
拡張子が「mb7」のファイルを選択して、[開く] をクリックします。
4. 問題がないか確認して、[はい] をクリックします。

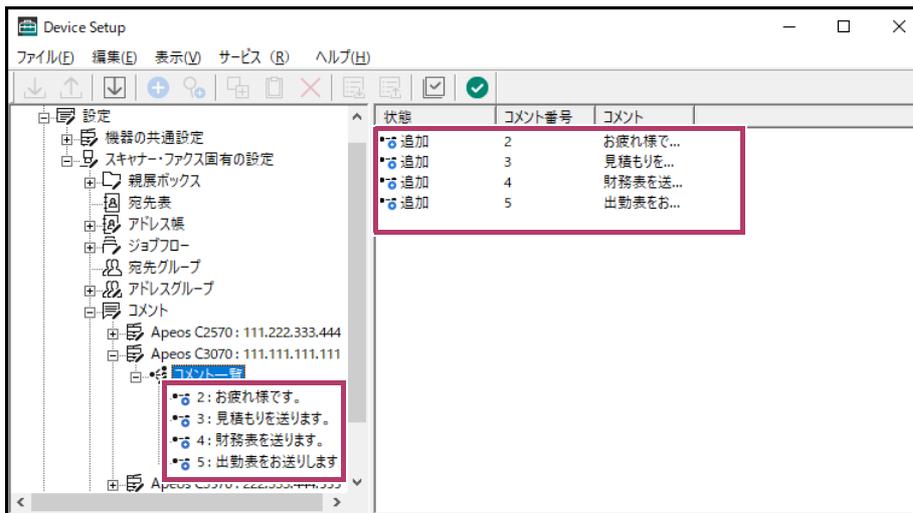


5. コメントを上書きするかどうかを選択して、[OK] をクリックします。



6. 確認のメッセージで [OK] をクリックします。

[コメント一覧] に、ファイルから読み込んだコメントが表示されます。



補足

この時点では、コメントは機器に設定されていません。必要に応じて、「設定内容を機器に反映する」(P.100)の手順を実施してください。
機器に該当の機能が無い場合は、機器に設定するときエラーが発生します。

コメントを一括作成する

「Device Setup 入力ツール」を使用して、コメントを一括で作成できます。複数のコメントを、1 台の機器に登録したいときなどに便利です。

Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel 形式のファイルです。

Device Setup 入力ツールで一括作成ファイルを作成する



注記

Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。



補足

- ・ 機器や Device Setup で変更したコメントは、Device Setup 入力ツールには反映されません。そのため、Excel のシート内容は、機器の最新の状態とは異なる場合があります。
- ・ 書き出した一括作成ファイルの拡張子は、Device Setup 独自のフォーマットの「mb7」です。

1. Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [デバイス設定入力ツール] の順に選択します。 [InputTool] ウィンドウが表示されます。

2. 「Device Setup 入力ツール – コメント用.xls」 ファイルをダブルクリックします。



補足

- ・ Device Setup 入力ツールはマクロを使用しています。このツールを利用するには、Microsoft Excel のセキュリティレベルを [中] 以下にする必要があります。[中] の場合は、マクロの実行を確認するメッセージが表示されますので、[マクロを有効にする] をクリックします。
- ・ 「Device Setup 入力ツールの利用方法.txt」 をダブルクリックすると、Device Setup 入力ツールの補足情報や、制限事項が表示されます。



参照

Device Setup 入力ツールが対応している Excel のバージョンについては、「必要なシステム環境」(P.18) を参照してください。

3. 作成するコメントの情報を、1 行に 1 つずつ入力します。



補足

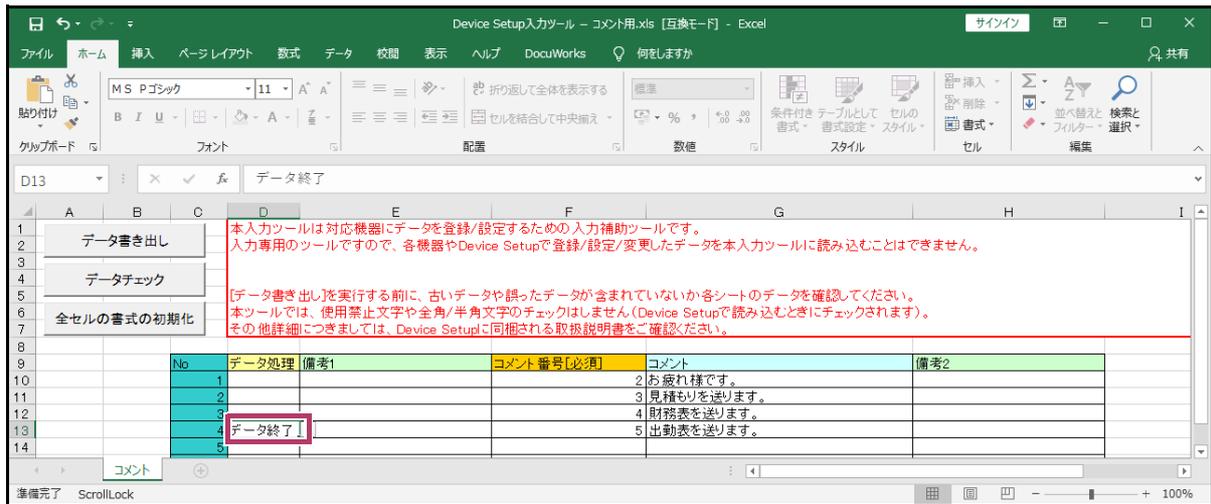
コメントの最大登録数は、機器によって異なります。



参照

各セルに入力する内容については、見出しのセルをクリックすると表示されるヘルプを参照してください。

4. 入力が終了したら、最後に入力した行で、[データ処理] 列のセルの [▼] をクリックして、[データ終了] を選択します。



補足

- ・ [データ終了] が設定されている行がない状態で [データチェック] または [データ書き出し] をクリックすると、エラーになります。
- ・ [データチェック] をクリックすると、それまで入力したセルの内容が正しいかどうかをチェックできます。次の手順で [データ書き出し] をクリックしたときも、同じチェックが実行されます。

5. [データ書き出し] をクリックします。

セルの入力値がチェックされます。内容に誤りがある場合は、エラーのセルが強調され、エラーメッセージが表示されます。内容が正しい場合は、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

6. ファイル名と保存先を指定して、[保存] をクリックします。

7. [データの書き出し] メッセージで [OK] をクリックします。

指定した場所に、拡張子「mb7」(Device Setup 独自のフォーマット) の一括作成ファイルが作成されます。

8. [ファイル] メニューから、[閉じる] を選択します。
Device Setup 入力ツールが終了します。

Device Setup で一括作成ファイルを読み込む



参照

「コメントのファイルを Device Setup に読み込む」(P.90) を参照してください。

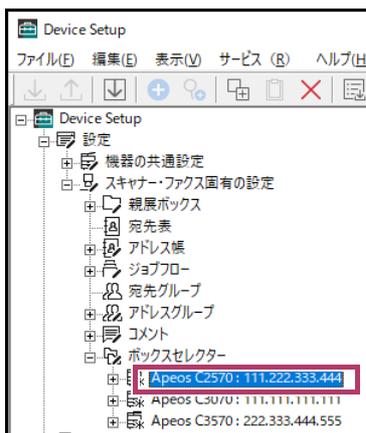
ボックスセクターを設定する

ボックスセクターの概要については、「電話番号別ボックスセクターを作成する」(P.16) を参照してください。

機器にボックスセクターを設定する

ボックスセクターを新規に作成する

1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[ボックスセクター] の [+]、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [電話番号別ボックスセクターの作成] を選択します。
[電話番号別ボックスセクターの作成] ダイアログが表示されます。

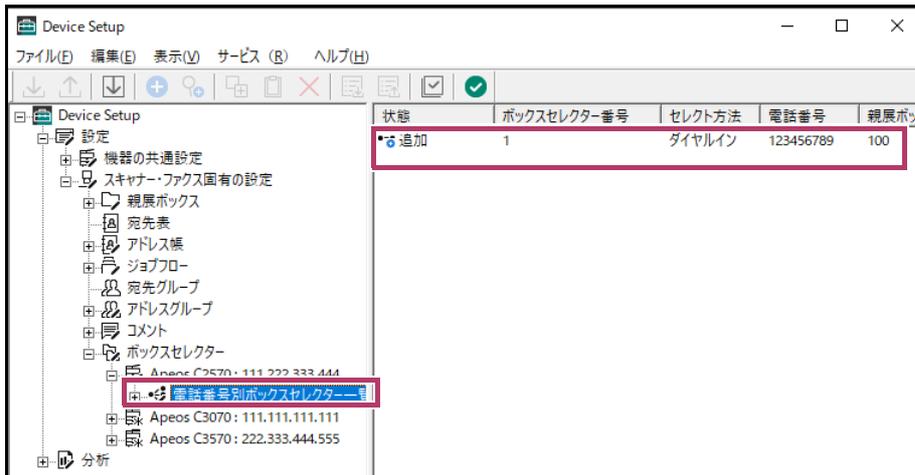
3. 各項目を設定してから [OK] をクリックします。

電話番号別ボックスセクターの作成

ボックスセクター番号(S): 1 [1-500]
セレクト方法(L): ダイヤルイン
電話番号(O): 123456789
親展ボックス番号(B): 100 [001-500]

OK キャンセル 機器に設定 ヘルプ(H)

新しいボックスセクターが作成されます。



補足

この時点では、ボックスセクターは機器に設定されていません。必要に応じて、「設定内容を機器に反映する」(P.100) の手順を実施してください。

ボックスセクターをコピーする

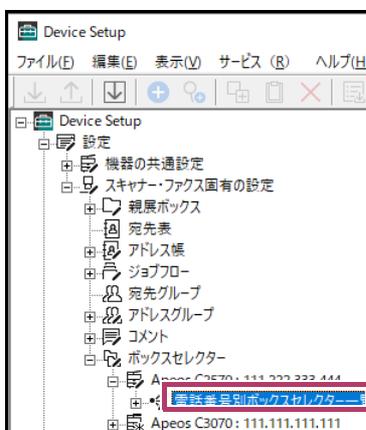
Device Setup に登録されているボックスセクターを、別の機器にコピーできます。



補足

ボックスセクターの最大登録数が異なる機種間でボックスセクターをコピーする場合、ボックスセクターはその機器の最大登録数までコピーされます。

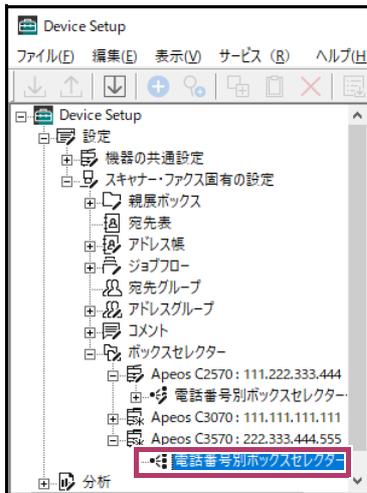
1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[ボックスセクター] の [+]、コピー元の機器の [+]、[電話番号別ボックスセクター一覧] を選択します。



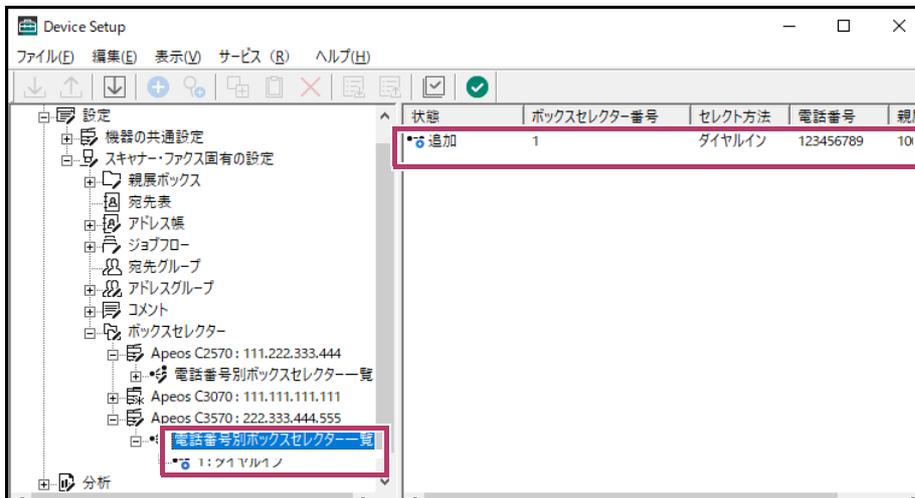
補足

個々のボックスセクターをコピーする場合は、ツリービューまたはリストビューで、ボックスセクターを選択します。

2. [サービス] メニューの [電話番号別ボックスセクターのコピー] を選択します。
3. ツリービューでコピー先の機器の [+], [電話番号別ボックスセクター一覧] を選択します。



4. [サービス] メニューの [電話番号別ボックスセクターの貼り付け] を選択します。



ボックスセクターが貼り付けられます。



補足

この時点では、ボックスセクターは機器に設定されていません。必要に応じて、「設定内容を機器に反映する」(P.100) の手順を実施してください。

ボックスセクターを書き出す・読み込む

Device Setup に登録されている機器のボックスセクターをファイルに書き出せます。さらに、書き出したファイルを Device Setup に読み込むこともできます。この機能は、他の PC の Device Setup で、同じボックスセクターを使用する場合などに利用できます。



注記

Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。

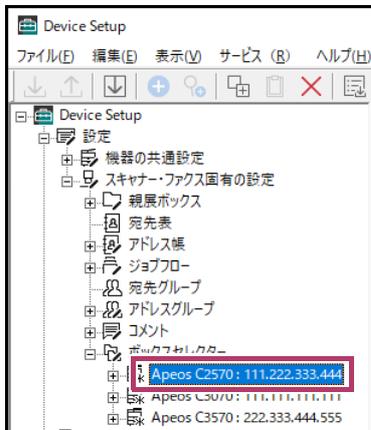


補足

書き出したボックスセクターファイルの拡張子は、「mb8」(Device Setup 独自のフォーマット) です。

ボックスセクターをファイルに書き出す

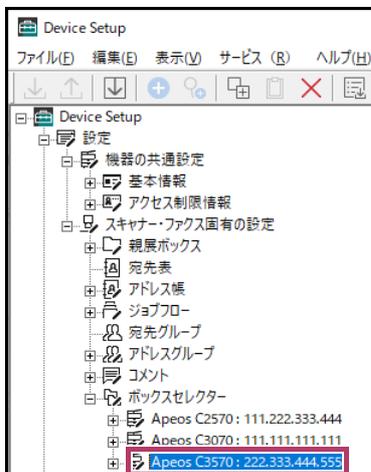
1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[ボックスセクター] の [+]、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [電話番号別ボックスセクターの書き出し] を選択します。
[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。
3. 保存する場所、およびファイル名を指定して、[保存] をクリックします。
指定した場所に、Device Setup 独自のフォーマットの、拡張子が「mb8」のファイルが作成されます。

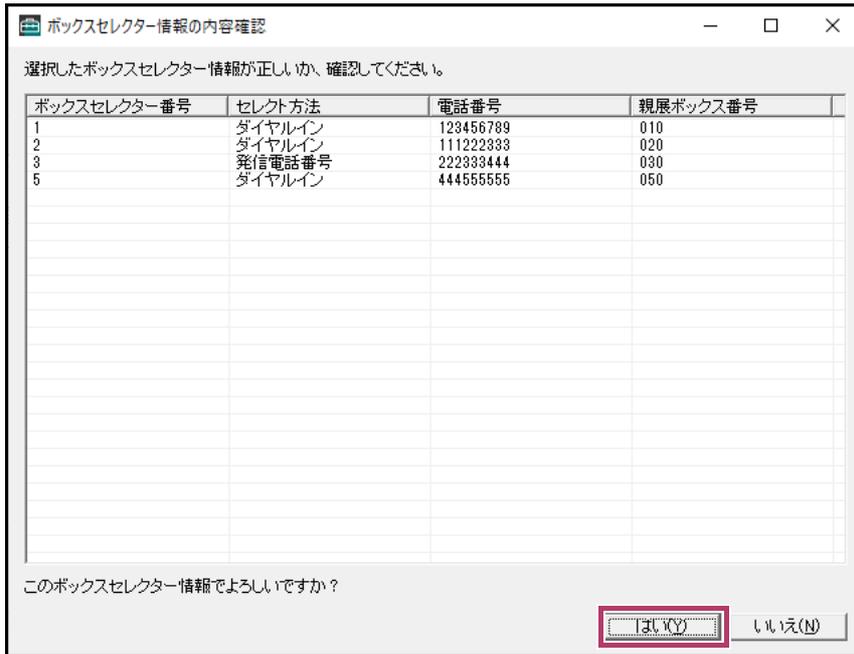
ボックスセクターのファイルを Device Setup に読み込む

1. ツリービューで、[設定]、[スキャナー・ファクス固有の設定]、[ボックスセクター] の [+]、機器を選択します。

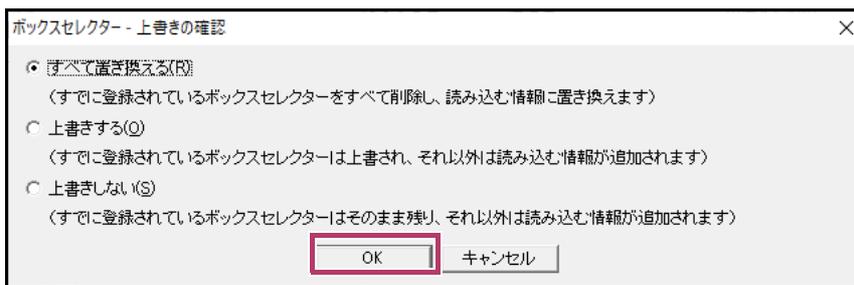


2. [サービス] メニューの [電話番号別ボックスセクターの読み込み] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
3. 前項でボックスセクターのファイルを書き出した場所を参照します。
拡張子が「mb8」のファイルを選択して、[開く] をクリックします。

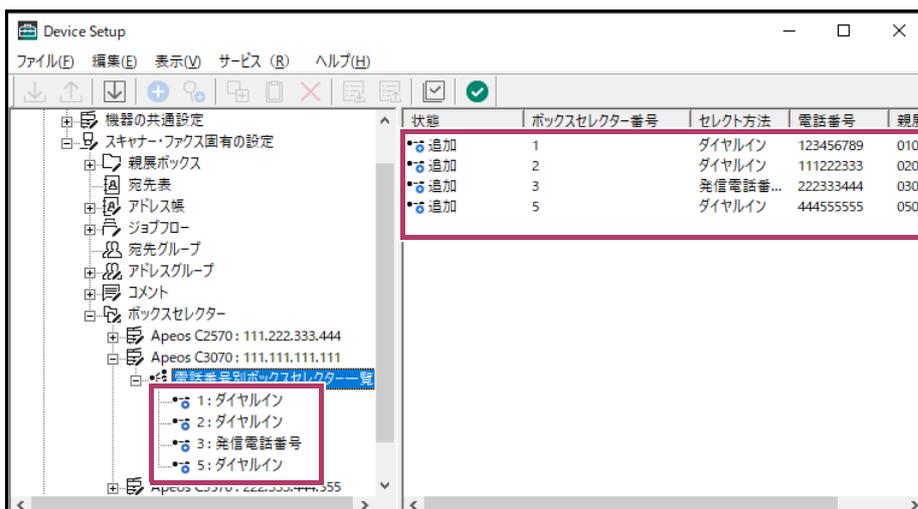
4. 問題がないか確認して、[はい] をクリックします。



5. ボックスセクターを上書きするかどうかを選択して、[OK] をクリックします。



6. 確認のメッセージの [OK] をクリックします。



【電話番号別ボックスセクター一覧】に、ファイルから読み込んだボックスセクターが表示されます。



この時点では、ボックスセクターは機器に設定されていません。必要に応じて、「設定内容を機器に反映する」(P.100) の手順を実施してください。

機器に該当の機能が無い場合は、機器に設定するときエラーが発生します。

ボックスセレクトを一括作成する

「Device Setup 入力ツール」を使用して、ボックスセレクトを一括で作成できます。複数のボックスセレクトを、1 台の機器に登録したいときなどに便利です。

Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel 形式のファイルです。

Device Setup 入力ツールで一括作成ファイルを作成する



注記

Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。



補足

- ・ 機器や Device Setup で変更したボックスセレクトは、Device Setup 入力ツールには反映されません。そのため、Excel のシート内容は、機器の最新の状態とは異なる場合があります。
- ・ 書き出した一括作成ファイルの拡張子は、Device Setup 独自のフォーマットの「mb8」です。

1. Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [デバイス設定入力ツール] の順に選択します。
[InputTool] ウィンドウが表示されます。

2. 「Device Setup 入力ツール – ボックスセレクト用 .xls」 ファイルをダブルクリックします。



補足

- ・ Device Setup 入力ツールはマクロを使用しています。このツールを利用するには、Microsoft Excel のセキュリティレベルを [中] 以下にする必要があります。[中] の場合は、マクロの実行を確認するメッセージが表示されますので、[マクロを有効にする] をクリックします。
- ・ 「Device Setup 入力ツールの利用方法.txt」 をダブルクリックすると、Device Setup 入力ツールの補足情報や、制限事項が表示されます。



参照

Device Setup 入力ツールが対応している Excel のバージョンについては、「必要なシステム環境」(P.18) を参照してください。

3. 作成するボックスセレクトの情報を、1 行に 1 つずつ入力します。



補足

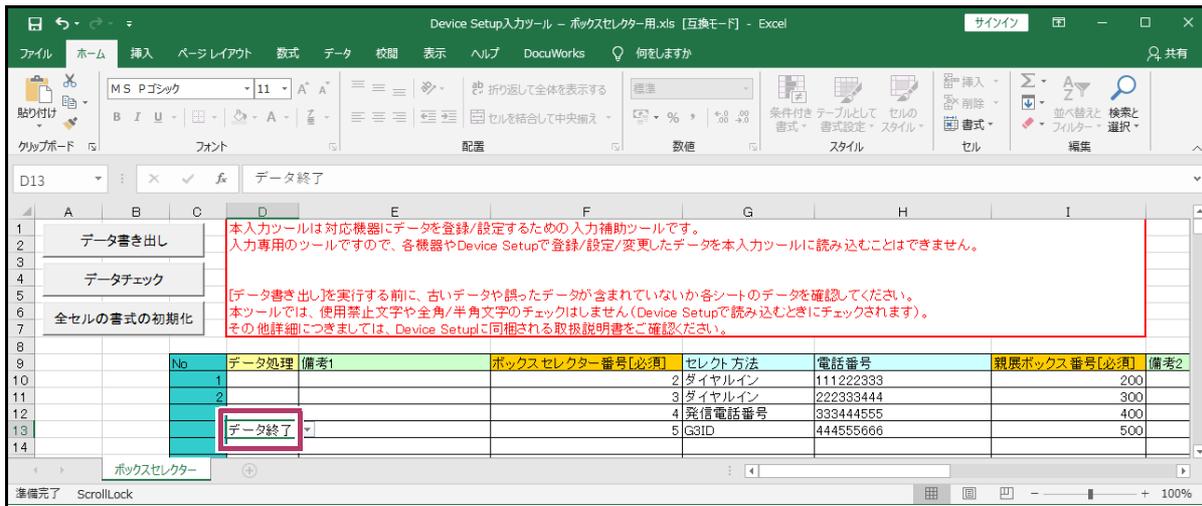
ボックスセレクトの最大登録数は、機器によって異なります。



参照

各セルに入力する内容については、見出しのセルをクリックすると表示されるヘルプを参照してください。

4. 入力終了したら、最後に入力した行で、[データ処理] 列のセルの [▼] をクリックして、[データ終了] を選択します。



補足

- ・ [データ終了] が設定されている行がない状態で [データチェック] または [データ書き出し] をクリックすると、エラーになります。
- ・ [データチェック] をクリックすると、それまで入力したセルの内容が正しいかどうかをチェックできます。次の手順で [データ書き出し] をクリックしたときも、同じチェックが実行されます。

5. [データ書き出し] をクリックします。
セルの入力値がチェックされます。内容に誤りがある場合は、エラーのセルが強調され、エラーメッセージが表示されます。内容が正しい場合は、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。
6. ファイル名と保存先を指定して、[保存] をクリックします。
7. [データの書き出し] メッセージで [OK] をクリックします。
指定した場所に、拡張子「mb8」(Device Setup 独自のフォーマット) の一括作成ファイルが作成されます。
8. [ファイル] メニューから、[閉じる] を選択します。
Device Setup 入力ツールが終了します。

Device Setup で一括作成ファイルを読み込む

6D 参照

「ボックスセクターのファイルを Device Setup に読み込む」(P.96) を参照してください。

設定内容を機器に反映する

ここでは、Device Setup で設定した内容を、機器に反映する方法を説明します。サービスごとに、設定内容を反映します。



注記

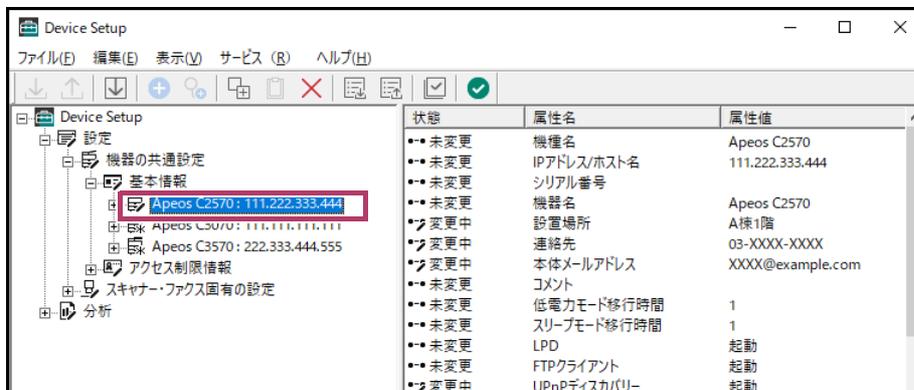
機器の操作パネルで設定中に、Device Setup から機器に対して属性値を設定、または削除しないでください。機器の操作パネルに「外部機器からの操作で登録データが更新されたため、現在の設定をリセットする必要があります」という趣旨のメッセージが表示され、機器を再起動する以外の操作ができなくなる（操作パネルで選択できるボタンが [リセット] だけになる）ことがあります。



補足

- ・ 次のサービスの場合、機器に設定すると、機器が自動的に再起動されます。機器が処理中で再起動できないときは、機器の電源を切 / 入して再起動するように促すメッセージが表示されます。この場合は、機器の電源を切 / 入してください。
 - ・ 基本情報サービス（本体メールアドレス、ポート起動、プロトコルの設定）
 - ・ アクセス制限情報サービス（認証・集計情報、アクセス制御の有効 / 無効、受付 IP アドレスの設定）
 - ・ 宛先表 / アドレス帳サービス（宛先表 / アドレス帳の設定）
- ・ 機器に属性値を設定するとき、Device Setup が設定する属性値と、機器に設定されている属性値が一致しているかが確認されます。一致していない場合は、機器の属性値を上書きするかを確認するメッセージが表示されます。ただし属性値がパスワードの場合は、Device Setup が設定するパスワードと、機器に設定されているパスワードが一致しているかを確認できません。そのため、パスワードの設定については次のような結果になります。
 - ・ 暗号化されたパスワードは、必ず上書きされます。
 - ・ Device Setup で設定したパスワードは、必ず上書きされます。
 - ・ パスワードを暗号化して送信できない機種からは、パスワードが空の状態を取得されます。パスワードが空の状態のまま機器に設定する場合は、上書きされません。

1. ツリービュー、またはリストビューで、サービスの下の機器を選択します。



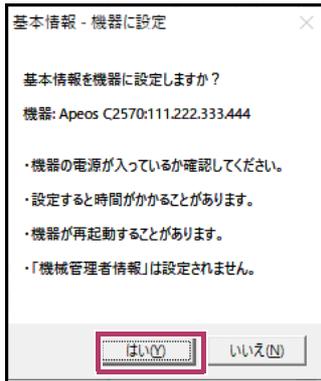
補足

リストビューでは、複数の機器を選択できます。複数の機器を選択するには、<Shift> キー、または <Ctrl> キーを押しながら、機器をクリックします。

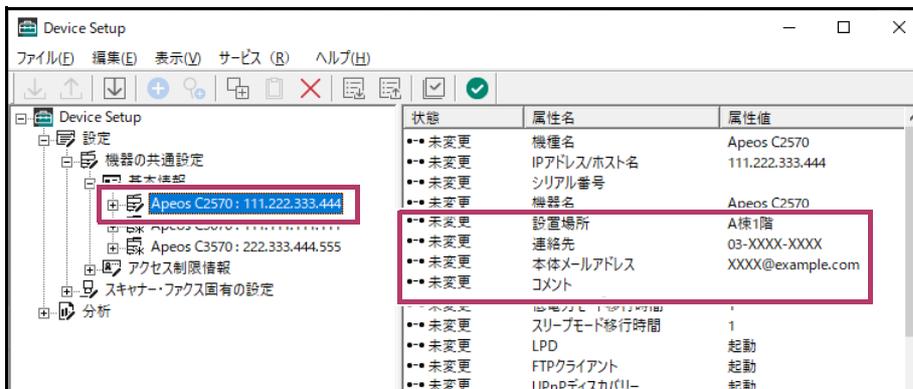
2. [編集] メニューの [機器に属性値を設定] を選択します。

設定を確認するダイアログボックスが、表示されます。

3. [はい] をクリックします。



機器に設定内容が反映されます。機器のアイコンの状態が、[変更中] から [設定 / 取得済] に変わり、また属性の状態も [変更中] から [未変更] に変わります。



6 Device Setup の設定情報を書き出す / 読み込む

設定情報をファイルに書き出す

ここでは、Device Setup のサービスごとに、設定情報を書き出す方法について説明します。

Device Setup で設定した内容は、サービスごとにファイルに保存できます。サービスに登録された機器や、親展ボックス、宛先表 / アドレス帳、ジョブフローなども、すべて保存されます。

このファイルを、設定情報ファイルといいます。設定情報ファイルは、次のように利用できます。

- 保存していた設定情報ファイルを Device Setup に読み込み、利用する
- 別の PC にインストールされている Device Setup に設定情報ファイルを読み込み、利用する

設定情報ファイルの拡張子とファイル名

設定情報ファイルの拡張子は、「mb1」（Device Setup 独自のフォーマット）です。

設定情報ファイルのデフォルトでの名称は、次のとおりです。

基本情報	DeviceSettingBasic.mb1
アクセス制限情報	DeviceSettingAccessLimitation.mb1
親展ボックス	DeviceSettingPrivateBox.mb1
宛先表	DeviceSettingAddress.mb1
アドレス帳	DeviceSettingNewAddress.mb1
ジョブフロー	DeviceSettingJobTemplate.mb1
集計データ分析	DeviceAnalysisJob.mb1
宛先グループ	DeviceSettingGroupDial.mb1
アドレスグループ	DeviceSettingNewGroupDial.mb1
ボックスセクター	DeviceSettingBoxSelector.mb1
コメント	DeviceSettingFaxComment.mb1

設定情報をファイルに書き出す

Device Setup の設定情報をファイルに書き出す方法は、次のとおりです。



注記

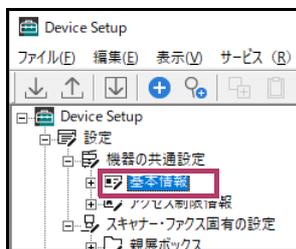
Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。



補足

- ・ 設定情報ファイルを書き出したあと、機器の秘密情報の暗号化キーを変更する場合は、変更前のキーを覚えておいてください。秘密情報の暗号化キーを変更すると、設定情報ファイルのうち、暗号化されたパスワードを含む属性を機器に設定できなくなります。詳しくは、「秘密情報の暗号化キーを変更する」(P.154) を参照してください。
- ・ 設定情報ファイルを書き出した Device Setup よりも古いバージョンの Device Setup では、設定情報ファイルの読み込みができません。

1. ツリービューを展開し、サービスを選択します。



2. [ファイル] メニューの [機器設定情報の書き出し] を選択します。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

3. 保存する場所、およびファイル名を指定して、[保存] をクリックします。

指定した場所に、設定情報ファイルが作成されます。

設定情報ファイルを Device Setup に読み込む

ここでは、書き出した設定情報ファイルを、Device Setup に読み込む方法について説明します。

サービスを選択して設定情報ファイルを読み込むことで、ファイルに保存されていた Device Setup の設定情報を利用できます。



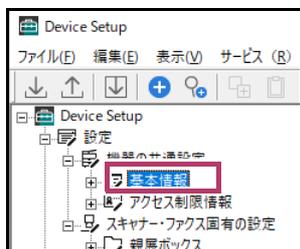
補足

現在インストールされている Device Setup よりも新しいバージョンの Device Setup で書き出した設定情報ファイルは、読み込みができません。

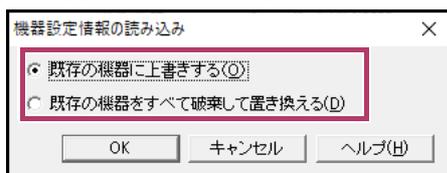
設定情報ファイルを Device Setup に読み込む

設定情報ファイルを Device Setup のサービスに読み込む方法は、次のとおりです。

1. ツリービューを展開し、サービスを選択します。



2. [ファイル] メニューの [機器設定情報の読み込み] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
3. 手順 1 で選択したサービスに対応する、設定情報ファイルを選択します。
4. [開く] をクリックします。
[機器設定情報の読み込み] ダイアログボックスが表示されます。
5. 設定情報ファイルの内容で、サービスの現在の設定を上書きするか、完全に置き換えるかを選択します。



■ [既存の機器に上書きする]

現在登録されている機器と設定情報ファイルの機器に、IP アドレス、またはホスト名が同じ機器があった場合、現在登録されている機器は削除され、設定情報ファイルの機器が登録されます。

■ [既存の機器をすべて破棄して置き換える]

現在登録されている機器はすべて削除され、設定情報ファイルの機器だけが登録されます。

6. [OK] をクリックします。
設定情報ファイルの内容が、Device Setup のサービスに読み込まれます。

7 機器の使用を制限する / 使用状況を確認する

機器へのアクセスを制限する

ここでは、アクセス制限サービスの概要と、利用制限の設定について説明します。

Device Setup のアクセス制限情報サービスでは、機器に対し、大きく分けて次の2つの設定ができます。

ユーザーごとの利用制限

- 機器の認証・集計の設定

IP アドレス、およびメールアドレスによる利用制限

- 機器が受け付けを許可する、送信元 IP アドレス
- 機器が受け付けを許可、または拒否する、メールの送信元ドメイン名

アクセス制限サービスについて

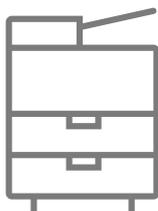
アクセス制限サービスで設定できる利用制限の内容は、次のとおりです。

機器の認証・集計についての設定

認証とは、機器を利用できるユーザーを制限する機能です。

機器を使用するときに、User ID とパスワード、および User ID の入力が必要です。

User IDFuji Taro
パスワード*****



集計とは、機器の各機能の利用状況を、ユーザーごとに管理する機能です。

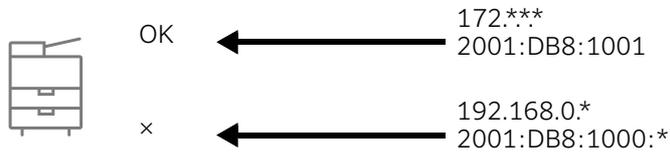
コピーしたページ数をカラーと白黒別に確認したり、カラーコピーやカラープリントができるユーザーを限定したりできます。

各ユーザーの認証と集計の設定は、個別に登録することも、一括で登録することもできます。一括で登録する場合は、Device Setup 入力ツールで「ユーザー情報の一括作成ファイル」を作り、Device Setup で読み込みます。

機器が受け付けを許可する送信元 IP アドレス

機器への通信を、送信元の IP アドレス (IPv4 形式、または IPv6 形式) で制限します。SNMP、POP3、LPR、SOAP (Device Setup など)、および HTTP (Internet Services など) のように、IP (Internet Protocol) を使用するすべての通信について適用されます。

送信元 IP アドレスで判断



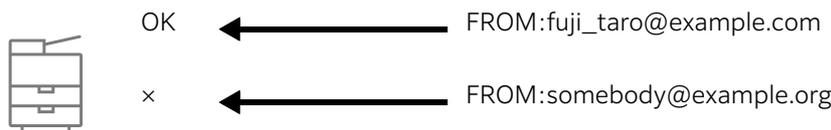
注記

受付 IP アドレス制限を有効にする前に、受付 IP アドレスを追加してください。受付 IP アドレスがない状態で受付 IP アドレス制限を有効にすると、TCP/IP を使った機器へのアクセスが、どこからもできなくなります。

機器が受け付けを許可または拒否するメールの送信元ドメイン名

機器に送信されるメールを、メールの送信元ドメイン名 ([FROM] フィールドのドメイン名) で制限します。

送信者アドレス (FROM フィールド) のドメイン名で判断



認証・集計の種類について

Device Setup で設定できる認証と集計の内容には、次の 2 種類があります。どちらの内容が表示されるかは、機種によって異なります。

- [本体認証]、[ネット認証]、[外部認証]
- [認証しない / ネット集計]、[本体認証 / 本体集計]、[本体認証 / ネット集計]、[外部認証 / 集計しない]、[外部認証 / 認証ユーザーのログを収集]



補足

Device Setup からは外部認証を選択できなくても、操作パネルでは外部認証を選択できる機種もあります。このような機種で、外部認証が選択されている場合、次の制限があります。

- ・ 機器の認証 / 集計情報とユーザー情報の属性値を、Device Setup で取得できません。
- ・ 認証 / 集計情報とユーザー情報の属性値を、Device Setup から機器に設定できません。

[認証 / 集計の運用] の内容が [本体認証]、[ネット認証]、[外部認証] の場合

本体認証

ユーザーの認証と集計管理を、機器の情報を使って行います。ユーザーの登録、ユーザー情報の表示、ユーザーの削除、集計管理 (例：ユーザーごとの累積ページの確認) を、次から行えます。

- Device Setup
- 機器の操作パネル
- Internet Services

ネット認証

認証を、機器に登録したユーザー情報を使って行います。集計管理は、ApeosWare Management Suite で行います。

- ユーザーの登録、ユーザー情報の表示、ユーザーの削除を、Device Setup や ApeosWare Management Suite などのソフトウェアから行えます。機器の操作パネルからは、ユーザー情報の管理ができません。
- ユーザーの認証情報に Account ID が追加されます。Account ID は、課金対象部門やプロジェクトコードなどに利用できます。

外部認証

外部の認証サーバーに登録したユーザー情報を使って、ユーザーを認証します。集計管理は、ApeosWare Management Suite で行います。機器の操作パネル、Internet Services、および Device Setup からは、ユーザー情報の管理と集計管理ができません。

[認証 / 集計の運用] の内容が [認証しない / ネット集計]、[本体認証 / 本体集計]、[本体認証 / ネット集計]、[外部認証 / 集計しない]、[外部認証 / 認証ユーザーのログを収集] の場合

認証しない / ネット集計

認証を行わず、集計管理だけを ApeosWare Management Suite で行います。登録したユーザー情報は、集計管理だけに使用されます。

- 集計管理（例：ユーザーごとの累積ページの確認）、および集計結果の確認を、ApeosWare Management Suite で行います。
- ユーザーの登録、ユーザー情報の表示、ユーザーの削除を、Device Setup や ApeosWare Management Suite などのソフトウェアから行えます。機器の操作パネルと Internet Services からは、ユーザー情報の管理ができません。
- ユーザーの認証情報に Account ID が追加されます。Account ID は、課金対象部門やプロジェクトコードに利用できます。

本体認証 / 本体集計

ユーザーの認証と集計管理を、機器の情報を使って行います。ユーザーの登録、ユーザー情報の表示、ユーザーの削除、集計管理を、次から行えます。

- Device Setup
- 機器の操作パネル
- Internet Services

本体認証 / ネット集計

認証を、機器に登録したユーザー情報を使って行います。集計管理は、ApeosWare Management Suite で行います。

- ユーザーの登録、ユーザー情報の表示、ユーザーの削除を、Device Setup や ApeosWare Management Suite などのソフトウェアから行えます。機器の操作パネルと Internet Services からは、ユーザー情報の管理ができません。
- ユーザーの認証情報に Account ID が追加されます。Account ID は、課金対象部門やプロジェクトコードなどに利用できます。

外部認証 / 集計しない

外部の認証サーバーに登録したユーザー情報を使って、ユーザーを認証します。集計は行いません。機器の操作パネル、Internet Services、および Device Setup からは、ユーザー情報の管理ができません。

外部認証 / 認証ユーザーのログを収集

外部認証サーバーとして ApeosWare Authentication Agent を設定している機器から属性値を取得したときにだけ、この項目が表示されます。ApeosWare Authentication Agent に登録したユーザー情報を使って、ユーザーを認証します。機器の操作パネル、Internet Services、および Device Setup からは、ユーザー情報の管理ができません。

利用制限を設定する

Device Setup 上で、機器に認証・集計の設定、およびユーザー登録をして、利用制限を行います。

ここでは、機器で認証と集計をする設定にし、次のようにユーザーを登録して利用する例を説明します。

登録ユーザー	制限の内容
マネージャー	制限なし
一般社員 A	白黒コピー、プリントは 1000 枚まで可能。カラーはすべて不可。ファクス、スキャンは制限しない。
一般社員 B	
一般社員 C	

利用できる機器の機能をユーザーごとに制限するには、次の順に操作します。

- 機器に認証 / 集計情報を設定する
- 機器を利用できるユーザーを登録する
- ユーザーが利用できる機能を制限する

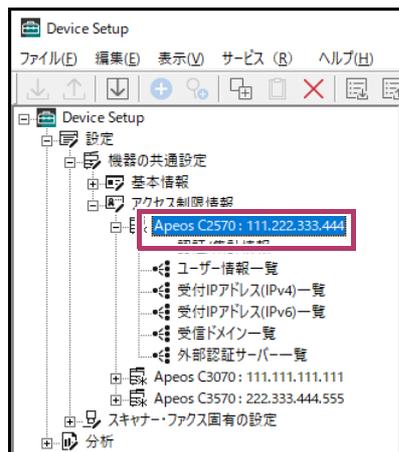


外部認証/集計では、機器を利用できるユーザーは認証サーバーに登録されます。Device Setup では登録しません。

機器に認証 / 集計情報を設定する

Device Setup 上で、機器に認証 / 集計情報を設定します。

1. ツリービューで、[設定] > [機器の共通設定] > [アクセス制限情報] の順に展開して、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [認証 / 集計情報の設定] を選択します。
[認証 / 集計情報の設定] ダイアログボックスが表示されます。

3. [認証 / 集計情報の設定] ダイアログボックスの各項目を設定します。

[認証 / 集計の運用] のドロップダウンリストの内容には、次の2種類があります。どちらの内容が表示されるかは、機種によって異なります。

- [認証しない]、[本体認証]、[ネット認証]、[外部認証]
- [認証しない / 集計しない]、[認証しない / ネット集計]、[本体認証 / 本体集計]、[本体認証 / ネット集計]、[外部認証 / 集計しない]、[外部認証 / 認証ユーザーのログを収集]



1. 認証の種類を選択します。この例では [本体認証]、または [本体認証 / 本体集計] を選択します。



[認証しない]、または [認証しない / 集計しない] を選択すると、ユーザー情報を追加できません。

2. 認証と集計をする機能を選択します。この例では、コピー、プリンター、スキャナー、およびファクスを認証 / 集計する設定にします。
3. 機器を使用するとき、パスワードを入力するかどうかを設定します。この例では、パスワードを入力する設定にします。



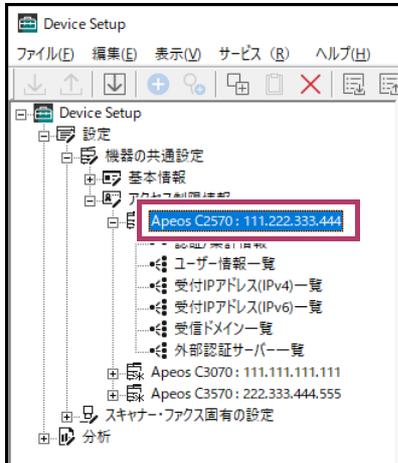
上記以外の項目については、[認証 / 集計情報の設定] ダイアログボックスのヘルプを参照してください。

4. [OK] をクリックします。

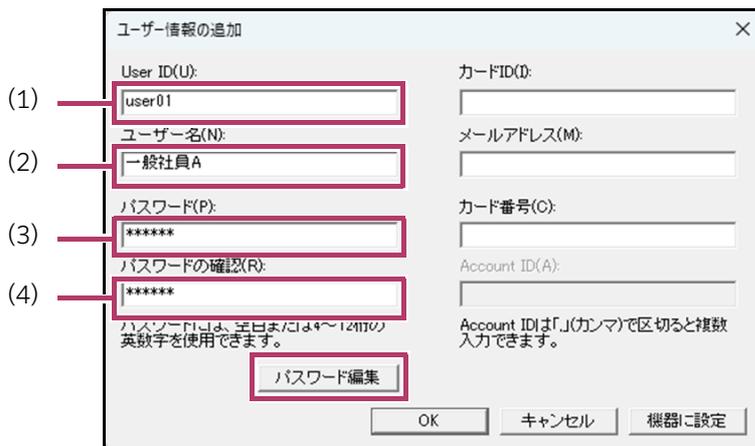
機器が利用できるユーザーを登録する

Device Setup 上で、認証 / 集計情報を設定した機器にユーザーを登録します。

1. ツリービューで、[設定] > [機器の共通設定] > [アクセス制限情報] の順に展開し、認証 / 集計情報を設定した機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [ユーザー情報の追加] を選択します。
[ユーザー情報の追加] ダイアログボックスが表示されます。
3. [ユーザー情報の追加] ダイアログボックスの各項目を設定します。



1. User ID を、1 ~ 32 文字で設定します。次の半角文字を使用できます。
英数字 スペース ! # \$ % & ' () * , - . / : = @ ¥ ^ _ ~



補足

機器の機械管理者 ID と同じ User ID を持つユーザー情報は、機器に設定できません。[機器に設定] をクリックしたとき、User ID が機械管理者 ID と一致するとエラーになります。

2. ユーザー名を、32 バイトまでの文字で入力します。漢字・かなを含むシフト JIS コードを使用できます。
3. パスワードを、4 ~ 12 桁の半角英数字で設定します。パスワードは、[パスワード編集] をクリックしてから入力します。



参照

パスワードの編集については、「パスワードの編集」(P.153) を参照してください。

4. 確認のために、同じパスワードを入力します。



参照

上記以外の項目については、[ユーザー情報の追加] ダイアログボックスのヘルプを参照してください。

4. [OK] をクリックします。

5. 追加するユーザーの数だけ、手順 2 から手順 4 を繰り返し実行します。
ここでは、一般社員 B、一般社員 C、マネージャーを順次追加します。



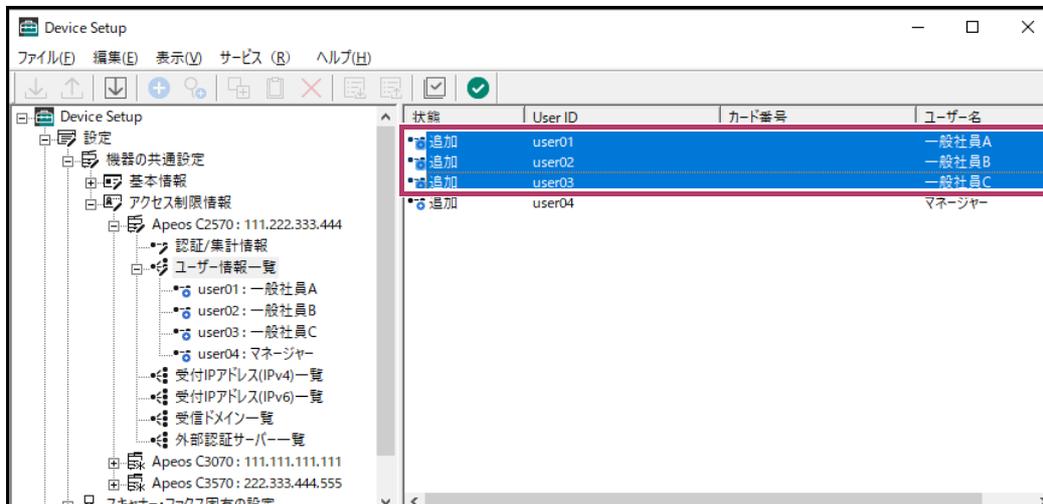
この時点で Device Setup で追加したユーザー情報を機器に設定すると、機器を使用するとき、ログイン操作が必要になります。

ユーザーが利用できる機能を制限する

ユーザーごとに、利用を許可するコピー、ファクス、スキャン、プリントの種類、および出力面数の上限を設定します。

一般社員 A、B、C を一度に設定する方法は、次のとおりです。この例では、マネージャーは機器の使用を制限しないので、設定する必要はありません。

1. ツリービューで、[設定] > [機器の共通設定] > [アクセス制限情報] > 機器 > [ユーザー情報一覧] の順に展開し、リストビューから一般社員 A、B、および C を同時に選択します。



2. [サービス] メニューの [利用制限の編集] を選択します。
[利用制限の編集] ダイアログボックスが表示されます。

3. [利用制限の編集] ダイアログボックスの各項目を設定します。

利用制限の編集 - 本体認証

このユーザーに対して利用制限を設定します。

ユーザー情報

User ID: ユーザー名:

利用制限

コピー	ファクス	スキャナー	プリンター
機能制限(C): 白黒のみ許可	機能制限(X): 制限しない	機能制限(S): 制限しない	機能制限(P): 白黒のみ許可
累積ページ数/上限ページ数 白黒コピー(A): <input type="text"/> / <input checked="" type="checkbox"/> 1000		累積ページ数/上限ページ数 白黒スキャン(E): <input type="text"/> / <input checked="" type="checkbox"/> 9999999	累積ページ数/上限ページ数 白黒プリント(D): <input type="text"/> / <input checked="" type="checkbox"/> 1000
カラーコピー(B): <input type="text"/> / <input checked="" type="checkbox"/> 9999999		カラースキャン(G): <input type="text"/> / <input checked="" type="checkbox"/> 9999999	カラープリント(E): <input type="text"/> / <input checked="" type="checkbox"/> 9999999

累積ページ数のリセット(R)

OK キャンセル 機器に設定 ヘルプ(H)

1. 一般社員 A、B、および C について、[コピー]、[プリンター] とも [白黒のみ許可] を選択します。
[ファクス]、[スキャナー] は [制限しない] を選択します。



ここでは、コピー、ファクス、スキャン、およびプリントの使用を禁止する設定もできます。

2. 一般社員 A、B、および C について、[白黒コピー]、[白黒プリント] とも [1000] と入力します。



上記以外の項目については、[利用制限の編集] ダイアログボックスのヘルプを参照してください。

4. [OK] をクリックします。

以上で、利用制限の設定は完了です。この設定で、一般社員 A、B、および C は、白黒コピーと白黒プリントの上限が 1000 枚に制限されます。



この時点では、アクセス制限情報は機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100) を参照してください。

利用制限を一括作成する

「Device Setup 入力ツール」と Device Setup を使用して、複数のユーザー情報、およびユーザーごとの利用制限情報を一括で作成できます。複数のユーザー情報、および利用制限情報を、1 台の機器に登録したいときに便利です。

Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel のブック形式のファイルです。

複数のユーザー情報、および利用制限情報を Excel のシートに入力し、書き出したデータを Device Setup に取り込んで、利用制限情報を一括作成する方法は、次のとおりです。



Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel を使用して、一度に多くの設定情報を作成できます。設定情報を入力した Device Setup 入力ツールを保存する場合は、保存したファイルから個人情報が出ないように保護してください。例としては、次のような方法があります。

- ・パスワードを設定した ZIP ファイルにする
- ・アクセスできるユーザーを限定したフォルダーに格納する

Device Setup 入力ツールで一括作成ファイルを作成する

「Device Setup 入力ツール - ユーザー情報・利用制限用.xls」は、次の 3 枚の Excel シートから構成されています。

- 認証しない
機器を使用するときに、User ID とパスワードの入力を必要にして、コピーやプリントの枚数制限などは行わない場合、このシートを使用します。
- 本体認証 / 本体認証・本体集計
機器を使用するときに、User ID とパスワードの入力を必要にし、コピーやプリントの枚数制限などを行って、かつ機器の認証 / 集計方法が [本体認証]、または [本体認証 / 本体集計] の場合に、このシートを使用します。
- ネット認証 / 本体認証・ネット集計 / 認証しない・ネット集計
機器を使用するときに、User ID とパスワードの入力を必要にし、コピーやプリントの枚数制限などを行って、かつ機器の認証 / 集計方法が [ネット認証]、[本体認証 / ネット集計]、または [認証しない / ネット集計] の場合に、このシートを使用します。



注記

Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。

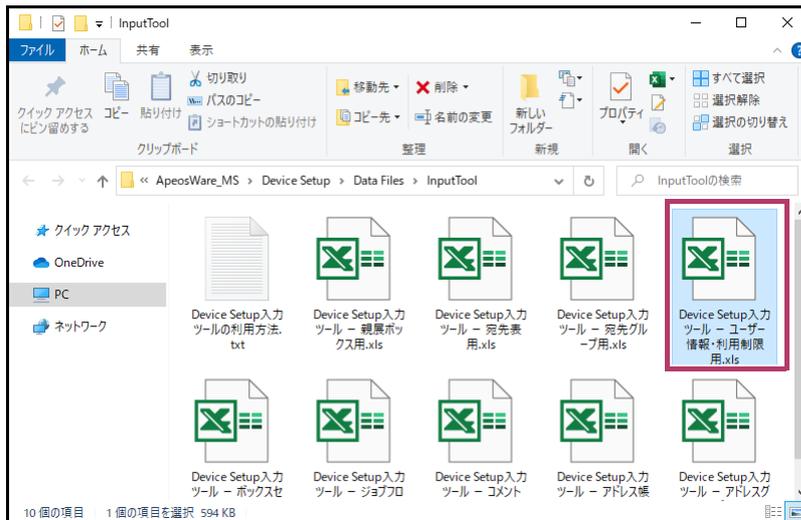


- ・機器や Device Setup で変更したアクセス制限の情報は、Device Setup 入力ツールには反映されません。そのため、Excel のシート内容は、機器の最新の状態とは異なる場合があります。
- ・書き出した一括作成ファイルの拡張子は、(Device Setup 独自のフォーマット) です。[mb4]

ここでは、[本体認証 / 本体認証・本体集計] シートを使用して、「利用制限を設定する」(P.108) と同じ設定をする場合について説明します。

1. Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [デバイス設定入力ツール] の順に選択します。
[InputTool] ウィンドウが表示されます。

2. 「Device Setup 入力ツール – ユーザー情報・利用制限用.xls」 ファイルをダブルクリックします。



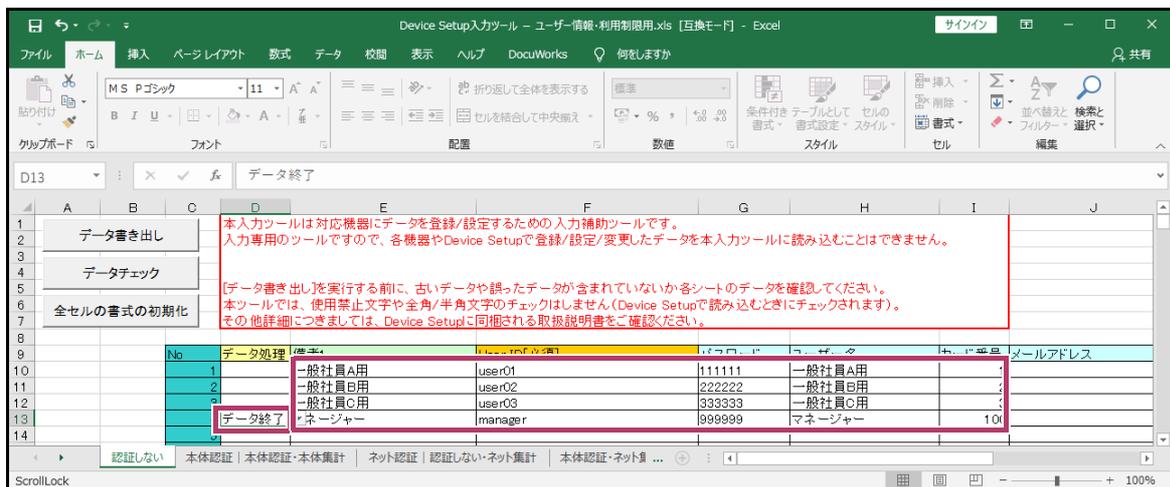
補足

- ・ Device Setup 入力ツールはマクロを使用しています。このツールを利用するには、Microsoft Excel のセキュリティレベルを [中] 以下にする必要があります。[中] の場合は、マクロの実行を確認するメッセージが表示されますので、[マクロを有効にする] をクリックします。
- ・ 「Device Setup 入力ツールの利用方法.txt」 をダブルクリックすると、Device Setup 入力ツールの補足情報や、制限事項が表示されます。

参照

Device Setup 入力ツールが対応している Excel のバージョンについては、「必要なシステム環境」(P.18) を参照してください。

3. 使用する Excel シートを選択し、作成するアクセス制限情報を入力します。1 行に 1 つのユーザー情報、および利用制限情報を設定します。利用制限情報は、最大 1000 件まで入力できます。入力が終了したら、最後に入力した行で、[データ処理] 列のセルの [▼] をクリックし、[データ終了] を選択します。



補足

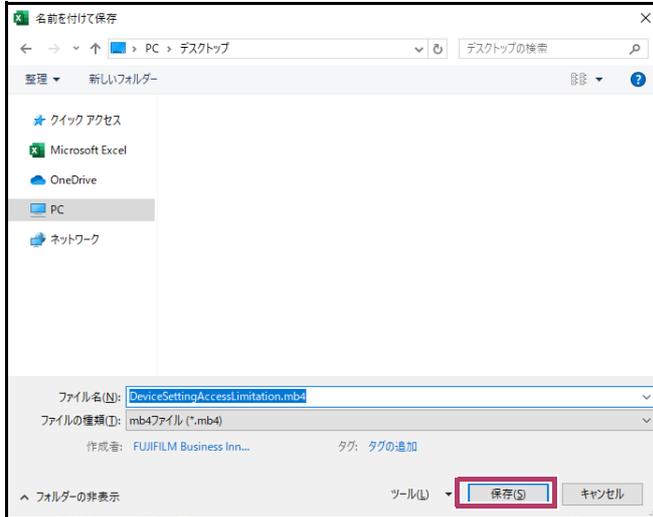
[データチェック] をクリックすると、それまで入力したセルの内容が正しいかどうかをチェックできます。ただし、手順 4 で [データ書き出し] をクリックしたときも、同じチェックが実行されます。

参照

各セルに入力する内容については、見出しのセルをクリックすると表示されるヘルプを参照してください。

4. [データ書き出し] をクリックします。このとき、セルの入力値がチェックされます。内容に誤りがある場合は、エラーのセルが強調され、エラーメッセージが表示されます。正しい値を入力してから、再度 [データ書き出し] をクリックします。内容が正しい場合、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

5. ファイル名と保存先を指定して、[保存] をクリックします。



[データの書き出し] メッセージが表示されます。

6. [OK] をクリックします。指定した場所に、拡張子「mb4」（Device Setup 独自のフォーマット）の一括作成ファイルが作成されます。あらかじめ用意されているブックは、上書き保存できません。入力した内容を保存するには、[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] を選択し、名前を指定して保存します。



補足

Device Setup のインストール先フォルダーとは別の場所にある、アクセスできるユーザーを限定したフォルダーに保存してください。

7. [ファイル] メニューから、[閉じる] を選択します。Device Setup 入力ツールが終了します。

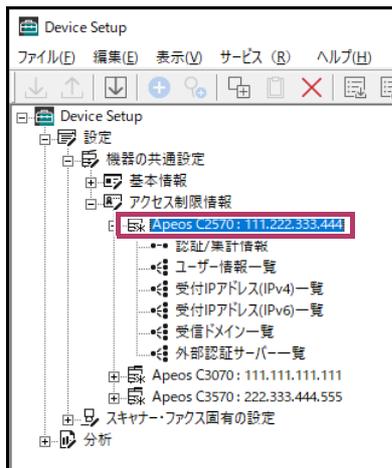
Device Setup で一括作成ファイルを読み込む

Device Setup 入力ツールで書き出した一括作成ファイルを Device Setup に読み込む方法は、次のとおりです。



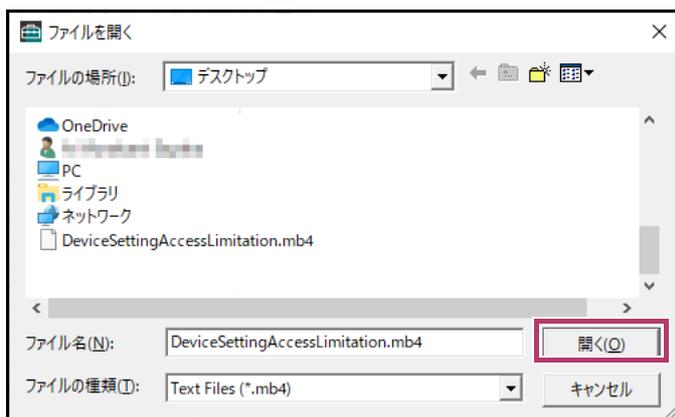
一括作成ファイルを読み込むには、使用したシートに合わせて機器が [本体認証]、[本体認証 / 本体集計]、[ネット認証]、[本体認証 / ネット集計]、または [認証しない / ネット集計] に設定されている必要があります。
[認証しない] シートを使用する場合でも、機器が上記のどれかに設定されている必要があります。
この操作方法については、「機器に認証 / 集計情報を設定する」(P.108) を参照してください。

1. ツリービューで、[設定] > [機器の共通設定] > [アクセス制限情報] の順に展開し、前項で認証 / 集計情報を設定した機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [ユーザー情報 / 利用制限の読み込み] を選択します。
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。

3. 前項で一括作成ファイルを書き出した場所を参照します。一括作成ファイル (拡張子は「mb4」) を選択し、[開く] をクリックします。



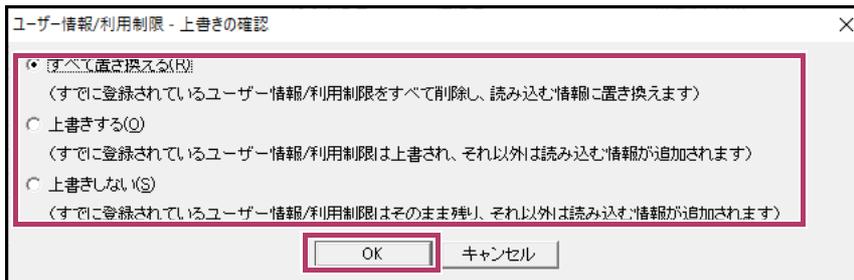
[ユーザー情報 / 利用制限情報の内容確認] ダイアログボックスが表示されます。

4. 作成するユーザー情報、および利用制限情報として、誤った情報がないか確認します。確認したら、[はい] をクリックします。



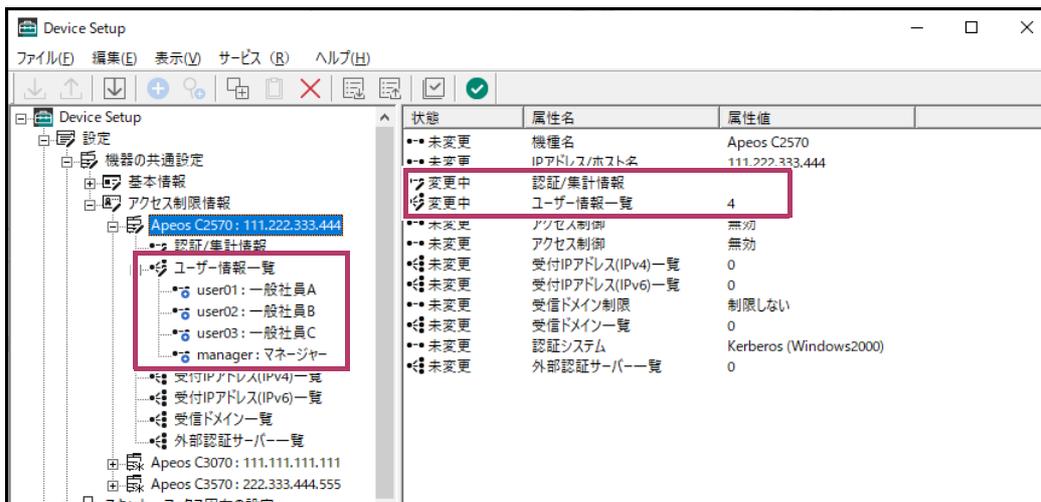
[ユーザー情報 / 利用制限 - 上書きの確認] ダイアログボックスが表示されます。

5. 利用制限情報を上書きするかどうかを選択したら、[OK] をクリックします。



確認のメッセージが表示されます。

6. [OK] をクリックします。



[ユーザー情報一覧] に、一括作成ファイルから読み込んだ利用制限情報が表示されます。



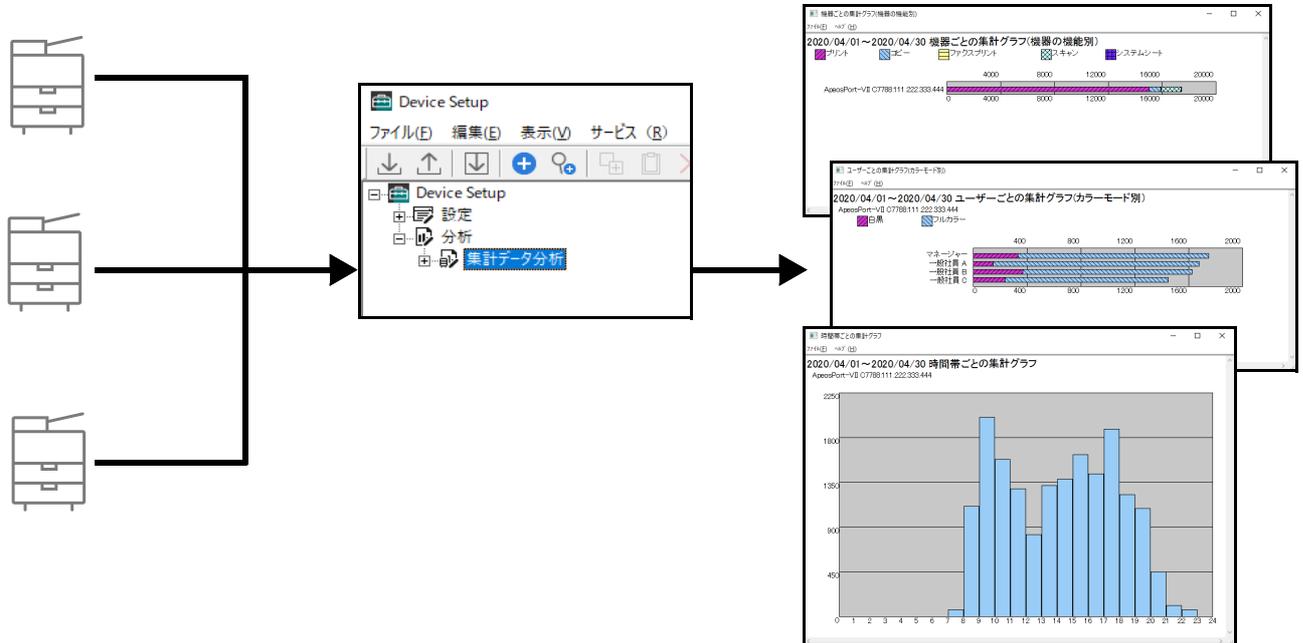
補足

この時点では、利用制限情報は機器に設定されていません。必要に応じて、機器に設定してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100)を参照してください。

機器の使用状況を確認する

ここでは、Device Setup で集計データ分析サービスを利用する方法について説明します。

Device Setup の集計データ分析サービスは、機器のジョブ履歴を収集し、使用状況のグラフや一覧表を作成します。



補足

- ・ 集計データ分析サービスが提供するものは、機器が利用されている状態の概要です。集計データをファイルとして書き出すことはできません。
- ・ 集計データ分析サービスで表示されるカウンター情報は、お客様から料金を徴収させていただくために使用するメーターとは異なります。
- ・ メーターを確認する場合は、必ず機器の操作パネルの「機械確認」画面にある「メーター確認」画面で、確認してください。
- ・ コピー/プリントジョブ履歴を詳細に把握する機能は、弊社のソフトウェアである ApeosWare Management Suite が提供しています。

機器側で必要な条件

集計データ分析サービスを使ってジョブを集計するには、機器にハードディスクが装着されている必要があります。

集計データ分析サービスで作成できるグラフ・一覧表の種類

集計データ分析サービスで、作成できるグラフおよびジョブなどの一覧表の内容は、次のとおりです。

グラフ

集計データ分析サービスでは、集計データから次のグラフを作成できます。

- 機器ごとの集計グラフ (カラーモード別)
グラフの縦軸を機器、横軸を面数とし、白黒とカラーに分けて集計します。
- 機器ごとの集計グラフ (機器の機能別)
グラフの縦軸を機器、横軸を面数とし、機器の機能 (プリント、スキャン、コピー、ファクスパ rint、システムシート) に分けて集計します。

- ユーザーごとの集計グラフ（カラーモード別）
グラフの縦軸をユーザー、横軸を面数とし、白黒とカラーに分けて集計します。
- ユーザーごとの集計グラフ（機器の機能別）
グラフの縦軸をユーザー、横軸を面数とし、機器の機能（プリント、スキャン、コピー、ファクスプリント、システムシート）に分けて集計します。
- 時間帯ごとの集計グラフ
縦軸を面数、横軸を時間帯として集計します。

一覧表

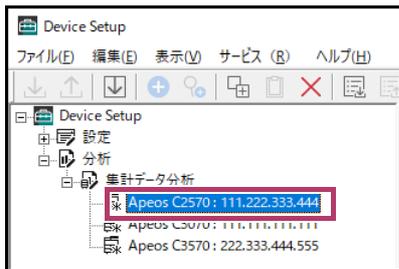
集計データ分析サービスでは、集計データから次の一覧表を作成できます。

- 出力ジョブの一覧表
- 特定の文字列を含むジョブだけの一覧表

機器から集計データを収集する

グラフやジョブ一覧を作成する前に、機器から集計データを収集します。収集された集計データは、Device Setup をインストールした PC に保存されます。グラフまたは一覧表は、PC に保存された集計データから作成されます。操作方法は、次のとおりです。

1. ツリービューで、[分析] > [集計データ分析] の順に展開して、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [集計データの収集] を選択します。

収集の実行を確認するメッセージが表示されます。

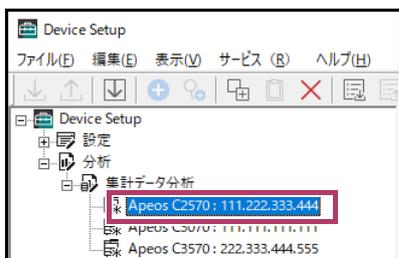
3. [はい] をクリックします。

処理の進行状況を示すウィンドウが表示されます。

集計データをグラフで表示する

前項で収集した集計データを表示する方法は、次のとおりです。

1. 前項で集計データを収集した機器を、ツリービューで選択します。



すべての機器を選択する場合は、ツリービューで [集計データ分析] を展開し、[編集] メニューの [すべて選択] を選択します。リストビューで <Shift> キー、または <Ctrl> キーを押しながら複数の機器をクリックして、選択することもできます。

2. [サービス] メニューの [集計グラフ / 一覧表の表示] から、表示するグラフの種類を選択します。ここでは、[ユーザーごとの集計グラフ (カラーモード別)] を選択します。
[集計グラフ / 一覧表の設定] ダイアログボックスが表示されます。

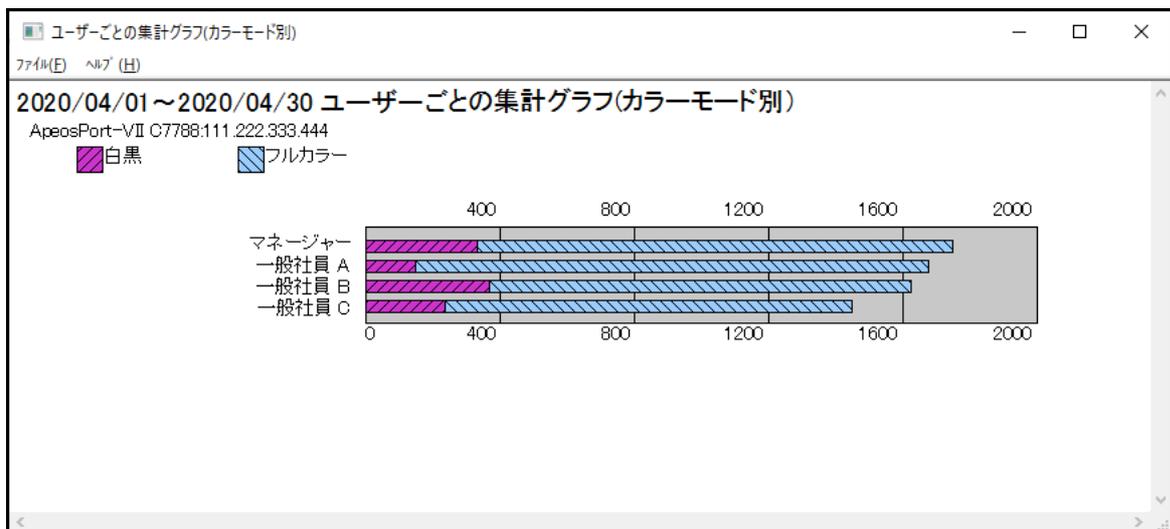


複数の機器が選択されている場合、[時間帯ごとの集計グラフ] は作成できません。

3. [開始日] と [終了日] の [▼] をクリックして、グラフに表示する期間を選択します。

4. [OK] をクリックします。

ユーザーごとの集計グラフ (カラーモード別) が表示されます。



- ・ グラフまたは一覧表のウィンドウを閉じると、グラフや一覧表の表示結果は破棄されます。再度表示するには、手順 2 ~ 4 をやり直します。
- ・ グラフまたは一覧表のウィンドウで、[ファイル] メニューの [印刷] を選択すると、グラフまたは一覧表を印刷できます。

8 ジョブフローを利用する

ジョブフローとは

ジョブフローとは、スキャン、プリント、ファイル転送、メール送信、ファクス送信などの、機器で行う処理（ジョブ）の流れを記述した情報です。

ここでは、次の項目について説明します。

- ジョブフローの種類
- ジョブフローエディターについて
- ジョブフローの例

ジョブフローの種類

ジョブフローには、大きく分けて次の2種類があります。

スキャンした文書に対するジョブフロー

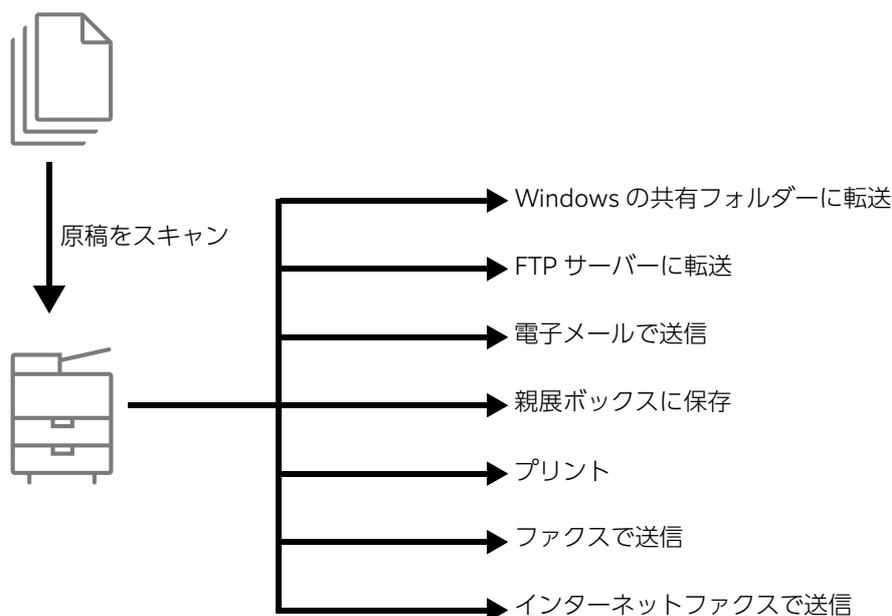
解像度、カラーモード、転送先をジョブフローに設定しておき、原稿をスキャンするときにジョブフローなどを実行します。

スキャンした文書データの転送方法には、SMB（Windowsの共有フォルダー）、FTP、電子メール、ファクス、インターネットファクスを選択できます。また、文書データの転送だけでなくプリントも実行できます。



- ・ IPファクス（SIP）は、ジョブフローの転送先に指定できません。
- ・ お使いの機種によって、利用できる転送先は異なります。

転送するファイルの形式は、DocuWorks文書、PDF、TIFFなどから選択できます。



親展ボックス内の文書に対するジョブフロー

ファイルの転送やプリントなどをジョブフローに設定しておき、親展ボックス内の文書を選択して、ジョブフローを実行します。

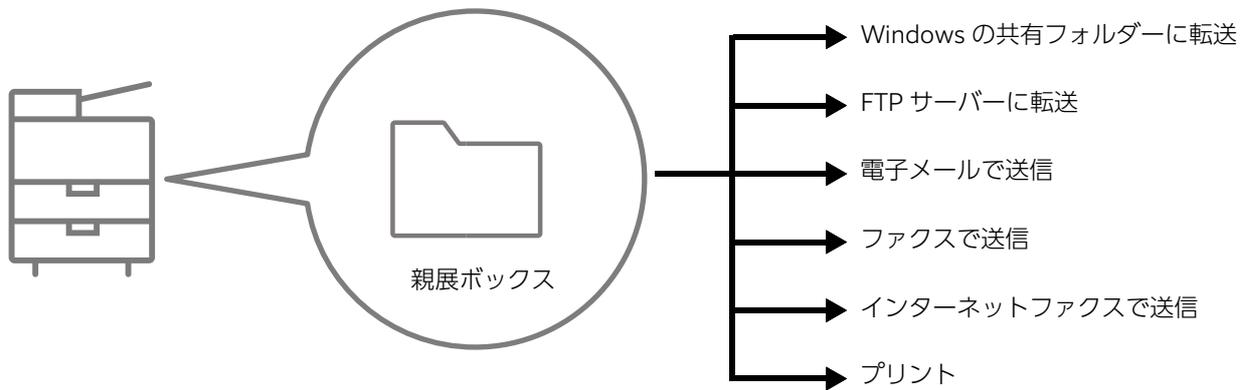
親展ボックスに文書が保存されたとき、自動的に処理を実行させることもできます。

転送方法には、SMB（Windows の共有フォルダー）、FTP、電子メール、ファクス、インターネットファクスを選択できます。また、文書データの転送だけでなくプリントも実行できます。



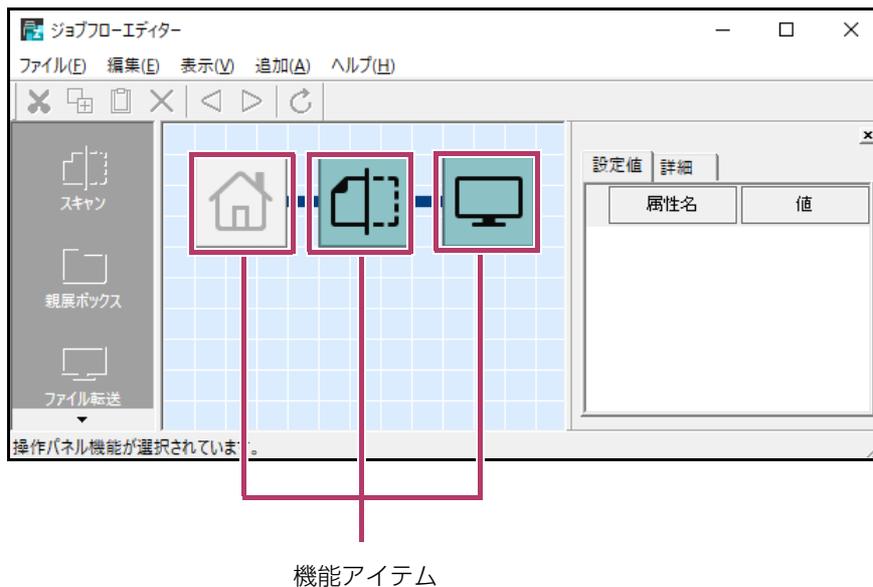
- ・ IP ファクス（SIP）は、ジョブフローの転送先に指定できません。
- ・ お使いの機種によって、利用できる転送先は異なります。

転送するファイルの形式は、DocuWorks 文書、PDF、TIFF などから選択できます。



ジョブフローエディターについて

ジョブフローの作成は、ジョブフローエディターを使って、画面上で行います。スキャン、プリント、ファイル転送などの処理は、「機能アイテム」というアイコンで表示されます。機能アイテムを、次のとおり画面上で配置することで、ジョブフローを作成します。



ジョブフローを実行する機器の機能によって、利用できる機能アイテムと利用できない機能アイテムがあります。

スキャンから始まるジョブフローを作成する

ここでは、原稿をスキャンして DocuWorks 文書に変換し、Windows 10 の共有フォルダーに転送するジョブフローを作成する例を説明します。



ここで説明するジョブフローを作成・実行できる機種は、スキャンから始まるジョブフローを作成・実行できる機種です。機種については、Readme.txt を参照してください。

共有フォルダーを準備する

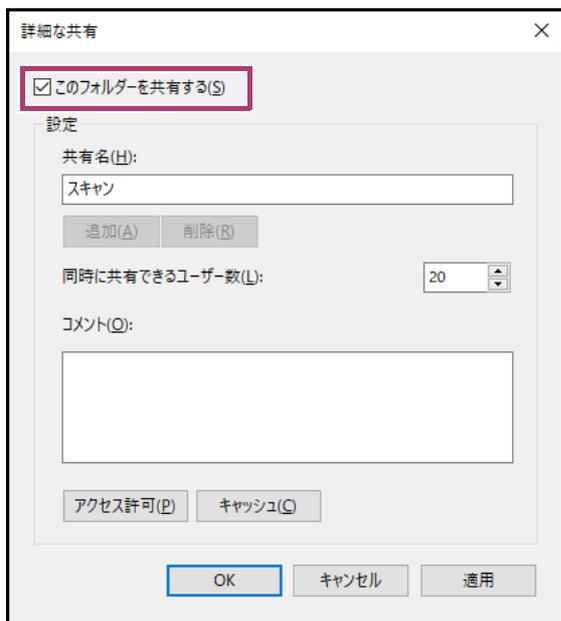
DocuWorks 文書の転送先 PC で、DocuWorks 文書を保存する共有フォルダーを作成します。操作方法は、次のとおりです。

1. 共有するフォルダーをマウスの右ボタンでクリックし、表示されたメニューから、[プロパティ] を選択します。
2. フォルダーのプロパティの [共有] タブをクリックします。
3. [詳細な共有] をクリックします。



[詳細な共有] ダイアログボックスが表示されます。

4. [このフォルダを共有する] にチェックマークを付けます。
[共有名] はデフォルト (フォルダーと同じ名前) から変更しないものとします。



5. [アクセス許可] をクリックします。
6. [共有名] のアクセス許可] ダイアログボックスで、[Everyone] を選択します。
7. [アクセス許可] の [変更] で、[許可] にチェックマークを付けます。



8. [OK] をクリックします。
9. [詳細な共有] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
10. フォルダのプロパティで、[閉じる] をクリックしてウィンドウを閉じます。

共有名、ユーザー名、コンピューター名を確認する

ジョブフローを使って共有フォルダーにファイルを転送するために必要な情報は、次のとおりです。

- 共有フォルダーの共有名
フォルダーを共有する設定をしたとき、フォルダープロパティの [共有名] に表示された名前です。この例では、フォルダーと同じ名前です。
- 共有フォルダーがある PC にログオンできる、ユーザー名とパスワード
パスワードは確認できないので、知っている必要があります。
- 共有フォルダーがある PC のコンピューター名、固定の IP アドレス、または DNS ホスト名

補足

- ・ パスワードが設定されたユーザー名を使用してください。パスワードがないユーザー名を使用すると、機器から共有フォルダーにファイルを転送できません。
- ・ ジョブフローを実行する機器と、共有フォルダーがある PC が別のサブネットに接続されている場合、コンピューター名は WINS サーバーに登録されている必要があります。
- ・ DHCP、またはその他の手段によって割り当てられる動的 IP アドレスは、転送先を指定する情報として利用できません。

ユーザー名の確認

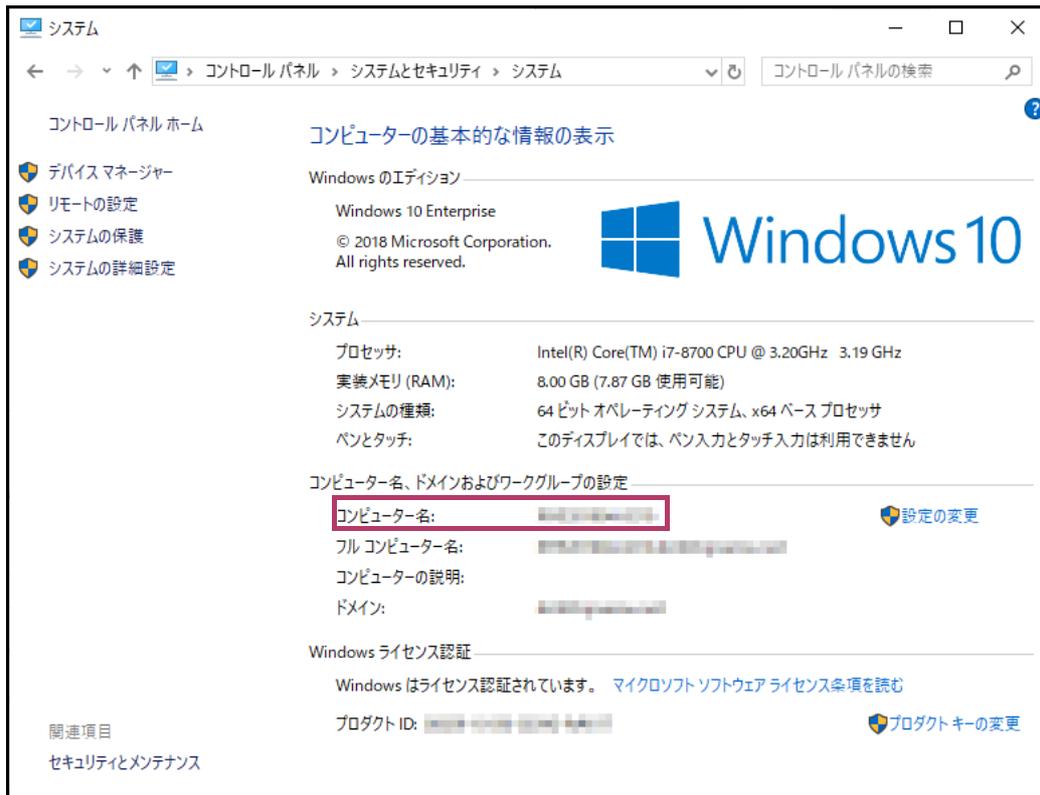
1. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [ユーザーアカウント] > [ユーザーアカウント] の順にクリックします。
3. 「コンピューター名¥ユーザー名」、または「ドメイン名¥ユーザー名」で表示されるユーザー名を確認します。



コンピューター名の確認

1. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [システムとセキュリティ] > [システム] の順にクリックします。
[システム] ダイアログボックスが表示されます。

3. コンピューター名を確認します。



補足

Active Directory ドメインにログオンしている場合、[コンピューター名 .FQDN (完全修飾ドメイン名)] の形式で表示されます。

IP アドレスの確認

1. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] の順にクリックします。
2. [コマンドプロンプト] ウィンドウで「ipconfig」と入力し、<Enter> キーを押します。
[IP Address] の項目に、PC の IP アドレスが表示されます。

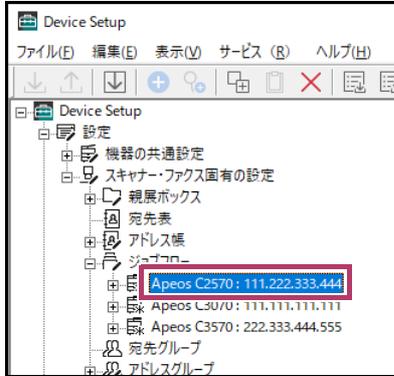
DNS ホスト名の確認

1. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] の順にクリックします。
2. [コマンドプロンプト] ウィンドウで「nslookup -querytype=ptr {「IP アドレスの確認」(P.127) で表示された IP アドレス}」と入力し、<Enter> キーを押します。
[name=] の項目に、PC の DNS ホスト名が表示されます。

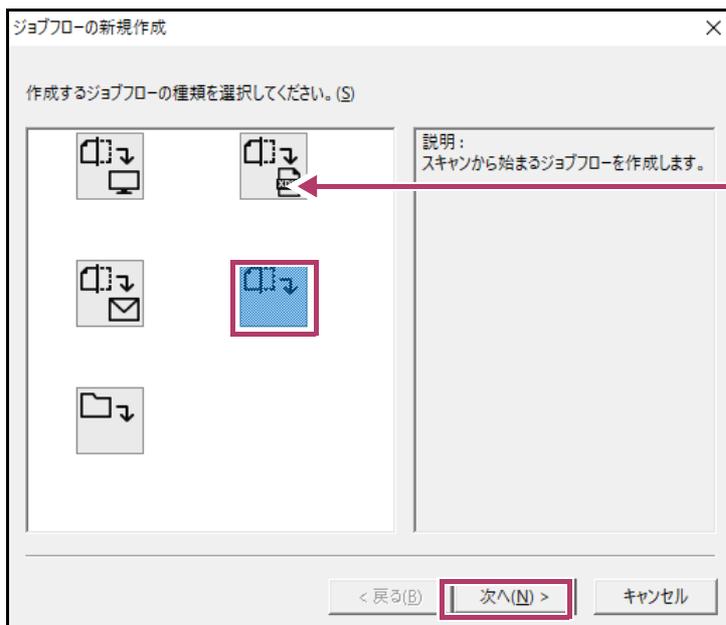
ジョブフローを作成する

スキャンから始まるジョブフローを作成する方法は、次のとおりです。

1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [ジョブフロー] の順に展開し、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [ジョブフローの作成] を選択します。
3. スキャンから始まるジョブフローを選択し、[次へ] をクリックします。



これを選択すると、手順6のファイル転送機能アイテムのドラッグ&ドロップを省略できますが、この例では使用しません。

4. ジョブフロー名を入力し、[完了] をクリックします。

ジョブフローの新規作成

選択したジョブフローの名称と説明を必要に応じて変更してください。

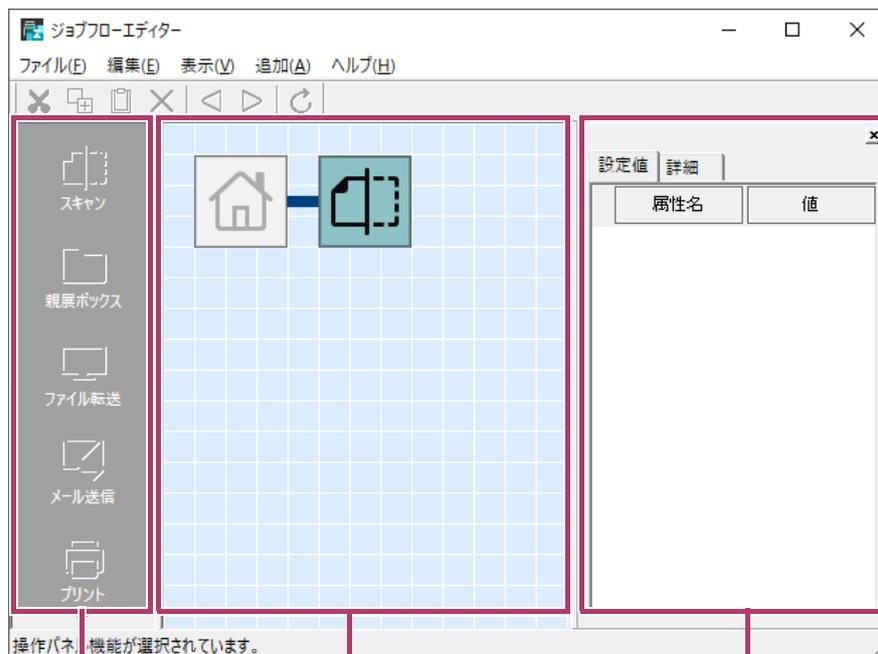
ジョブフロー名(D): スキャンして共有フォルダーへ転送

説明(D): スキャンから始まるジョブフローを作成します。

同じ名前のジョブフローがデバイス上に存在しても登録できます。

< 戻る(B) 完了 キャンセル

[ジョブフローエディター] ウィンドウが表示されます。[ジョブフローエディター] ウィンドウの左側、中央、右側の領域を、機能アイテム選択エリア、ジョブフロービューエリア、属性編集エリアと呼びます。

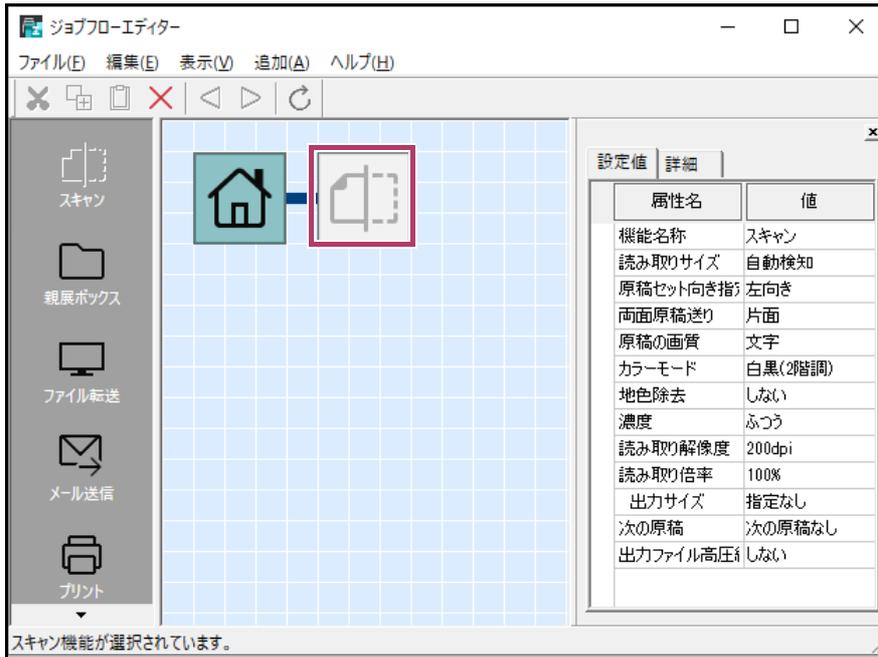


機能アイテム選択エリア

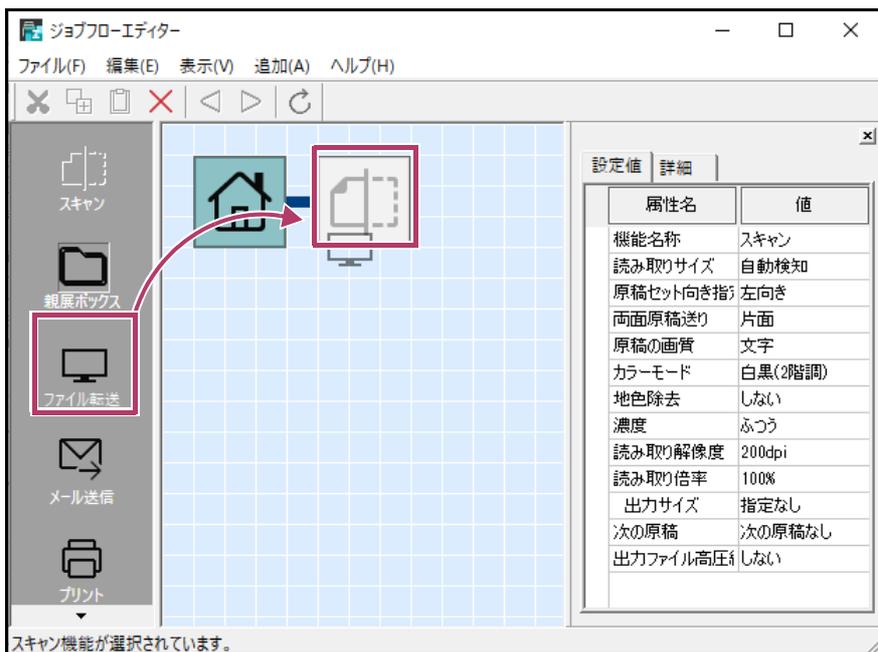
ジョブフロービューエリア

属性編集エリア

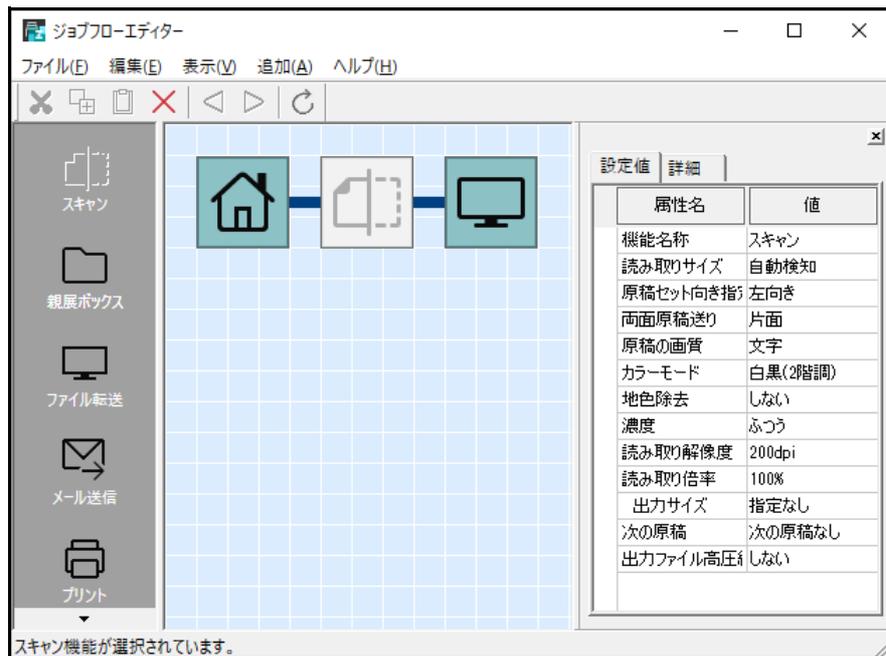
5. スキャン機能アイテムをクリックします。



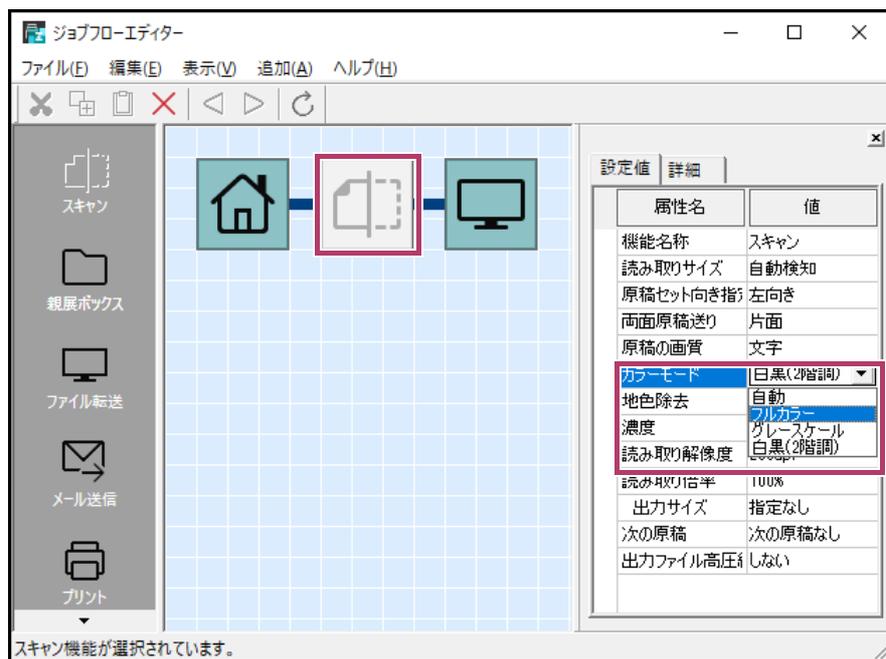
6. 機能アイテム選択エリアから、ファイル転送機能アイテムをドラッグし、スキャン機能アイテムにドロップします。



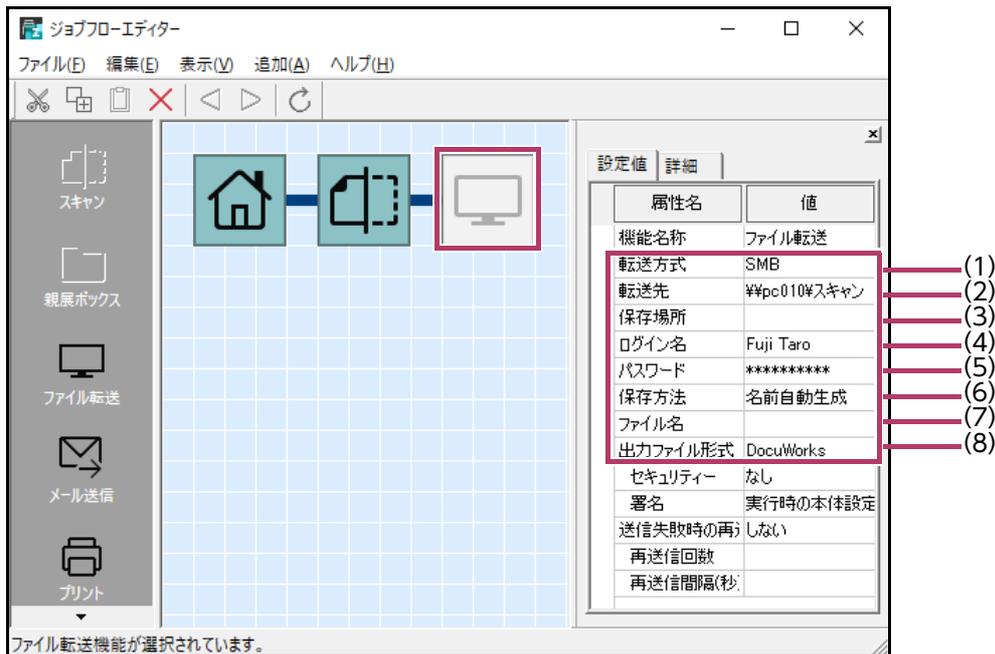
ジョブフローが次のようになります。



7. スキャン機能アイテムをクリックします。属性編集エリアの設定値タブで、原稿をスキャンする際のカラーモードや解像度を設定できます。
ここではカラーモードを「フルカラー」に設定します。



8. ファイル転送機能アイテムをクリックします。
属性編集エリアの設定値タブで、次のように設定します。



1. [転送方式]：[SMB]（デフォルト）のままにします。
2. [転送先]：前項で確認したコンピューター名/IPアドレス/DNSホスト名と共有フォルダー名を指定します。
 - コンピューター名を使用する場合
「¥¥ 転送先のコンピューター名 ¥ 共有名」という形式で入力します。
 - IPアドレスを使用する場合
「¥¥ 転送先のPCのIPアドレス ¥ 共有名」という形式で入力します。
 - DNSホスト名を使用する場合
「¥¥ 転送先のPCのDNSホスト名 ¥ 共有名」という形式で入力します。

補足

右端のボタンをクリックすると、ネットワーク内の共有フォルダーを検索して、指定できます。ただし検索する分、時間がかかります。

3. [保存場所]：共有フォルダー内にサブフォルダーがある場合は、そのフォルダー名を入力すると、ファイルの格納先に指定できます。
この例では指定しません。

補足

[出力ファイル形式] で [TIFF]、または [TIFF/JPEG 自動判別] を選択した場合、ここで指定した名前のフォルダーが共有フォルダー内にないときは、その名前のフォルダーが自動的に作成されます。

4. [ログイン名]：前項で確認したユーザー名を入力します。

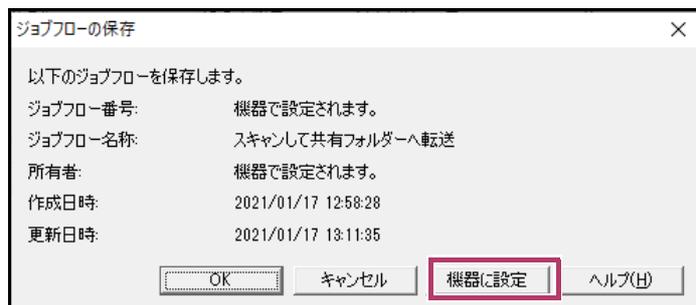
補足

使用する機種によっては、ユーザー名に NT ドメインユーザー名または ActiveDirectory ドメインユーザー名を指定できます。ヘルプの「ファイル転送機能アイテムの属性設定エリア」を表示し、[ログイン名] の項目を参照してください。

5. [パスワード]：前項で確認したパスワードを入力します。
6. [保存方法]：[名前自動作成]（デフォルト）のままにします。
7. [ファイル名]：転送されたファイルの名前を指定する項目ですが、[保存方法] を [名前自動作成] にしているため、空白のままにします。
8. [出力ファイル形式]：[DocuWorks]（デフォルト）のままにします。

9. [ファイル] メニューの [保存終了] を選択します。
[ジョブフローの保存] ダイアログボックスが表示されます。

10. [機器に設定] をクリックします。



ジョブフローが機器に設定されると、ツリービューにジョブフロー番号が表示されます。

ジョブフローを実行する

スキャンから始まるジョブフローは、次のようにして実行します。



補足

お使いの機種によっては、操作方法が異なる場合があります。詳しい操作方法については、機器のマニュアルを参照してください。

1. 原稿を機器にセットします。
2. 機器の操作パネルで、[メニュー] ボタンを押して、[ジョブフロー] を選択します。
3. ジョブフローを選択し、原稿の読み取りを開始します。



参照

お使いの機種によって、操作方法が異なる場合があります。機器の詳しい操作手順については、機器のマニュアルを参照してください。

親展ボックスから始まるジョブフローを作成する

ここでは、親展ボックスの文書を PDF 文書に変換し、FTP サーバーに転送するジョブフローを作成する例を説明します。

FTP サーバーソフトウェアが稼動している各種の OS を、スキャン文書やファクス文書の転送先に指定できます。FTP サーバーに転送された PDF 文書は、FTP クライアントソフトウェアを持つ各種の OS から取り出せます。



ここで説明するジョブフローを作成・実行できる機種は、親展ボックスから始まるジョブフローを作成・実行できる機種です。機種については、Readme.txt を参照してください。

親展ボックスを準備する

親展ボックスから始まるジョブフローを作成するには、関連付ける親展ボックスが必要です。ジョブフローと関連付けるために、親展ボックスの番号を確認する方法は、次のとおりです。

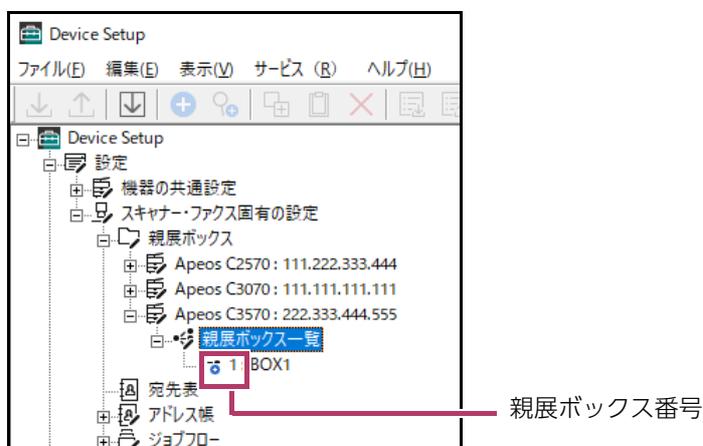


ジョブフローを作成する機器に親展ボックスが作成されていない場合は、「親展ボックスを設定する」(P.44) を参照して、作成してください。

親展ボックス番号の確認

親展ボックス番号を確認します。

親展ボックス番号は、ツリービューで [設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [親展ボックス] > 機器 > [親展ボックス一覧] の順に展開すると表示されます。

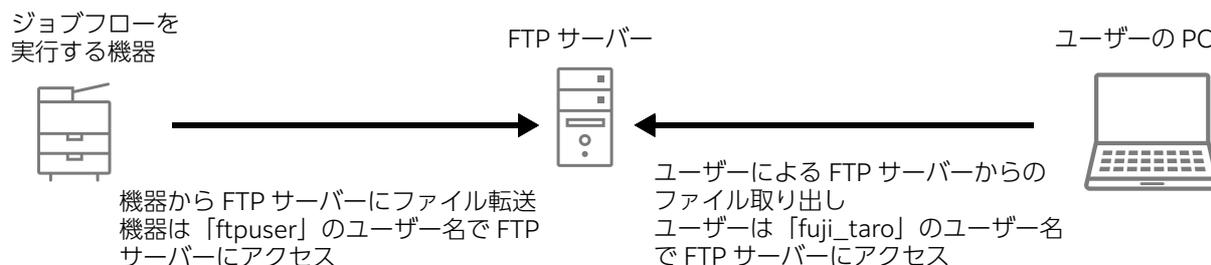


FTP サーバーを準備する

ジョブフローによって機器から転送された PDF 文書を、fuji_taro というユーザーが FTP サーバーにアクセスして、取り出せるようにします。

次の例では、ユーザーが、自分が FTP サーバーにログインするユーザー名 (fuji_taro) と、自分のパスワードを知っているとします。

また、fuji_taro とは別に、機器が FTP サーバーに接続するユーザー (ftpuser) が、FTP サーバーに登録されているとします。



ジョブフローを使って FTP サーバーにファイルを転送するには、次の情報が必要です。

- FTP サーバーの DNS ホスト名、または固定の IP アドレス
ここでは ftp.example.com とします。
- ジョブフローを実行する機器が、FTP サーバーに接続するユーザーの名前とパスワード
ここではユーザー名を ftpuser、パスワードを e4Mva70h とします。
- ファイルの格納先ディレクトリー
ここでは、/scan_fax_doc/fuji_taro とします。
このディレクトリーには、次のアクセス権が設定されているとします。
 - ・ ftpuser のアクセス権：書き込み
 - ・ fuji_taro のアクセス権：読み取り・書き込み

この例では、ジョブフローから FTP サーバーにアクセスするとき、実際のユーザーのユーザー名 (fuji_taro) とパスワードは使用しないで、FTP によるファイル格納用のユーザー ftpuser と、そのパスワードを使用します。こうすると、ジョブフローを作成する人は、各ユーザーのパスワードを知る必要がありません。

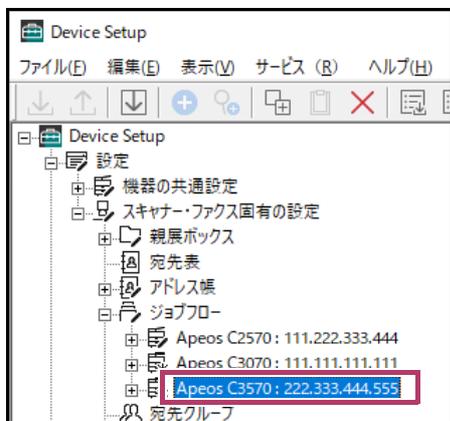
🔗 参照

FTP サーバーでユーザーを登録する操作や、ディレクトリーのアクセス権を設定する操作については、お使いの OS や FTP サーバーソフトウェアのマニュアルを参照してください。

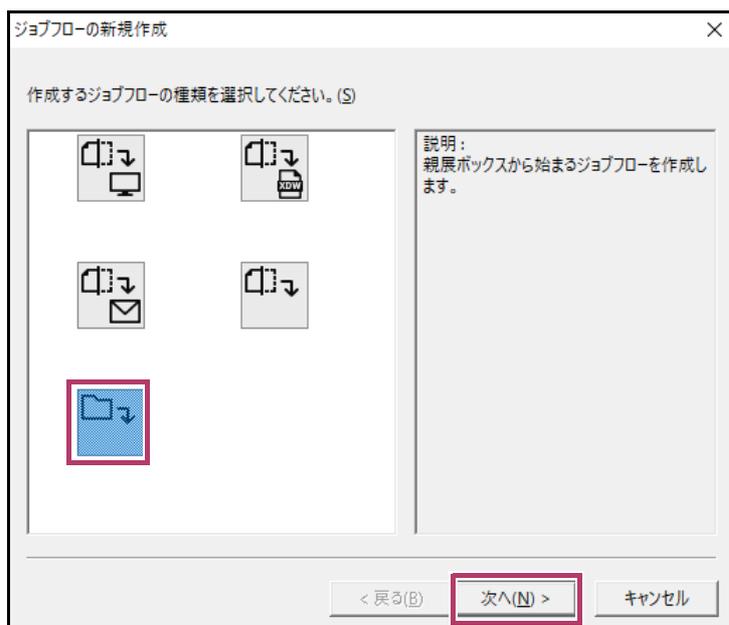
ジョブフローを作成する

親展ボックスから始まるジョブフローを作成する方法は、次のとおりです。

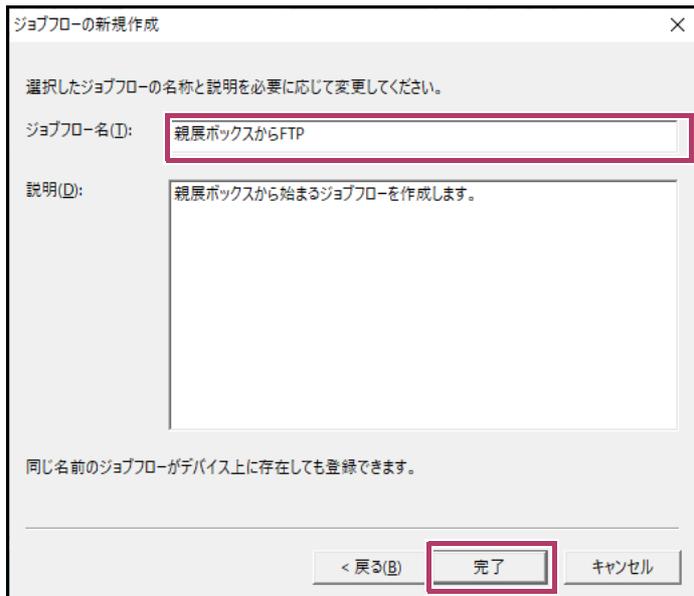
1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [ジョブフロー] の順に展開し、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [ジョブフローの作成] を選択します。
3. 親展ボックスから始まるジョブフローを選択し、[次へ] をクリックします。



4. ジョブフロー名を入力し、[完了] をクリックします。



ジョブフローの新規作成

選択したジョブフローの名称と説明を必要に応じて変更してください。

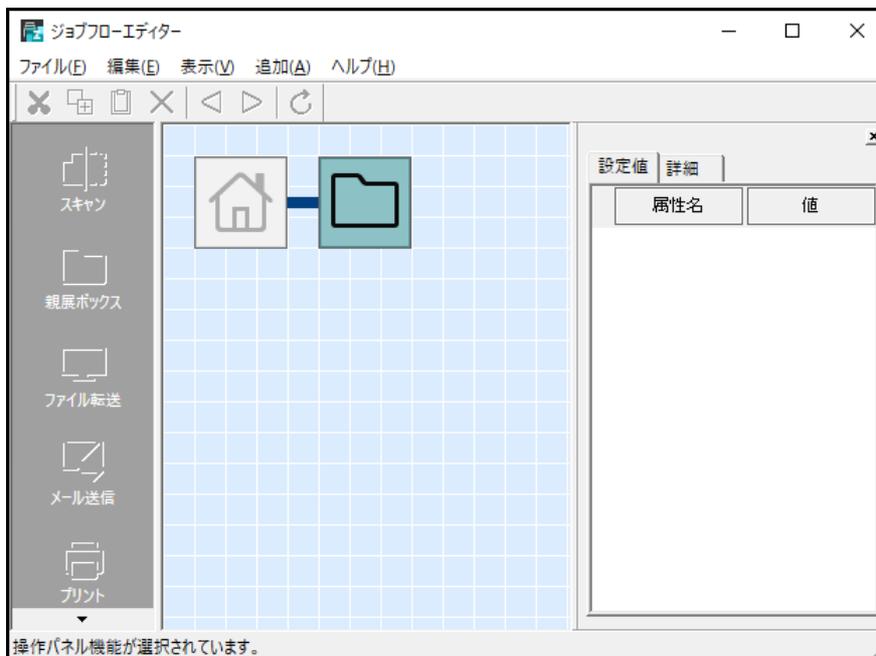
ジョブフロー名(I): 親展ボックスからFTP

説明(D): 親展ボックスから始まるジョブフローを作成します。

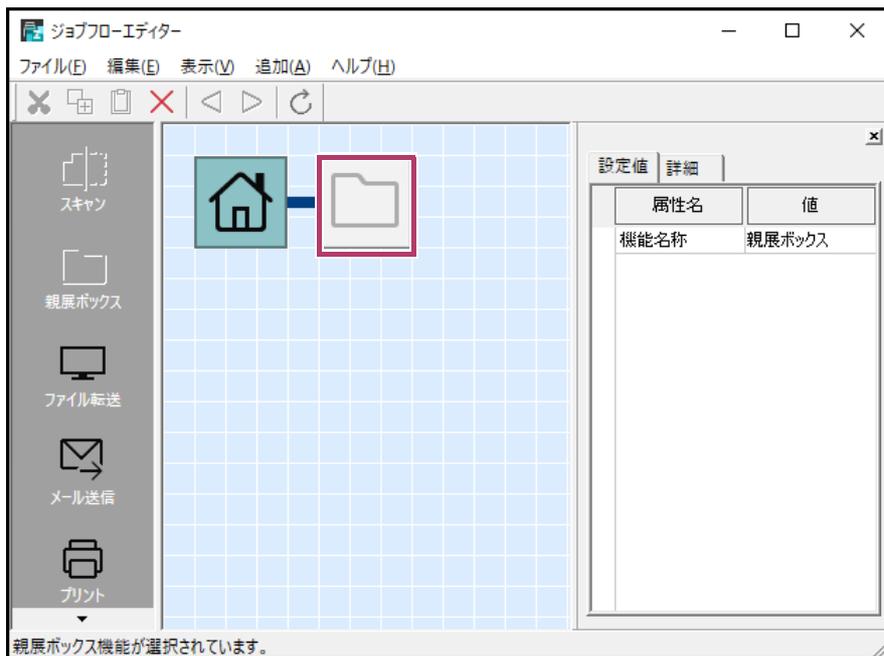
同じ名前のジョブフローがデバイス上に存在しても登録できます。

< 戻る(B) 完了 キャンセル

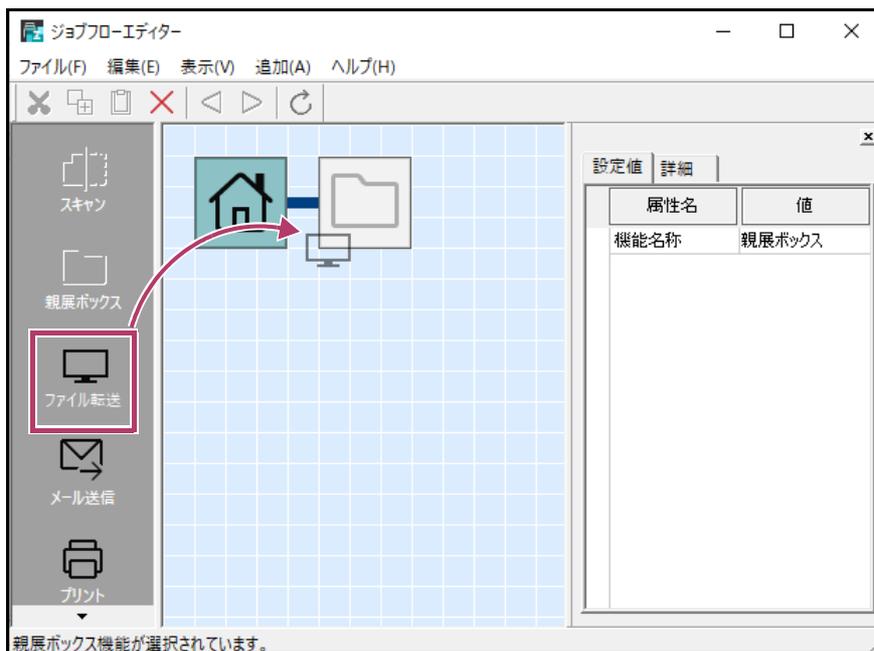
[ジョブフローエディター] ウィンドウが表示されます。



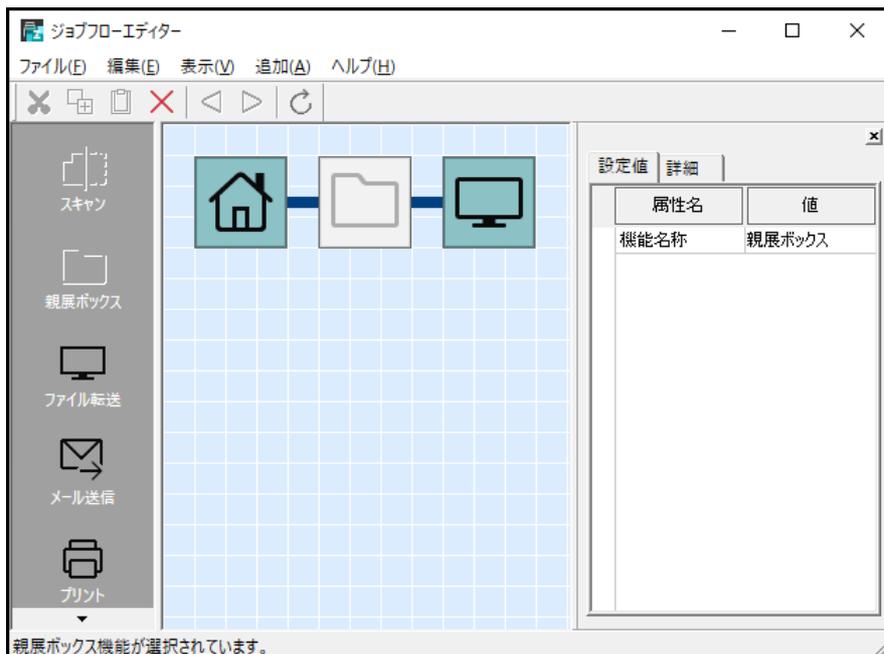
5. 親展ボックス機能アイテムをクリックします。



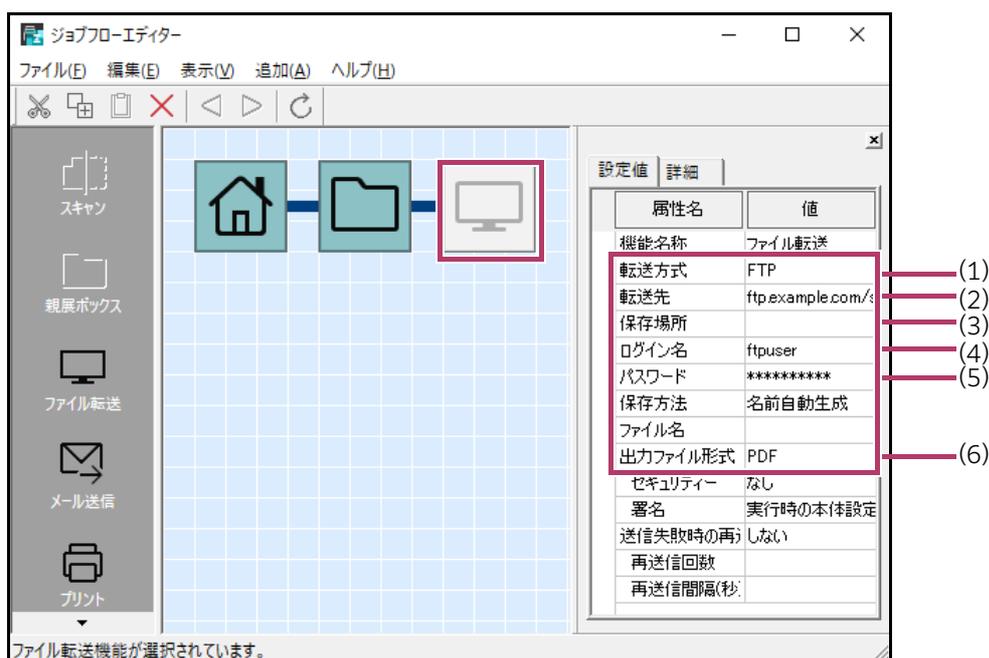
6. 機能アイテム選択エリアから、ファイル転送機能アイテムをドラッグし、親展ボックス機能アイテムにドロップします。



ジョブフローが次のようになります。



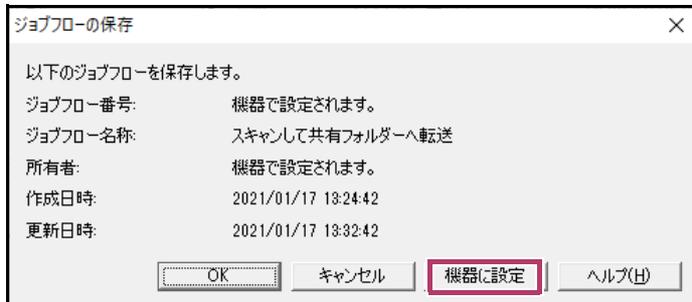
7. ファイル転送機能アイテムをクリックします。
属性編集エリアの設定値タブで、次のように設定します。



- [転送方式]: [FTP] を選択します。
- [転送先]: 前項で説明した、FTP サーバーの DNS ホスト名と格納先ディレクトリーを入力します。
この例では、ftp.example.com/scan_fax_doc/fuji_taro/ です。
- [保存場所]: ここで指定した名前のディレクトリーを上記のディレクトリー内に作成して、ファイルを格納します。
この例では指定しません。
- [ログイン名]: 前項で確認したユーザー名を入力します。
この例では [ftpuser] です。
- [パスワード]: 前項で確認したパスワードを入力します。
この例では [e4Mva7Oh] です。
- [出力ファイル形式]: [PDF] を選択します。

8. [ファイル] メニューの [保存終了] を選択します。
[ジョブフローの保存] ダイアログボックスが表示されます。

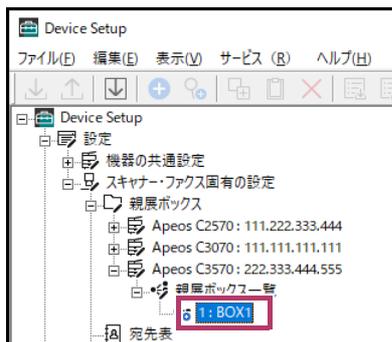
9. [機器に設定] をクリックします。
ジョブフローが機器に設定されると、ツリービューにジョブフロー番号が表示されます。この例では「2」とします。



親展ボックスを設定する

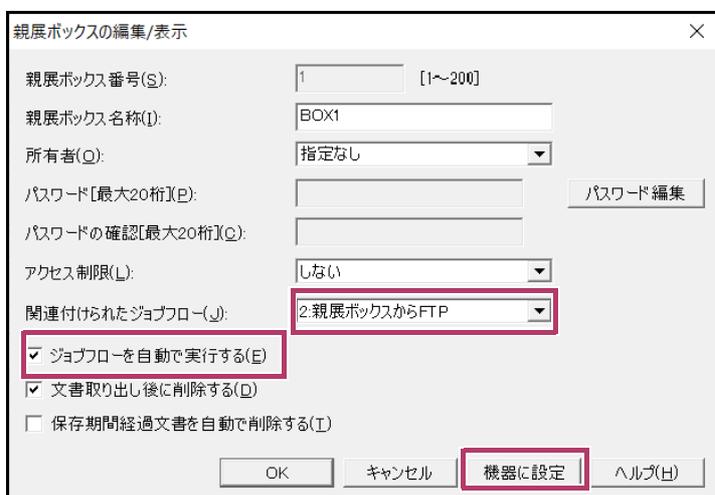
この例では、親展ボックスに文書が格納されたときに、自動的にジョブフローが実行されるようにします。親展ボックスで設定する内容は、次のとおりです。

1. ツリービューで [設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [親展ボックス] > 機器 > [親展ボックス一覧] の順に展開して、ジョブフローを実行する親展ボックスを選択します。



2. [サービス] メニューの [親展ボックスの編集 / 表示] を選択します。
[親展ボックスの編集 / 表示] ダイアログボックスが表示されます。

3. [関連付けられたジョブフロー] に、前項の最後の手順で表示された、ジョブフロー番号（この例では「2」）を選択します。[ジョブフローを自動で実行する] にチェックマークを付け、[機器に設定] をクリックします。



ジョブフローを実行する

この例では、親展ボックスに文書が格納されたときに、自動的にジョブフローが実行されます。文書は PDF 文書に変換され、FTP サーバーに転送されます。

ジョブフローを一括作成する

「Device Setup 入力ツール」と Device Setup を使用して、複数のジョブフローを一括で作成できます。転送先が異なる複数のジョブフローを、1 台の機器に登録したいときに便利です。

Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel のブック形式のファイルです。

ジョブフローの一括作成は、大きく分けて次の 3 つの順で行います。

- 元になるジョブフローを決める
- Device Setup 入力ツールで、差し込み情報ファイルを作成する
- Device Setup で、ジョブフローの一括作成を実行する

ここでは、最初にジョブフローの一括作成の作業について、開始から終了までの流れを図で説明します。次に、前述の 3 つの手順について、それぞれ説明します。



補足

Device Setup 入力ツールは、Microsoft Excel を使用して、一度に多くの設定情報を作成できます。設定情報を入力した Device Setup 入力ツールを保存する場合は、保存したファイルから個人情報が出ないように保護してください。例としては、次のような方法があります。

- ・ パスワードを設定した ZIP ファイルにする
- ・ アクセスできるユーザーを限定したフォルダーに格納する

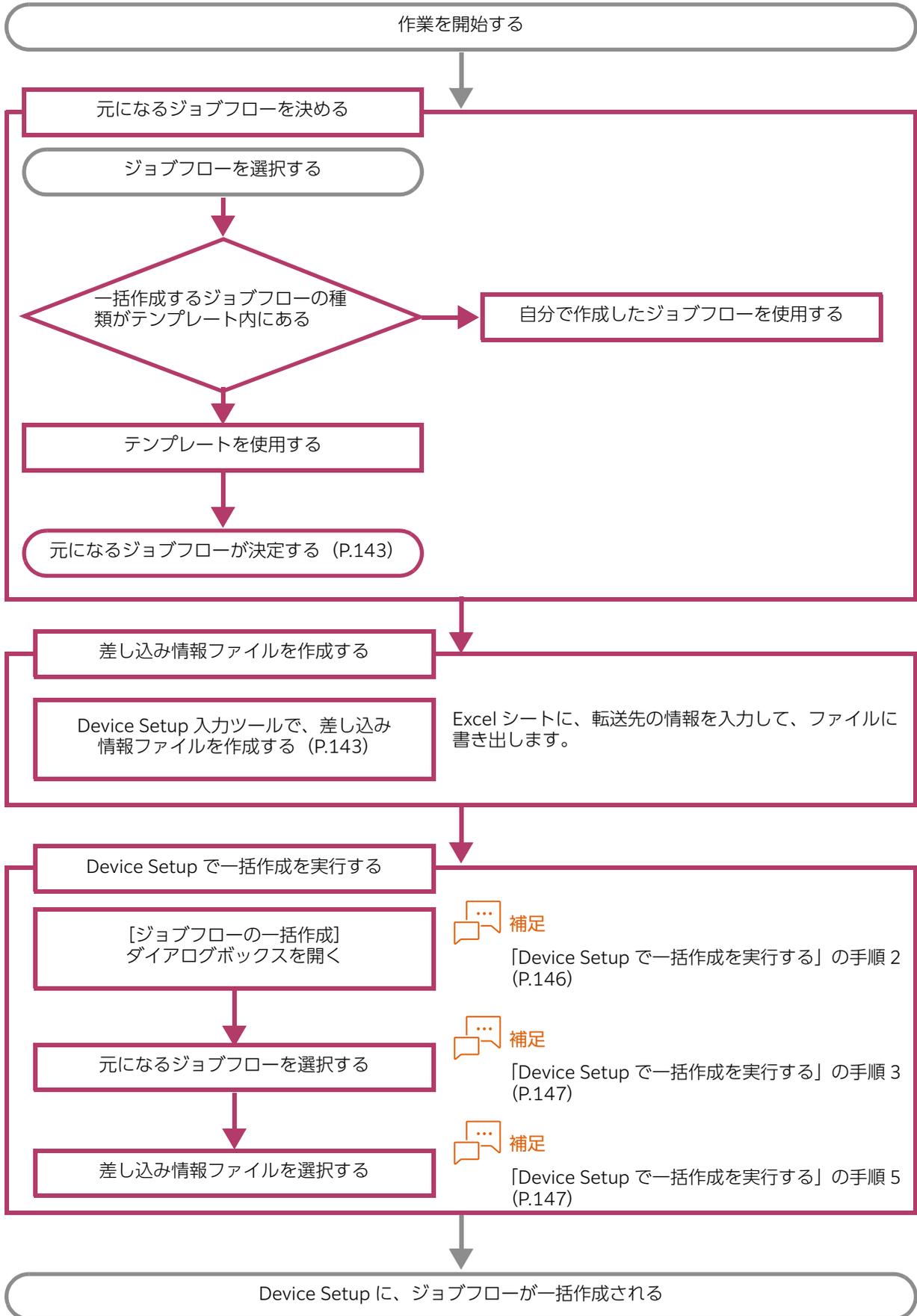


参照

ジョブフローを一括作成できる機種については、Readme.txt を参照してください。

作業の流れ

ジョブフローの一括作成は、次の順で行います。



元になるジョブフローの種類を決める

一括作成するジョブフローの転送方式、およびファイル形式を指定するために、作成するジョブフローの元になるジョブフローファイルを選択します。

ジョブフローファイルは、次のどちらかを選択します。

テンプレートから選択する

Device Setup にあらかじめ用意されている、次の 4 種類のテンプレートから選択します。

- スキャンした文書を共有フォルダにファイル転送（転送方式：SMB、ファイル形式：DocuWorks）
- スキャンした文書を共有フォルダにファイル転送（転送方式：SMB、ファイル形式：PDF）
- スキャンした文書をメール送信（ファイル形式：DocuWorks）
- スキャンした文書をメール送信（ファイル形式：PDF）

任意のジョブフローから選択する

Device Setup にすでに設定されているジョブフローを選択した状態で、[サービス] メニューから「ジョブフローの書き出し」を選択すると、ジョブフローファイルを作成できます。次の条件で作成したジョブフローファイルを、テンプレートとして選択できます。

- ファイル転送機能アイテム（SMB）を 1 個だけ含む
- メール送信機能アイテムを 1 個だけ含む
- ファイル転送機能アイテム（SMB）を 1 個だけと、メール送信機能アイテムを 1 個だけ含む



補足

複数のファイル転送機能アイテム（SMB）、または複数のメール送信機能アイテムを含むとエラーになります。ジョブフローに、親展ボックス、ファクス、インターネットファクス、またはプリント機能アイテムが含まれていても、エラーになりません。ただし、これらの機能アイテムの属性（たとえば送信先ファクス番号）を、差し込み情報で変更はできません。



参照

その他の詳細な条件については、ヘルプの「ジョブフローを一括作成する」を参照してください。

差し込み情報ファイルを作成する

Device Setup 入力ツールを使用して、差し込み情報ファイルを作成します。「Device Setup 入力ツール - ジョブフロー複数一括作成差し込み情報用.xls」は、次の 3 枚の Excel シートから構成されています。

- ファイル転送（SMB）
スキャンしたファイルを、Windows の共有フォルダーに転送（SMB）する場合に使用します。
- メール送信
スキャンしたファイルを、メールで転送する場合に使用します。
- ファイル転送（SMB）・メール送信
スキャンしたファイルを、Windows の共有フォルダーに転送（SMB）し、同時に、メールでも転送する場合に使用します。



注記

Device Setup は、Device Setup 独自のフォーマットでファイルを書き出します。ほかのアプリケーションなどで、ファイルを編集しないでください。

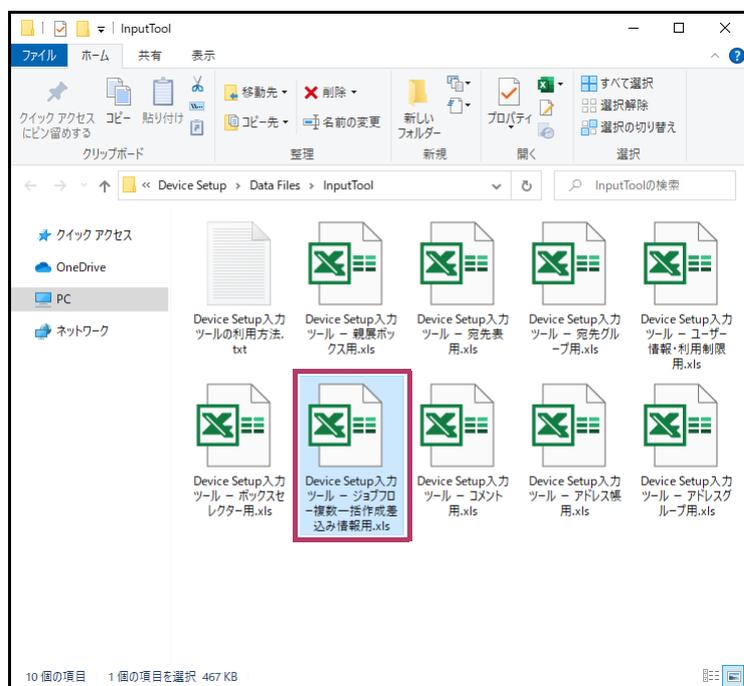


補足

- ・ 機器や Device Setup で変更したジョブフローの情報は、Device Setup 入力ツールには反映されません。したがって、Excel のシート内容は、機器の最新の状態とは異なる場合があります。
- ・ 書き出した差し込み情報ファイルの拡張子は、「mb2」（Device Setup 独自のフォーマット）です。

ここでは、[ファイル転送 (SMB)] シートを使用して、転送先が異なる複数のジョブフローの差し込み情報ファイルを作成する例を説明します。

1. Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [デバイス設定入力ツール] の順に選択します。
[InputTool] ウィンドウが表示されます。
2. 「Device Setup 入力ツール - ジョブフロー複数一括作成差し込み情報用 .xls」 ファイルをダブルクリックします。



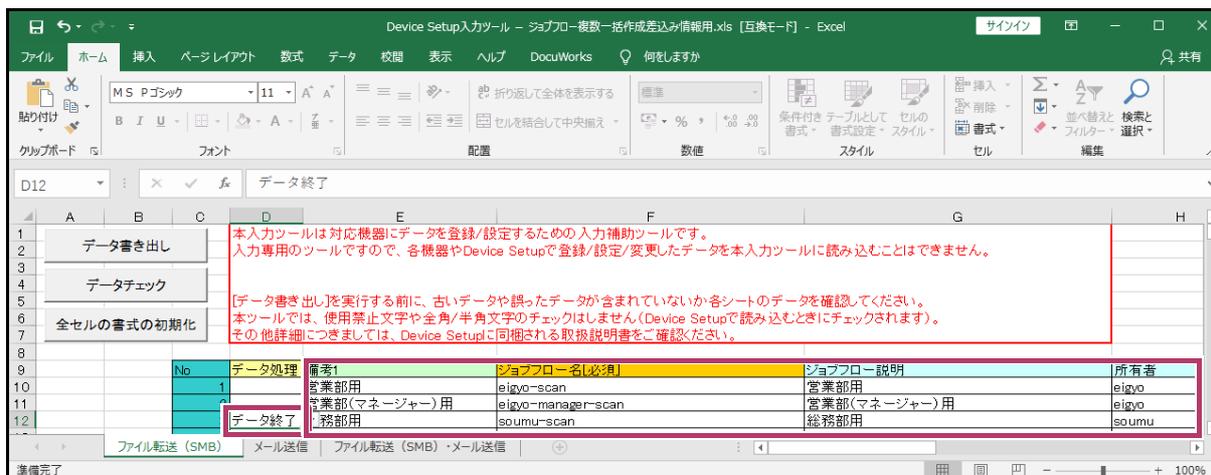
補足

- ・ Device Setup 入力ツールはマクロを使用しています。このツールを利用するには、Microsoft Excel のセキュリティレベルを [中] 以下にする必要があります。[中] の場合はマクロの実行を確認するメッセージが表示されますので、[マクロを有効にする] をクリックします。
- ・ 「Device Setup 入力ツールの利用方法.txt」 をダブルクリックすると、Device Setup 入力ツールの補足情報や、制限事項が表示されます。

参照

Device Setup 入力ツールが対応している Excel のバージョンについては、「必要なシステム環境」(P.18) を参照してください。

3. 使用するシートを選択し、作成するジョブフローの差し込み情報を入力します。1行につき1つのジョブフローの転送先情報を設定します。ジョブフローの差し込み情報は、最大で1000件まで入力できます。入力終了したら、最後に入力した行の「データ処理」列で、「データ終了」を選択します。



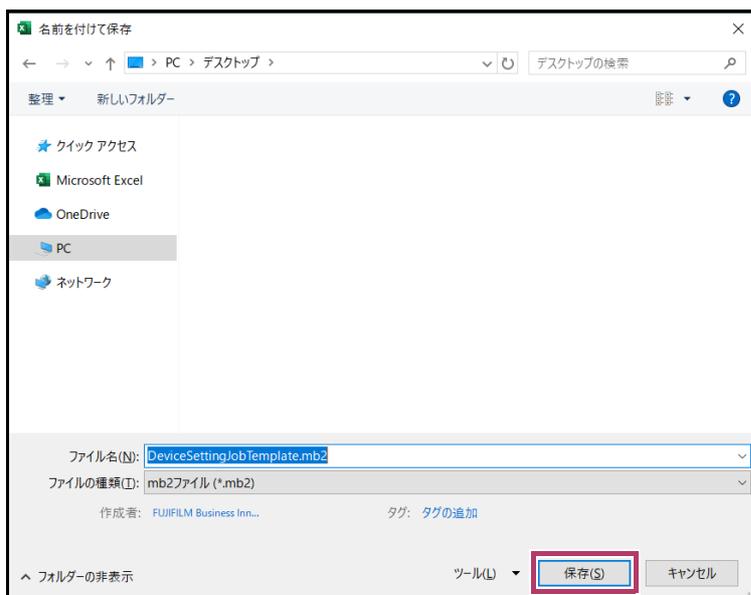
「データチェック」をクリックすると、それまで入力したセルの内容が正しいかどうかをチェックできます。ただし、手順4で「データ書き出し」をクリックしたときも、同じチェックが実行されます。



各セルに入力する内容については、見出しのセルをクリックすると表示されるヘルプを参照してください。

4. 「データ書き出し」をクリックします。
このとき、セルの入力内容がチェックされます。内容に誤りがある場合は、エラーのセルが強調され、エラーメッセージが表示されます。
正しい値を入力してから、再度「データ書き出し」をクリックします。
内容が正しい場合は、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。

5. ファイル名と保存先を指定して、「保存」をクリックします。



「データの書き出し」メッセージが表示されます。

6. [OK] をクリックします。

指定した場所に、拡張子「mb2」（Device Setup 独自のフォーマット）の差し込み情報ファイルが作成されます。

あらかじめ用意されているブックは、上書き保存できません。入力した内容を保存するには、[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] を選択し、名前を指定して保存します。



Device Setup のインストール先フォルダーとは別の場所にある、アクセスできるユーザーを限定したフォルダーに保存してください。

7. [ファイル] メニューから、[閉じる] を選択します。

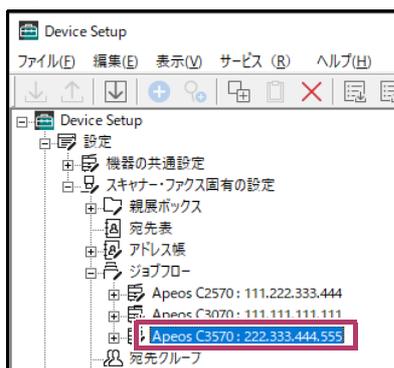
Device Setup 入力ツールが終了します。

Device Setup で一括作成を実行する

Device Setup でジョブフローの一括作成を行うには、ジョブフローの元になるジョブフローファイルを選択し、さらに、Device Setup 入力ツールで書き出した差し込み情報ファイルを読み込みます。

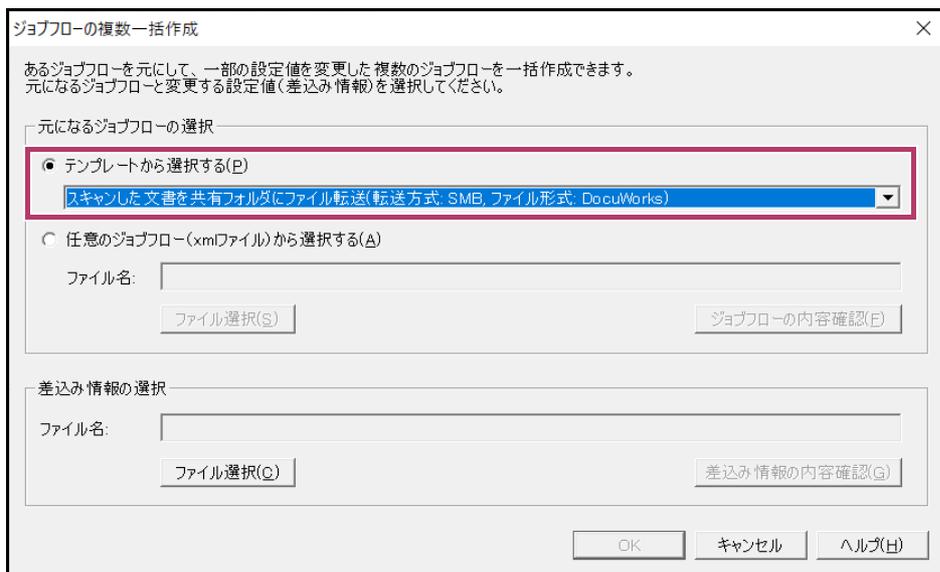
ここでは、「スキャンした文書を共有フォルダにファイル転送（転送方式：SMB、ファイル形式：DocuWorks）」のテンプレートを使用する例を説明します。

1. ツリービューで、[設定] > [スキャナー・ファクス固有の設定] > [ジョブフロー] の順に展開し、機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [ジョブフローの複数一括作成] を選択します。 [ジョブフローの複数一括作成] ダイアログボックスが表示されます。

3. [元になるジョブフローの選択] から、[テンプレートから選択する] を選択します。次に、[▼] をクリックして、[スキャンした文書を共有フォルダにファイル転送(転送方式: SMB、ファイル形式: DocuWorks)] を選択します。



補足

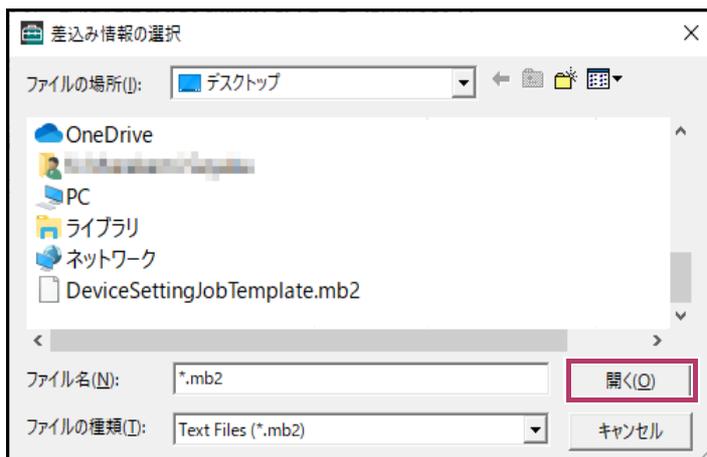
任意のジョブフローファイルを選択する場合は、[任意のジョブフロー (xml ファイル) から選択する] を選択します。次に、[ファイル選択] をクリックして、保存した場所からファイルを選択します。



参照

任意のジョブフローとして選択できるジョブフローの条件については、[任意のジョブフローから選択する] (P.143) を参照してください。

4. [差込み情報の選択] から、[ファイル選択] をクリックします。
[差込み情報の選択] ダイアログボックスが表示されます。
5. 前項で差し込み情報ファイルを書き出した場所を参照します。



差し込み情報ファイル (拡張子は「mb2」) を選択し、[開く] をクリックします。[差込み情報の内容確認] ダイアログボックスが表示されます。

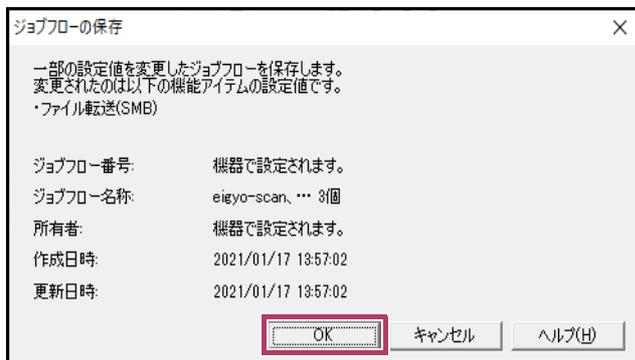
6. 作成するジョブフローとして、誤った情報がないか確認します。
確認したら、[はい] をクリックします。



[ジョブフローの複数一括作成] ダイアログボックスに戻ります。

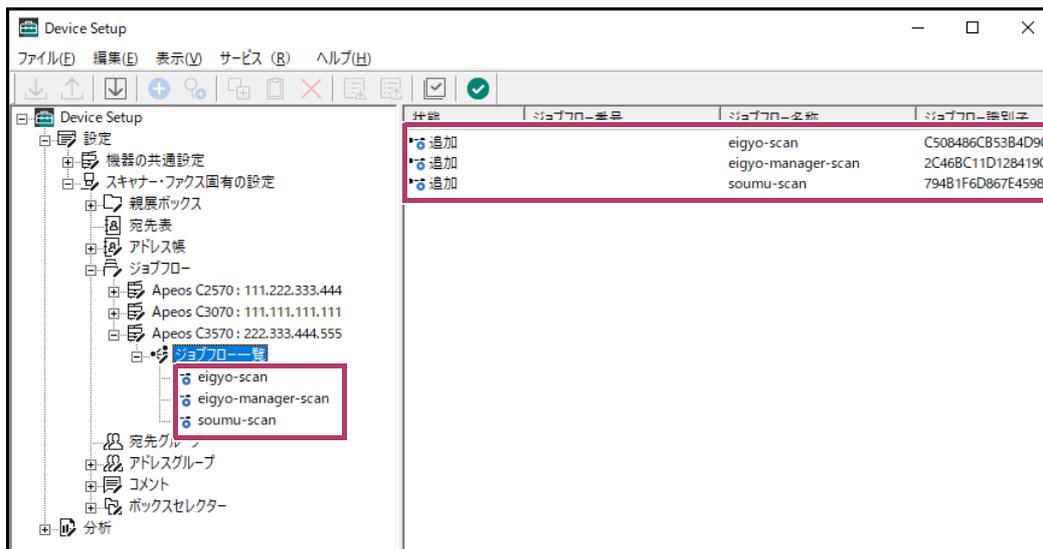
7. [OK] をクリックします。
[ジョブフローの保存] ダイアログボックスが表示されます。

8. [OK] をクリックします。



確認のメッセージが表示されます。

9. [OK] をクリックします。



選択した機器に、ジョブフローが一括作成されます。

📖 参照

この時点では、ジョブフローは機器に設定されていません。必要に応じて、機器に参照設定してください。設定方法については、「設定内容を機器に反映する」(P.100)を参照してください。

ジョブフローについての補足事項

ここでは、ジョブフローについての補足事項を説明します。

ジョブフローを利用できる機器

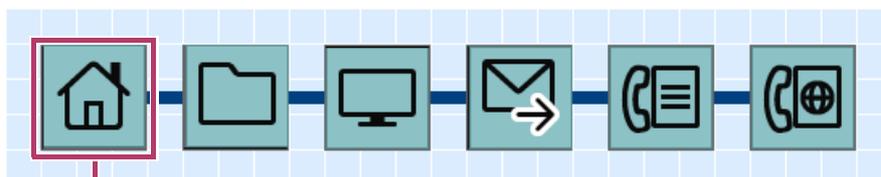
📖 参照

ジョブフローを利用できる機器の機種については、Readme.txt を参照してください。

ジョブフローに追加できる機能アイテムの数

機能アイテムの数は、操作パネル機能アイテムを除いて 31 個までです。

操作パネル機能アイテムは、ジョブフローの起点を表し、必ずジョブフローの先頭にあります。追加や削除もできません。



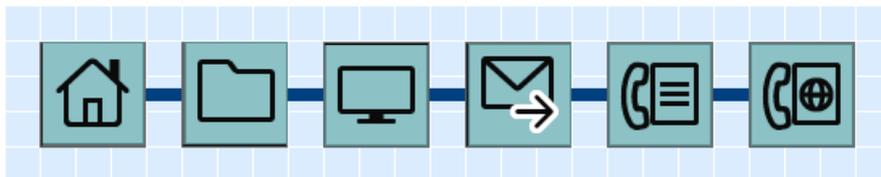
操作パネル機能アイテム

ジョブフローの逐次処理と並列処理

ジョブフローの処理の種類は、次のとおりです。

逐次処理

一列に配置されたジョブフローを「逐次処理」といいます。

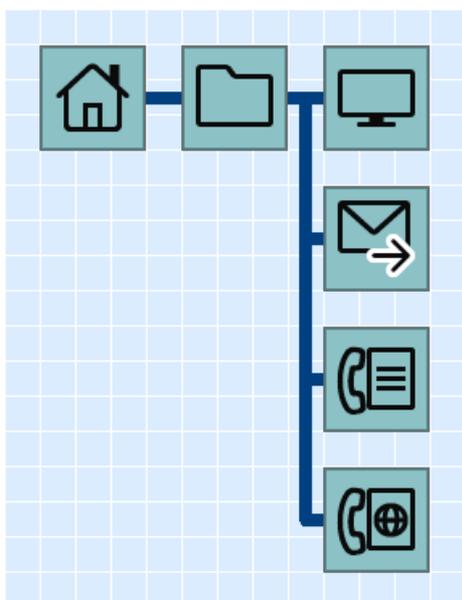


逐次処理では、処理の実行について次の特長があります。

- 前の処理が完了してから、次の処理が開始されます。したがって、機能アイテムの順序どおりに処理が実行されます。
- ジョブフローの途中の処理がエラーになると、それ以降の処理は中断されます。

並列処理

分岐したジョブフローを「並列処理」といいます。



並列処理は、ジョブフローの中で 1 か所だけ作れます。また、並列処理のうしろには機能アイテムを追加できません。並列処理では、処理の実行について次の特長があります。

- 処理が実行される順序は決まっています。
- ジョブフローの中でどれかの処理がエラーになると、残った処理は中断されます。

補足

エラー通知を設定したジョブフローの場合は、逐次処理、並列処理とも、ジョブフローの中でどの処理がエラーになった場合でも、残った処理は実行されます。エラー通知機能の詳細については、ヘルプを参照してください。

ジョブフローが正しく実行されなかった場合

ジョブフローが正しく実行されなかった場合は、次のようにして原因を調べます。

- ジョブフローエディターでジョブフローの設定を表示し、ファイル転送先の PC、ユーザー名、メールアドレス、ファクス番号などが正しいか確認します。ただしジョブフローに設定したパスワードは、表示する方法がありません。
- 機器のジョブ確認画面で、ジョブのエラーコードを調べます。

補足

- ・ Internet Services のジョブ画面にも、ジョブの実行結果とエラーコードが表示されます。
- ・ 機器でプリントするエラー履歴レポートでも、エラーコードを確認できます。

参照

- ・ 機器でエラーを調べる方法については、機器のマニュアルを参照してください。
- ・ トラブルシューティングについては、「ジョブフローサービスのトラブル」(P.161) を参照してください。

ジョブフロー失敗時の再送信機能

ファイル転送、メール送信、またはインターネットファクス送信が失敗した場合に、再度送信を試みるかどうかを設定できます。

1. 再送信を設定する機能アイテムをクリックします。ここでは、例としてファイル転送機能アイテムをクリックします。
2. 属性編集エリアの設定値タブで、次のように設定します。

属性名	値
機能名称	ファイル転送
転送方式	SMB
転送先	
保存場所	
ログイン名	
パスワード	
保存方法	名前自動生成
ファイル名	
出力ファイル形式	DocuWorks
セキュリティー	なし
署名	実行時の本体設定
送信失敗時の再送信	する
再送信回数	1
再送信間隔(秒)	60

1. [送信失敗時の再送信]：[する] を選択します。
2. [再送信回数]：再送信を試みる回数を設定します。1 回から 5 回までの範囲で設定できます。
3. [再送信間隔 (秒)]：再送信の間隔を、秒単位で設定します。30 秒から 300 秒までの範囲で設定できます。

付録

暗号化されたパスワードについて

一部の機種では、ユーザー情報や親展ボックスなどのパスワードを暗号化して Device Setup に送信できます。パスワードを暗号化することで、ネットワーク上の盗聴や第三者からのパスワードの参照を防止できます。

ここでは、暗号化されたパスワードを、Device Setup がどのように扱うのかについて説明します。

暗号化されたパスワードを取得できる機種

機器で暗号化されたパスワードを Device Setup で取得できる機種については、Readme.txt を参照してください。

取得できるパスワードの種類

Device Setup で、暗号化されたまま取得できるパスワードの種類は、次のとおりです。

サービス	パスワードの種類
基本情報	・ POP3 サーバー設定のパスワード ・ SMTP サーバー設定のパスワード
アクセス制限	・ ユーザーのパスワード ・ 外部認証の、ゲストのパスワード
親展ボックス	親展ボックスのパスワード
宛先表 / アドレス帳	・ ファクスおよび IP ファクス (SIP) 設定の、親展ボックスの暗証番号 / パスワード ・ ファクスおよび IP ファクス (SIP) 設定の、F コード通信のパスワード ・ サーバー設定の、ログインユーザーのパスワード

パスワードの取得と設定

暗号化されたパスワードを機器から取得する場合と、取得したパスワードを Device Setup から機器に設定する場合の動作について説明します。

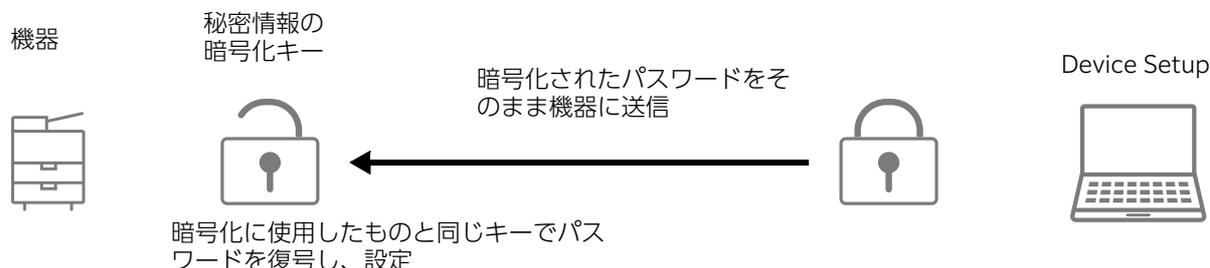
パスワードの取得

機器は、秘密情報の暗号化キーを使ってパスワードを暗号化し、送信します。Device Setup は、暗号化されたパスワードを取得します。



パスワードの設定

暗号化された状態で機器から取得したパスワードは、暗号化されたまま機器に送信されます。機器は、パスワードを暗号化したときと同じキーを使って、パスワードを復号します。秘密情報の暗号化キーが変更された場合は、パスワードを復号できなくなるため、機器に設定できません。



補足

- ・パスワードを暗号化されたまま送信できるのは、Device Setup でパスワードを変更していない場合です。
- ・復号とは、暗号化する前の状態に戻すことです。

パスワードの編集

Device Setup でパスワードを編集するには、各ダイアログボックスにある [パスワード編集] をクリックします。[パスワード] と [パスワードの確認] に、パスワードを入力できるようになります。パスワードが暗号化されている場合は、[パスワード] の右側に錠のマークが表示されます。[パスワードの編集] をクリックしてパスワードを変更すると、錠のマークは消えます。

親展ボックスの編集/表示

親展ボックス番号(S): [1] [1~200]

親展ボックス名称(D): 月報

所有者(O): 指定なし

パスワード[最大20桁](P): ***** [錠のマーク] **パスワード編集**

パスワードの確認[最大20桁](Q): *****

アクセス制限(L): 常時

関連付けられたジョブフロー(J): なし

ジョブフローを自動で実行する(E)

文書取り出し後に削除する(D)

保存期間経過文書を自動で削除する(I)

OK キャンセル 機器に設定 ヘルプ(H)

属性のコピーとパスワードについて

パスワードを取得できる機器のユーザー情報、親展ボックス、宛先表 / アドレス帳などをコピーし、別の機器に貼り付ける場合、コピー先の機種によって、貼り付けるパスワードの内容が異なります。

コピー先がパスワードを取得できる機種の場合

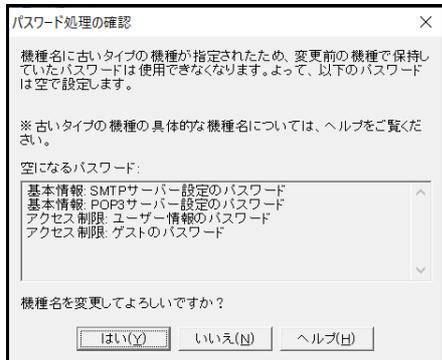
暗号化されたパスワードがそのまま貼り付けられます。ただし、機器に設定できるのは、秘密情報の暗号化キーが同じ場合です。

コピー先がパスワードを取得できない機種の場合

パスワードは空の状態貼り付けられます。パスワードを再度設定してください。

機種の変更とパスワードについて

機器の識別情報を変更する操作で、パスワードを取得できる機種から取得できない機種に変更すると、[パスワード処理の確認] ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスのメッセージを確認し、パスワードを空に設定して機種を変更するか、または機種の変更を中止するかを選択してください。



機種を変更した場合は、パスワードは空の状態に設定されます。パスワードを再度設定してください。

秘密情報の暗号化キーを変更する

機器は、秘密情報の暗号化キーを使ってパスワードを暗号化し、Device Setup に送信します。また、暗号化されたパスワードを Device Setup から設定する場合、機器はパスワードを暗号化したときと同じキーを使って、パスワードを復号します。秘密情報の暗号化キーは、Device Setup で変更できます。

秘密情報の暗号化キーを変更するときの注意事項

秘密情報の暗号化キーが変更された場合、機器はパスワードを復号できなくなります。その場合、暗号化されたパスワードを含む属性（ユーザー情報、親展ボックス、宛先表 / アドレス帳など）を、機器に設定できません。

暗号化キーを変更したために、暗号化されたパスワードを含む属性を機器に設定できなくなった場合は、変更前の暗号化キーを機器に設定し直します。秘密情報の暗号化キーを変更する場合は、変更前と変更後のキーを覚えておいてください。

また、Device Setup に保存したままで機器には未設定の属性がある場合は、暗号化キーを変更する前に、機器に設定してください。



補足

秘密情報の暗号化キーをはじめて変更する場合、変更前の暗号化キーは「工場出荷時の暗号化キー」になります。工場出荷時の暗号化キーについては、機器のマニュアルを参照してください。

設定情報ファイルを書き出す・読み込むときの注意事項

秘密情報の暗号化キーを変更すると、設定情報ファイルの書き出しと読み込みにも影響があります。変更前の設定情報ファイルのうち、暗号化されたパスワードを含む属性（ユーザー情報、親展ボックス、宛先表 / アドレス帳など）を、機器に再設定できなくなります。この場合は、上記と同様に、変更前の暗号化キーを機器に設定し直します。そのあと、設定情報ファイルを機器に再設定します。



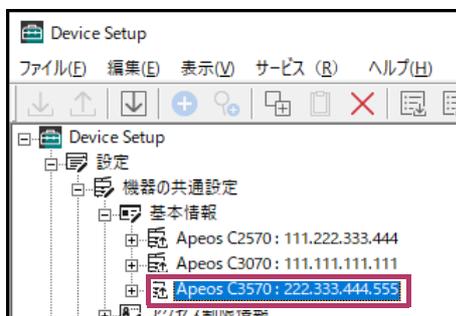
参照

設定情報ファイルの書き出し・読み込みについては、「6 Device Setup の設定情報を書き出す / 読み込む」(P.102)を参照してください。

秘密情報の暗号化キーを変更する

秘密情報の暗号化キーを、Device Setup から変更できます。秘密情報の暗号化キーを、機器から取得することはできません。

1. ツリービューで、[設定] > [機器の共通設定] > [基本情報] の順に展開し、設定する機器を選択します。



2. [サービス] メニューの [秘密情報の暗号化キーの設定] を選択します。
[秘密情報の暗号化キーの設定] ダイアログボックスが表示されます。

3. 暗号化キーを設定します。



4. [機器に設定] をクリックします。
設定を確認するダイアログボックスが、表示されます。

5. [はい] をクリックします。
機器に設定内容が反映されます。



補足

秘密情報の暗号化キーは、[編集] メニューの [機器に属性値を設定] を選択しても、機器に反映されません。
[秘密情報の暗号化キーの設定] ダイアログボックスで設定してください。

トラブルシューティング

ここでは、Device Setup の使用に際して、なんらかのトラブルが発生した場合に想定される原因、および対処方法について説明します。

Device Setup を起動できない

トラブル内容	原因	対処方法
起動時にパスワードを入力すると、次のエラーが表示されます。 「認証できませんでした。」	パスワードが間違っています。	正しいパスワードを入力してください。インストール直後のパスワードは、[x-admin] です。 パスワードを変更したあとにわからなくなった場合は、Device Setup をアンインストールしてから、再度インストールしなおしてください。  参照 「Device Setup をアンインストールする」(P.25) と 「Device Setup を新規にインストールする」(P.21)
起動時に、次のエラーが表示されません。 「管理者権限が必要です。」	管理者権限がありません。	Administrators グループのユーザーで PC にログオンし直してから、Device Setup を起動してください。
起動時に次のエラーが表示されます。 「バージョンアップ前のジョブフローにはジョブフロー識別子がないため、親展ボックスとジョブフローを関連付けることができません。よって、親展ボックスとジョブフローを関連付ける属性値は、次のようになります。 ・「関連付けられたジョブフロー」は「なし」になります。 ・「ジョブフローを自動で実行する」のチェックは「オフ」になります。 よろしいですか？ 「いいえ」をクリックすると、Device Setup を終了します。」	ジョブフローに識別子がないので、親展ボックスとジョブフローの関連付け情報を、新しいバージョンの Device Setup に引き継げません。	CentreWare Easy Admin 2.0.0/2.0.1 で作成したジョブフローには、識別子がありません。 「はい」を選択し、Device Setup を起動したあと、再度機器から属性値を取得してください。その後、ジョブフローエディターから、識別子がないジョブフローを開いて保存すると、識別子が設定されます。 次に、リストビューで親展ボックスをダブルクリックして、[親展ボックスの編集 / 表示] ダイアログボックスを開きます。[関連付けられたジョブフロー] で、ジョブフローを選択してください。

機器が見つからない

トラブル内容	原因	対処方法
機器を追加するために検索しても、機器がネットワーク上で見つかりません。	機器が Device Setup に対応していません。	Device Setup の各サービスに対応していない機種は、そのサービスに追加できません。 対応機種については、Readme.txt を参照してください。

トラブル内容	原因	対処方法
機器を追加するために検索しても、機器がネットワーク上で見つかりません。	機器が Device Setup をインストールした PC とは別のサブネットにあります。	機器が別のサブネットにある場合は、機器を検索する時にサブネットアドレスを指定する必要があります。[機器の追加-検索条件の設定] ダイアログボックスで [検索条件] をクリックして、検索するサブネットアドレスを指定してから、再度機器を検索してください。  参照 「ネットワーク内の機器を検索して登録する」(P.32) の手順 4
	機器の設定が正しくありません。	機器のネットワークの設定を確認してください。  参照 「機器と通信するために必要な設定」(P.19)
	機器の電源が入っていません。	機器の電源を入れて 2 分ほど待つから、再度機器を検索してください。お使いになる機器の構成によっては、2 分以上時間がかかる場合があります。
検索するサブネットアドレスを指定して検索しても、機器がネットワーク上で見つかりません。	ネットワーク機器の設定によって、機器検索で使用する通信が禁止されています。	別のサブネットへのブロードキャスト通信を許可するか、機器の検索を使用せず 1 台ずつ登録してください。

機器から属性値を取得・設定できない

トラブル内容	原因	対処方法
属性値を取得・設定しようとする、エラーメッセージが表示されます。	機器の機械管理者 ID、またはパスワードと、Device Setup 側の設定が一致していません。	機器側で、機器の機械管理者 ID やパスワードが変更されている可能性があります。[編集] メニューの [機器との通信設定] を選択して表示される [機器との通信設定] ダイアログボックスで、Device Setup で指定している機械管理者 ID とパスワードを、機器側の設定に合わせてください。  参照 「機器との通信方法を設定する」(P.37)

トラブル内容	原因	対処方法
属性値を取得・設定しようとする、エラーメッセージが表示されます。	Device Setup で設定した機種名、またはソフトウェアバージョンが、実際の機器と異なります。	Device Setup で、属性値を取得・設定する機器を選択します。[編集]メニューから、[機器の機器別情報の変更]を選択すると表示される[機器の識別情報の変更]ダイアログボックスで、正しい機種名とソフトウェアバージョンを設定してください。 機種のソフトウェアバージョンは、機器の操作パネルで確認できます。[機械状態]画面で[機械情報]を選択し、[ソフトウェアバージョン]を確認してください。または機器の「機能設定リスト」を出力して確認することもできます。
	機器の設定が正しくありません。	機器のネットワークの設定を確認してください。  参照 「機器と通信するために必要な設定」(P.19)
	機器が処理中です。	機器の処理が終了してから、再度操作してください。
	機器の電源が入っていません。	機器の電源を入れて2分ほど待ってから、再度操作してください。お使いになる機器の構成によっては、2分以上時間がかかる場合があります。
	機器から属性値を取得したときに設定されていた秘密情報の暗号化キーと、現在機器に設定されているキーが異なります。秘密情報の暗号化キーが変更された可能性があります。	機器に設定されている秘密情報の暗号化キーを、変更前のキーに戻してください。  参照 「秘密情報の暗号化キーを変更する」(P.154)
Device Setup から機器に属性値を設定、または削除をしたときに、機器の操作パネルに、次の趣旨のメッセージが表示され、機器を再起動する以外の操作ができなくなりました。 「外部機器からの操作で登録データが更新されたため、現在の設定をリセットする必要があります」	機器の操作パネルが使用中です。	機器を再起動してください。Device Setup から機器に属性値を設定したり、削除したりする場合は、機器の操作パネルを使用していないときに操作してください。

トラブル内容	原因	対処方法
基本情報以外（宛先表など）の情報が取得できない。	Device Setup、または機器側の設定が正しくありません。	<p>Device Setup で情報が取得できない場合は、次のことを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Device Setupとの通信に必要なポート（ [SNMP] ポートの [UDP] 、 [SOAP] ポート、 [インターネットサービス] ポート）が機器側で起動していること ・ Device Setup に、機器側と同じ機械管理者 ID とパスワードが設定されていること ・ Device Setup に、機器側と同じ SMNP/SOAP のポート番号が設定されていること ・ Device Setup に、機器側と同じ SMNP v1/v2 のコミュニティ名、または SNMP v3 の設定がされていること ・ Device Setup を使用している PC にインストールされているセキュリティソフトのファイヤーウォール設定で、デバイス設定ツールで使用しているポートがブロックされていないこと

基本情報サービスのトラブル

トラブル内容	原因	対処方法
[その他の詳細な設定] が開きません。	機器の「インターネットサービス (HTTP)」ポートが起動していません。	機器側で、「インターネットサービス (HTTP) ポート」を起動していることを確認してください。ポートの起動方法については、機器のマニュアルを参照してください。

アクセス制限情報サービスのトラブル

トラブル内容	原因	対処方法
[ユーザー情報一覧] に、ユーザーを追加できません。	機器の認証 / 集計情報の設定が正しくありません。	<p>認証・集計機能を使うには、[認証 / 集計情報の設定] ダイアログボックスで、認証・集計の運用を行う設定にしてください。</p> <p> 参照 「機器に認証 / 集計情報を設定する」 (P.108)</p>
	NVM (機器の不揮発性メモリー) に保存できるユーザー数を超過しています。	機器の認証形式が [ネット認証]、[認証しない / ネット集計]、または [本体認証 / ネット集計] の場合、[認証 / 集計情報の設定] ダイアログボックスで、[認証情報の保存先] を [ハードディスク] に変更してください。

トラブル内容	原因	対処方法
[ユーザー情報 / 利用制限情報の読み込み] メニューがグレーアウトになっているので、一括設定ファイルを Device Setup に読み込めません。	機器の認証 / 集計情報の設定が正しくありません。	一括作成ファイルを Device Setup に読み込む場合は、機器の認証形式が [本体認証]、[本体認証 / ネット集計]、[ネット認証]、[本体認証 / ネット集計]、または [認証しない / ネット集計] に設定されている必要があります。 機器を選択した状態で、[サービス] メニューの [認証 / 集計情報の設定] を選択して、設定してください。  参照 「機器に認証 / 集計情報を設定する」(P.108)
[ユーザー情報 / 利用制限情報の読み込み] で一括設定ファイルを読み込むと、次のエラーが表示されます。「無効な属性がユーザー情報 / 利用制限ファイルに指定されています。」	機器の認証 / 集計情報の設定が正しくありません。	「Device Setup 入力ツールユーザー情報・利用制限用.xls」のシートから作成した一括作成ファイルを Device Setup に読み込む場合、機器の認証形式もシートの形式に合わせて、[本体認証]、[本体認証 / 本体集計]、[ネット認証]、[本体認証 / ネット集計]、または [認証しない / ネット集計] に設定する必要があります。 機器を選択した状態で、[サービス] メニューの [認証 / 集計情報の設定] を選択して、設定してください。  参照 「機器に認証 / 集計情報を設定する」(P.108)
アクセス制限の設定を有効にして機器に設定したら、機器へのアクセスがどこからもできなくなりました。	受付 IP アドレスが機器に設定されていません。	機器の操作パネルで、アクセス制限の設定を無効にしてください。なお、受付 IP アドレス制限を有効にする前に、必ず受付 IP アドレスを追加してください。受付 IP アドレスがない状態で受付 IP アドレス制限を有効にすると、TCP/IP を使った機器へのアクセスがどこからもできなくなります。

親展ボックスサービスのトラブル

トラブル内容	原因	対処方法
ジョブフローを親展ボックスに関連付けられません。	ジョブフローが正しく指定されていません。	リストビューでジョブフローを関連付ける親展ボックスをダブルクリックします。[親展ボックスの編集 / 表示] ダイアログボックスの、[関連付けられたジョブフロー] で、ジョブフローを選択してください。  参照 「親展ボックスを設定する」(P.140)

トラブル内容	原因	対処方法
ジョブフローを親展ボックスに関連付けられません。	親展ボックスから始まるジョブフローが存在しません。	ジョブフローサービスで、親展ボックスから始まるジョブフローを作成してください。  参照 「親展ボックスから始まるジョブフローを作成する」(P.134)
	Easy Admin 2.0.0/2.0.1 で作成したジョブフローなので、識別子がありません。	Easy Admin 2.0.0/ 2.0.1 で作成したジョブフローには識別子がありません。そのため、Device Setup にバージョンアップしたときに、ジョブフローと親展ボックスとの関連付け情報はなくなりました。 この場合は、ジョブフローエディターでジョブフローを開いて、保存し直してください。 次に、[親展ボックスの編集 / 表示] ダイアログボックスでジョブフローを関連付けてください。

宛先表 / アドレス帳サービスのトラブル

トラブル内容	原因	対処方法
宛先表 / アドレス帳サービスで、機器への登録に失敗します。	宛先表 / アドレス帳拡張キットが機器に装着されていない状態で、登録可能な件数以上の宛先を登録しようとしています。	宛先表 / アドレス帳拡張キットを購入してください。 機器に登録可能な件数については、機器のマニュアルを参照してください。

ジョブフローサービスのトラブル

トラブル内容	原因	対処方法
作成したジョブフローが、機器の操作パネルに表示されません。	スキャンから始まるジョブフローがありません。	ジョブフローサービスで、スキャンから始まるジョブフローを作成してください。親展ボックスから始まるジョブフローは、機器の操作パネルには表示されません。  参照 「スキャンから始まるジョブフローを作成する」(P.124)
	機器で認証機能を使用しているが、ジョブフローの所有者以外のユーザーで機器にログインしています。	ジョブフローの所有者で、機器にログインしてください。
ジョブフローを実行するたびに、機器の操作パネルでパスワード、または暗証番号の入力を要求されます。またジョブフローを親展ボックスに関連付けて自動実行するジョブフローの場合は、処理が失敗します。	パスワード、または暗証番号を、操作パネルに表示する設定にしています。	ジョブフローエディターの [詳細] タブで、パスワードの [パネル表示] を [しない] に設定してください。 パスワード、または暗証番号を操作パネルに表示する場合、ジョブフローにあらかじめ設定されているパスワードは無効になります。

トラブル内容	原因	対処方法
設定情報ファイルに書き出されたジョブフローを Device Setup に取り込もうとすると、エラーメッセージが表示されます。	ジョブフローに互換性がありません。	ジョブフローの互換性がない機種から書き出されたジョブフローは、取り込めません。 ApeosPortの機種から DocuCentreの機種への互換性はありません。 ヘルプの「ジョブフローの互換性について」を参照してください。
ファイルから読み込んだジョブフローを実行すると、処理に失敗します。	ジョブフローにパスワード情報が設定されていません。	Device Setup からジョブフローをファイルに書き出すと、次のパスワード情報が削除されます。また、そのファイルを読み込んで、機器に設定すると、ジョブフローが動作しなくなります。 ・ファクス / 親展ボックスの暗証番号 / パスワード ・転送先 / 送信先のパスワード ジョブフローのファイルを読み込んでから、ジョブフローエディターで開き、パスワードや暗証番号を必要とする機能アイテムが含まれているか確認してください。 パスワードや暗証番号が必要な場合は、ジョブフローエディターで設定してください。
[ジョブフローの複数一括設定] がグレーアウトになっているので、差し込み情報ファイルを Device Setup に読み込めません。	機器が [ジョブフローの複数一括設定] 機能に対応していません。 ジョブフローを一括作成できる機種については、Readme.txt を参照してください。	[ジョブフローの複数一括設定] 機能に対応していない機種でジョブフローを作成する場合は、ジョブフローエディターで1つずつ作成してください。 または、ジョブフローを作成してから、それを必要な数だけコピーしたあと、1つずつジョブフローエディターで属性を編集してください。  参照 「ジョブフローを作成する」 (P.128)
異なる機種にジョブフローをコピー / 貼り付けしたいのですが、メニューから選択できません。	ジョブフローに互換性がありません。	ジョブフローの互換性がない機種には、ジョブフローをコピー / 貼り付けできません。 ApeosPortの機種から DocuCentreの機種への互換性はありません。 ヘルプの「ジョブフローの互換性について」を参照してください。

トラブル内容	原因	対処方法
<p>機器から、ファイル転送を含むジョブフローを実行すると、エラーになります。</p>	<p>ジョブフローの内容に誤りがあります。または、転送先の設定に問題があります。</p>	<p>機器のジョブ確認画面に表示されるエラーコードの内容を、機器のマニュアルで確認してください。ここでは、表示されることが多いエラーコードの例を紹介します。</p> <p>エラーコード：016-782 転送先の「ログイン名」や「パスワード」が間違っている可能性があります。</p> <p> 参照</p> <p>SMB 転送の場合 「共有名、ユーザー名、コンピュータ名を確認する」(P.126) 「ジョブフローを作成する」(P.128)の手順8の(4)と(5)</p> <p>FTP 転送の場合 「FTP サーバーを準備する」(P.135) 「ジョブフローを作成する」(P.136)手順7の(4)と(5)</p> <p>エラーコード：016-784</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SMB 転送の場合 共有フォルダーのアクセス許可の設定で、[変更]の[許可]にチェックが入っていないか、[拒否]の項目にチェックが入っている可能性があります。デフォルトでは読み取りの権限しかありません。そのため、機器側から共有フォルダーへの書き込みができません。共有フォルダーに、変更の権限を設定してください。 ・FTP 転送の場合 ファイルの格納先ディレクトリーのアクセス権が正しく設定されていない可能性があります。格納先ディレクトリーにログインするユーザーに、[書き込み]のアクセス権を設定してください。 <p> 参照</p> <p>「FTP サーバーを準備する」(P.135)</p>

トラブル内容	原因	対処方法
機器から、ファイル転送を含むジョブフローを実行すると、エラーになります。	転送先のコンピューター名、および DNS ホスト名を、名前解決できません。	ジョブフローに設定されている転送先のコンピューター名、および DNS ホスト名を IP アドレスに置き換えてください。 例：「¥¥ mypc01sample」⇒ ¥¥192.168.110.154¥sample」 このとき、IP アドレスは半角数字で入力します。  参照 SMB 転送の場合 「ジョブフローを作成する」(P.128) の手順 8 の (2) FTP 転送の場合 「ジョブフローを作成する」(P.136) の手順 7 の (2) 上記の対処をしたあとも解決しない場合は、機器と転送先との通信が可能かどうか、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
機器から、メールやインターネットファクスを含むジョブフローを実行するとエラーになります。	メールやインターネットファクスを使うための設定が正しくありません。	機器の設定を確認してください。  参照 「メール / インターネットファクス / ファイル転送を実行するために必要な設定」(P.19)
ジョブフローで送信したメールが届きません。(リターンメールが返されません。)	<ul style="list-style-type: none"> 指定したメールアドレスが存在しません。 送信時、または受信側のメールアドレスサイズの上限を超えています。 送信メールサーバー (SMTP サーバー) になんらかの問題が発生しています。 	ジョブフローに正しいアドレスを設定しているか確認してください。機器側でメール送信の上限データサイズを変更するか、スキャンの解像度を下げてください。 上記の対処をしたあとも解決しない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

集計データ分析サービスのトラブル

トラブル内容	原因	対処方法
集計データを収集しようとする、次のエラーが表示されます。 「集計データの収集をできませんでした。詳細は動作ログファイルを参照してください。動作ログファイルについては、ヘルプを参照してください。」	機器の設定が正しくありません。	機器のネットワークの設定を確認してください。  参照 「機器と通信するために必要な設定」(P.19)
	機器が処理中です。	機器の処理が終わるのを待ってから、再度操作を実行してください。
	機器の電源が入っていません。	機器の電源を入れて、しばらく待ってから再度操作をしてください。
	Device Setup をインストールした PC の、ハードディスクの空き容量が不足しています。	PC のハードディスクの空き容量を増やしてください。

トラブル内容	原因	対処方法
<p>集計データを収集しようとする、次のエラーが表示されます。 「集計データの収集をできませんでした。詳細は動作ログファイルを参照してください。動作ログファイルについては、ヘルプを参照してください。」</p>	<p>Device Setup をインストールしたフォルダー「(デフォルトは、(システムフォルダーのあるドライブ) : ¥Program Files (x86)¥FUJIFILM¥Device Setup¥Data Files¥Plugin¥DeviceAnalysisJob」以下のフォルダーやファイルに、書き込み権がありません。</p>	<p>左記のフォルダーやファイルに、書き込み権を設定してください。</p>

用語集

•Account ID

ネット認証 / 集計のときに有効になる、ユーザーの属性です。プロジェクトコードや部門コードなどを設定します。ApeosWare Management Suite を利用すると、Account ID ごとの集計や機器の利用制限ができるようになります。

•Administrators グループ

Microsoft Windows において、すべての操作に対して権限を持つ管理者グループです。

•ApeosWare Management Suite

富士フイルムビジネスイノベーションが提供する複合機、プリンターから、各種の出力管理ログを取得して、ドキュメントボリュームの管理、分析を行うソフトウェアです。

•Device Setup 入力ツール

Device Setup で親展ボックス、アクセス制限情報、宛先表 / アドレス帳、およびジョブフローを一括作成するために必要な設定ファイルを作成するツールです。

•FTP

TCP/IP を利用して、ある機器から別の機器にファイル転送するためのプロトコルです。

•Internet Services

富士フイルムビジネスイノベーションが提供するサービスです。TCP/IP 環境が利用できる場合に、Web ブラウザーを介して、機器の状態やジョブ状態の表示、設定の変更ができます。

•IPv4 アドレス (IPv4 形式の IP アドレス)

32 ビットの IP アドレスです。8 ビットごとにドットで区切り、各 8 ビットを 0 ~ 255 の 10 進数で表します。

•IPv6 アドレス (IPv6 形式の IP アドレス)

128 ビットの IP アドレスです。16 ビットごとにコロンで区切り、各 16 ビットを 4 桁の 16 進数で表します。

•IP ファクス (SIP)

インターネットまたは電話回線を経由し、SIP プロトコルを使用して送受信を行うファクスです。宛先の指定には電話番号、または SIPURI (例 :1111@example.com) を使用します。

•NVM (NV メモリー)

電源を切っても機器の設定内容を保持しておくことができる、不揮発性のメモリーです。

•POP

「Post Office Protocol」の略です。メールを保存しているサーバーから、メールを受信するためのプロトコルです。電子メールの受信で広く使用されています。

•SMB

Windows 間のネットワーク上で、ファイルやプリンターの共有などに使われるプロトコルです。

•SMTP

「Simple Mail Transfer Protocol」の略です。メールのサーバーから受け取った送信メールを、送信先のメールサーバーへ転送するためのプロトコルです。電子メールの送信で一般的に使用されています。

•SOAP

「Simple Object Access Protocol」の略です。XML をベースとして、ネットワーク経由でオブジェクト (一般的なコンピューターのデータやサービスなど) 間の通信に使用されるプロトコルです。

•SSL

ネットワーク上でデータを暗号化するために、Netscape 社が開発したセキュリティー機能です。

•User ID

機器のユーザーを識別するための ID です。

•アクセス制限

ユーザーごとに機器に認証・集計の設定をすることです。また、機器にアクセスする PC やメールアドレスを制限したりできます。

• 宛先表

短縮 / 登録番号と、宛先を保存した情報です。

• アドレス帳

宛先に属性を設定して保存した情報です。

• 一括作成ファイル

Device Setup で親展ボックス、宛先表 / アドレス帳、アクセス制限情報などを一括作成するときに使用する、Device Setup 入力ツールが書き出すファイルです。拡張子は、「mb3」～「mb10」です。

• インターネットファクス

一般のファクス通信のように電話回線（公衆回線や ISDN 回線）を経由しないで、企業内のネットワークやインターネットを経由して、メール（TIFF の添付文書）として送受信できるファクスです。

• 受付 IP アドレス

アクセス制限機能によって機器での受信を許可する、発信元の IP アドレスです。

• 外部認証

認証サーバーに登録したユーザー情報を使って、ユーザーを認証することです。Device Setup、機器の操作パネル、および Internet Services からは、ユーザー情報を管理できません。

• コメント

インターネットファクスの送信シートに使用します。

• コンテキストメニュー

ツリービューでサービスにポインターを合わせ、マウスの右ボタンをクリックすると、表示されるメニューです。

• サービス

Device Setup から提供される、機器の管理機能を持つプラグインモジュールです。

• 差し込み情報ファイル

Device Setup 入力ツールで、ジョブフローを一括作成するために書き出したファイルです。拡張子は「mb2」（Device Setup 独自のフォーマット）です。

• 時刻サーバー（NTP サーバー）

GPS や原子時計などからネットワークを介して正しい時刻を得て、内部時計を正しく調整しているサーバーのことです。NTP プロトコルで接続できる時刻サーバーがあれば、Device Setup からそれを参照して、時刻を合わせられます。

• 集計

機器の各機能の利用状況を、ユーザーごとに管理する機能です。

• 集計データ

機器の稼動状態を集計したデータです。集計する項目には、印刷総ページ数、ファクスとインターネットファクスの送受信面数、スキャン回数、プリントとコピーの枚数などがあります。

• 受信許可ドメイン

アクセス制限機能によって機器での受信を許可または拒否する、メール発信元のドメインです。

• ジョブフロー

スキャン、プリント、メール送信、ファクス送信などの、機器で行う処理（ジョブ）の流れを記述した情報です。

• 親展ボックス

スキャン文書やファクス受信文書を保管するために、機器に備えられた蓄積領域です。

• 親展ボックス番号

スキャン文書やファクス受信文書を保管する親展ボックスに、割り振られた番号です。

• 設定情報ファイル

Device Setup で動作するサービス（親展ボックス、宛先表 / アドレス帳など）の属性や、登録した機器を保存するファイルです。情報はサービスごとに保存されます。拡張子は「mb1」（Device Setup 独自のフォーマット）です。

• 属性

機器が持つ情報です。具体的には、機器の設定情報（起動しているポートや管理者情報など）や登録情報（ユーザー、親展ボックス、宛先表 / アドレス帳、ジョブフローなど）があります。

• ツリービュー

Device Setup ウィンドウの左側の領域です。Device Setup のサービス、サービスが管理する機器や、機器の属性を、ツリー形式で表示します。ツリービューの最上位は [Device Setup] です。[+] [-] をクリックして、ツリーの展開と折りたたみができます。

• 名前解決

ネットワーク上でコンピューターや機器に割り当てられているコンピューター名やホスト名などの名前から、IP アドレスを割り出すことです。

• 認証

機器を利用できるユーザーを制限する機能です。機器を使用するときに、User ID とパスワード、または User ID の入力が必要になります。

• ネット集計

ユーザーごとの累積ページの確認などを、ApeosWare Management Suite で行うことです。Device Setup、機器の操作パネル、および Internet Services からは、集計結果を確認できません。

• 秘密情報の暗号化キー

機器によっては、宛先表 / アドレス帳や親展ボックスなどのパスワードを Device Setup で取得できます。パスワードは暗号化されて取得されます。この暗号化に使用するキーです。

• プロトコル

通信の手段などを定めた規格のことです。送信側と受信側で同じプロトコルを利用しないと通信できません。

• ボックスセクター

受信したファクスの文書を、相手の電話番号、自局の受信電話番号、リモート ID、または受信した回線ごとに親展ボックスに振り分けるサービスです。

• 本体集計

ユーザーごとの累積ページの確認などを、機器で行うことです。Device Setup、機器の操作パネル、および Internet Services から、集計結果を確認できます。

• 本体認証

機器に登録したユーザー情報を使って、ユーザーを認証することです。Device Setup、機器の操作パネル、および Internet Services から、ユーザー情報を管理できます。

• リストビュー

Device Setup ウィンドウの右側の領域です。Device Setup が管理する機器や、機器の属性を、リスト形式で表示します。